

この伝統を、超える未来を。



平成27年度文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

海外子会社の経営を担う 人材を養成する 大学院教育プログラム

2015(平成27)年度 成果報告書



関西大学

目 次

はじめに	2
1. 取組全体の概要	
1-1 背景	3
1-2 目的	3
1-3 意義	3
1-4 成果目標	4
1-5 内容・方法	5
1-6 実証・普及計画	11
1-7 産学の役割分担の明確化と産業界支援内容	12
1-8 評価体制及び継続性	12
2. プログラムの開発・実証活動	
2-1 プログラム開発にかかるPDCAサイクル	13
2-1-1 協議の場(KU産学官協働高度人材養成会議)	13
2-1-2 プログラム開発委員会	15
2-1-3 プログラム評価部会	15
2-2 開発プログラムの内容	17
2-2-1 シラバス作成(例)	17
2-2-2 実践基礎教育プログラム	18
2-2-3 専門教育プログラム	23
2-2-4 実践応用教育プログラム	31
3. プログラムに関する自己点検・評価活動	
3-1 授業実施にかかるPDCAサイクル	35
3-1-1 FD部会	35
3-1-2 プログラム運営部会	36
3-1-3 講座担当者説明会	37
3-2 プレ・ポストアンケート調査	38
3-2-1 能力指標 大カテゴリー【Ⅰ】～【Ⅵ】中カテゴリー①～⑫	38
3-2-2 春学期の分析結果と考察	38
3-2-3 秋学期の分析結果と考察	39
3-3 授業評価アンケート調査	42
3-3-1 概要	42
3-3-2 結果	44
3-4 授業に関するインタビュー調査	68
3-4-1 インタビュー結果と考察(春学期)	68
3-4-2 反転授業の要件	70
3-4-3 インタビュー結果と考察(秋学期)	70
4. プログラムの普及・広報活動	
4-1 フライヤーのリニューアル	73
4-2 Webサイトの充実	73
4-3 説明会の実施	74
4-4 公開FDワークショップ	76
4-5 公開シンポジウム	78
4-6 学会発表資料	85
4-6-1 日本教育工学会 発表資料	85
4-6-2 日本教育メディア学会 発表資料	89
5. 国内ヒアリング調査、プログラム開発、成果発表報告	
5-1 概要	94
5-2 目的	94
5-3 訪問先等	94
5-4 実務家教員との授業開発・リフレクション等に係る打ち合わせ	96
5-5 東南アジアの経済情勢、経営者教育等に係る情報収集及び研究成果発表	98
6. 次年度の課題	100

はじめに

文部科学省の2014（平成26）年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業において、関西大学が申請した取組「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」が採択されました。本事業の中では、2014（平成26）年度より2年半をかけてプログラムの開発を行い、2016（平成28）年度秋に「履修証明プログラム」として関西大学梅田キャンパスにて開講します。具体的には、本学大学院研究科が分野横断的に連携することによって、ASEAN子会社の経営をこれから担う人材に対し、ASEANにおける経済・経営等の社会科学からのアプローチに加えて、人文系科目としてASEAN地域の地理・歴史のような地域の根本的理解のための専門科目を提供することによって、高度な経営管理能力を有する人材を育成します。

これまで関西大学は「学の実化（じつげ）」、すなわち学理と実際との調和を学とし、高い専門的学識を修めつつ、その学識を実社会において役立てることのできる人材の育成に努め、商都大阪に位置する大学にふさわしい、社会の発展を力強く牽引する役割を担ってきました。2009（平成21）年に公表された長期行動計画では、この学是を現代的に捉えなおし、本学の使命を「考動力あふれる人材」の育成を目指し、それにふさわしい教育プログラムの開発実践に努めてきました。「考動力」の根底には、ふたつのプロセスが存在します。ひとつは、「豊かな教養」、「高度な専門知識・能力」の修得とともに、その知識を「グローバルな視点」で理解・再統合する能力、すなわち学び・考えるプロセスですが、それが本当の力になるためには、もう一つのプロセス、すなわち、本プログラムで言いますと、伝授・獲得されたその形式知を海外の現場でどのように活かすか、海外で想定される課題に個人が適切な解を見出して行動すること、すなわち実践するプロセスがあります。今回の事業で育成を目指している「海外子会社の経営を担う高度なリーダー」とは、まさにこのような「考動力」が不可欠といえるでしょう。

我が国が持続的な発展を遂げていくためには、社会人が学ぶ意欲を持ち続け、世界を相手に渡り合える能力や、未来を拓くイノベーションを創出する資質を獲得していかなければなりません。社会人が個人の専門性を追求するにあたり、産業界をはじめとする社会ニーズに対応した大学院レベルの高度な教育プログラムを大学が開発・提供することが必要です。

本学では、産業界等の多様なステークホルダーと密接に連携のうえ、社会人等の多様なニーズに対応した実践的で高度なプログラムを開発し、同時にICTを効果的に活用することで社会人が学びやすい学修環境を実現し、全国に学習効果の高い教育システムを普及させていく所存です。

平成28年5月

事業推進責任者

副学長（教育推進担当） 林 宏昭

1

取組全体の概要

1-1 背景

日本の国内市場は、少子高齢化の進展等により、今まで以上の大規模な発展を見込むことは困難な状況となっている。その打開策として海外市場が着目されているのに拠点を分散する戦略をとっており、好環境で成長余力のあるASEANへの関心が非常に高まっている。

ASEANは、6億人近い人口を有し、経済発展により2兆ドルを超えるGDPを有しているが、一人当たりGDPは3571米ドルと日本の12分の1以下にとどまっており、今後の発展が見込まれる地域である。外務省が行った「ASEAN7か国における対日世論調査(平成26年)」によると、ASEANの人たちは、日本について「友好関係



グラフ1：日本の対外直接投資（対東アジア主要国・地域）



グラフ2：日本の対外直接投資残高（年末）

（出典：目で見えるASEAN—ASEAN経済統計基礎資料（平成24年外務省アジア大洋州地域政策課）

かつ信頼できる国」であり、その科学技術や文化、自然等に対し高い関心があると答えている。また、アジアの発展に対する積極的役割としての期待と日本企業の進出に対する好意的な回答が9割以上を占める等、ASEANは日本からの進出を歓迎する親日的な地域である。さらに、グラフ1、2で示した「目で見えるASEAN—ASEAN経済統計基礎資料(平成24年外務省アジア大洋州地域政策課)」によれば、日本のASEANに対する直接投資は近年急増しており、平成23年に1兆5000億円を超え中国の1.5倍以上となっている。ASEANに対する日本の直接投資残高は8兆円を超え、中国以上の水準を維持しており、もともと日本企業との関連が深かった地域であることがわかる。

1-2 目的

日本企業は、進取の精神とバイタリティにあふれたASEAN等の新興市場の発展を取り込んで成長することが必要である。この地域の発展を取り込んで第2の成長を果たした日本企業はあるが、多くの企業ではいまだ十分にに取り込めていない。しかし、本来、高い技術力や満足度の高い製品を有する日本企業は、この新興市場を舞台に、発展と成長に与る可能性が非常に高いはずである。本事業では、当該問題を解決したいという、日本の親会社の経営層(社長等)や経済団体、公的機関等のニーズを受け、本学のシーズを基に、産学協働により教育プログラムを開発する。具体的には、ASEANに進出する企業の現地子会社で経営を担う出向予定者に対して、現地に関わる各種情報、地理歴史、経済情勢等に加え、経営に携わるための理論的、根本的かつ効果的な教育を行う。これにより、ASEANを基盤に企業の第2の発展を果たす原動力となる「考動力」あふれる高度な人材を養成する。

1-3 意義

日本からの進出企業は、ASEAN市場を基盤に第2の発展を果たすことができる可能性を有している。しかし、そこには下記に示すような課題がある。

一般社団法人日本経済団体連合会の「中小企業のアジア地域への海外展開をめぐる課題と求められる対応(平成25年5月)」において、中小企業が海外展開するにあたっての大きな課題として「①海外実務を任せられる人材の確保 ②現地従業員の管理職層への育成と定着 ③信頼できるビジネスパートナーの確保」の三点が指摘されている。また、中小企業海外展開支援関係機関連絡会議の「海外展開成功のためのリスク事例集(平成25年6月)」では海外進出の失敗事例が詳しく分析されている。そのことから、海外進出失敗の主な原因は、地域の特殊性や環境変化への対応の失敗であり、海外子会社を経営できる優秀な人材を確保できなかったということが分かる。

そこで、本事業を実施するにあたり、海外子会社の経営を担う人材の状況について、国内外の延べ32社に対し、インタビューにより実態調査を行った。

実態調査は、日本の親会社(ASEAN以外の国に進出している企業やASEANに進出を検討している企業も含む)の社長等の経営者を対象に、そのニーズを調査するとともに、教育プログラムで教育すべき教育内容や教育方法についてディスカッションを行った。加えて、ASEANに進出している子会社の経営層より、ASEANの経営にかかる実態把握と意識調査を行った。また、ASEANの経営動向、人材開発等に詳しい有識者(コンサルティング会社、調査機関等)より、ASEANに進出している企業の状況と経営の状況についての意見を聴取した。さらには、りそな総合研究所が主催する「アジア経営セミナー(現地子会社の経営層向けのセミナー、バンコクで開催)」に参加し、受講者等からも話を聞いた。

その結果、現地子会社のうち、ASEANにおける経済発展を取り込んで成長し、第2の発展を果たしている子会社の場合、その子会社の経営者はアグレッシブであり、①設備投資を含め迅速な経営判断ができる権限委譲が行われていること ②日本から持ち込んだ高い技術や満足度の高い製品をもとに、他のASEAN企業や欧米企業とも取引を行う等その国を基盤に発展していること ③現地従業員の教育と登用を行なっていること ④現地のニーズに応じた副業にも投資する等の地域貢献を行っていること等の特徴が見られた。

一方、多くの現地子会社の経営層は、ASEANの経済発展を自社に取り込めていないことに危機感をあまり有していない現状が見て取れた。彼らの視線は日本の親会社に向けており、日本の経営層からの指示に従うことが重要であり、現地子会社を経営するという権限も与えられていないし、発想もないことが、主要要因と考えられる。

このような現状に対して、日本の経営層(社長等)は、必ずしも満足していないことは明らかである。運転手付社用車や豪華な外国人向けアパート等、日本からの出向者の生活を整えるための多額の費用に見合った業務を行っていないと認識している一方、ASEANの子会社でリスクをあまりとりたくないため、権限委譲を進めておらず、現地子会社の経営層に多くを期待することもできないというジレンマを抱えていた。また、「現地化」ということで、現地従業員を教育して経営層に登用し、実質的に高コストの日本からの出向者を減少させ、利益に繋げるということが言われているが、その「現地化」が進まないことについても、不満を持っているようであった。経営者は、このような現状を打破し、ASEANを基盤とした第2の発展を果たすべく、子会社の経営層に経営にかかる能力をつけさせる必要性を強く認識しており、りそな総合研究所の「アジア経営セミナー」もそのようなニーズを受けたものであるといえよう。

今回実施した調査で明らかになったことは、「海外子会社の経営を担う人材を育成・確保して、成長地域の経済発展を自社の成長に繋げたい」という日本の経営層(社長等)からの強いニーズがあり、今後の成長分野ととらえることができる。また、大阪府、大阪商工会議所等へのインタビューにおいても、海外子会社の経営を担う人材の育成の必要性が意識されていることが分かった。このような結果から、本学のシーズを基に、産学協働による高度人材養成のための教育プログラムの開発には意義があるといえる。

1-4 成果目標

期待される活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)は以下に示す通りである。

○活動指標(アウトプット)

期待される活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)は以下に示す通りである。

○成果目標及び成果実績(アウトカム)

受講者がASEAN子会社の経営者となった人数

受講者が所属する企業のASEAN子会社の売上高伸び率

受講者が所属する企業のASEAN子会社の利益伸び率

受講者が所属する企業の売上高伸び率

受講者が所属する企業の利益伸び率

1-5 内容・方法

特別的教育課程等の開発〔修得すべき能力、教育内容(授業科目等)、教育方法、授業期間、総時間数・単位数、履修資格、成績評価方法・基準、修了要件、担当教員計画、ファカルティ・ディベロップメント〕、社会人向けの配慮

○特別的教育課程の開発

・修得すべき能力

本プログラムで養成されるべき人材は、単に目先の事象にかかるノウハウを持っているだけではなく、事象に対する理論的な背景についての根本的理解と、長期的なフィロソフィを有する経営者である。関西大学の特徴の一つに「人材育成に対する取り組み」がある。長期ビジョン(2008年制定)において「考動力」あふれる人材(自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する人材)の育成を掲げ、教育を行っている。このシーズを本プログラムに当てはめ、本プログラムで養成すべき人材を「海外子会社の経営を担う『考動力』あふれる高度な人材」とし、修得すべき能力を以下のとおり定義する。

- ① ASEANに関する幅広い知識と教養を有し、
- ② 現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係を築き、
- ③ 問題点をいち早く認知するとともに、
- ④ その問題点に対し、自らの頭で自主的によく考えて判断し、
- ⑤ 自らの責任で自律的かつ積極的に行動し、解決していくことで、
- ⑥ 会社を発展させていく能力。

なお、これらの能力を修得させることは、(i)ASEANでの大規模工場のマネジメント (ii)ASEANでの工場における設備投資の判断 (iii)ASEANでの労働問題等に対応 (iv)ASEANでの事業拡大及び新規営業を指揮 (v)ASEAN政府の法令規則等の改定及び経済情勢、政治情勢の変化に対応できる高度人材の育成につながる。

・教育内容(授業科目等)

【大学院修士レベル】

本プログラムで養成する「海外子会社の経営を担う『考動力』あふれる高度な人材」は、単に目先の事象にかかるノウハウを持っているだけではなく、事象に対する理論的な背景についての根本的理解と、長期的なフィロソフィが必要である。そのような人材を育てるためには、フィロソフィを持った大学院レベルの教育を展開し、専門教育プログラムにおいて理論を学習するとともに、実践基礎教育プログラム、実践応用教育プログラムにおいて実務に応じた演習を行い、問題点に対し、解決策を提示するのではなく、自分で考え行動することを修得させることが必要となる。

また、「新規性」のある試みとして、インストラクショナルデザインのスキルを持った専門人材を配置して、プログラム運営部会の教員とともに、実務家教員に対して、プログラムの構成、コンテンツの作成や授業の進め方等についての指導・助言を行い、その経験を教育に最大限結び付けるよう配慮することがあげられる。このことにより、講義や演習が教員の独りよがりになることなく、大学院レベルの内容を保つことを担保する。さらに、実務家教員の雇用が容易になるというメリットもある。

【教育プログラムの体系性】

日本では、経済産業省、中小企業庁の「中小企業経営力強化支援法」、「中小企業海外展開支援大綱」に基づき、日本企業の海外展開への支援が幅広く行われている。その一環として、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)、独立行政法人国際協力機構(JICA)、都道府県等の公的機関のみならず、多くの民間企業や団体により「海外人材の育成・確保」に関するセミナーや講習会等が開催されている。現地での長い経験をもとにしたノウハウを伝授するものや、かなり狭い範囲の特定テーマに関わる単発のプログラム等であり、非常に実務的かつ実践的な内容である。そして、ASEANで企業を経営するに当たり、このような知識は必要不可欠なものである。

一方、大学院レベルの教育は、フィロソフィを持った教育が行われ、受講生は基礎理論や考え方等を学習するが、必ずしも実務的・実践的とは言えない面がある。このように、両者は相互補完的であり、受講生は両者を受講することで、「理論的・根本的な思考を基盤としつつ、実践にも強く、応用可能な高度人材」像に近づくことができ、「海外子会社の経営を担う人材」を養成するプログラムとして完成することとなる。そのため、当プログラムの開発に当たっては、新しい試みとして、公的機関や民間企業等が提供する教育プログラムと補完的であることを意識して構成することとした。

具体的な教育プログラムによる授業科目は、下記の表のとおりである。「戦略経営」のように経営の基礎を学習する科目や、「ASEANの地理・歴史」のように地域の根本的理解のために必要な科目、「グローバル経済」「ASEAN経済」「ASEAN発展論」のように経営者としての見方が要求される科目、「海外子会社の経営者として必要な能力」「海外事業体(子会社)における経営者の役割・コンプライアンス体制」のように事例に基づいて経営者の見方を学ぶ科目等から構成されている。

本プログラムは、実践基礎教育プログラム⇒専門教育プログラム⇒実践応用教育プログラムと発展的に構成されている。「実践基礎教育プログラム」は、実務家教員による演習・講義であり、経営者としての基礎を学習する。「専門教育プログラム」は、大学教員あるいは専門性の高い実務家教員による専門的な講義であり、グループワークやディスカッションにより、教育効果の高い授業が行われるので、できる限り多数の科目を受講することが望ましい。「実践応用教育プログラム」は、実務家教員による演習であり、経営者の視点・考え方を学ぶこととなる。

これらの授業科目は、修得すべき能力を獲得させるのにふさわしいかどうか、受講者の評価、産業界からの要請、公的機関や民間企業等が提供する講義との補完性等を考慮して、随時見直される。また、実務家教員・大学教員の見直しを行い、発掘・登用を進めることにより、最も適切な教育内容が受講生に提供される。

表1 カリキュラム一覧表

授業科目（担当教員名）	授業概要	回数
実践基礎教育プログラム（6科目28回）		
異文化コミュニケーション（久保田 真弓）	「文化」「コミュニケーション」「価値観」「言語メッセージ」「非言語メッセージ」「宗教」の観点を主に諸現象について学ぶ。	8
経営者のためのシンキングチャートの活用（西尾 三津子）	経営に関する知識や情報、経験を頭の中で整理し視覚化させるために「シンキングチャート」を活用して、思考力を高めるための手立てとする。	4
経営戦略（吉田 史朗）	経営者としての戦略的な役割の中で、特に社員を引っ張る「リーダーシップ」を身につけること、「経営管理力」を発揮すること等に焦点を当てる。また、経営判断の基礎となる考え方として、戦略経営、マーケティング戦略、組織・運営戦略の3分野に関して、演習を通じて理解を深める。	4
マーケティング戦略（嶋 えりか）		4
組織運営戦略（屋代 徳文）		4
子会社経営で直面する課題（ケーススタディ）（仲本 利明）	子会社経営でよく直面する課題（人間関係、リスク管理、人事労務問題、子会社と親会社との関係等）について、ディスカッションを通じ、自分の問題としてその解決策を考える。	4
専門教育プログラム（12科目：48回）		
グローバル経済（宮本 勝浩）	ASEANを中心にして、経済の動きを客観的に把握、理解し、海外子会社を経営する上で必要な世界経済と進出先の国の経済の動向、将来を分析できる能力を、グループワークを通して身につける。	4
ASEAN経済（後藤 健太）	ASEANで広がる生産・流通ネットワークの実態と、産業高度化の課題と可能性を、グローバル・バリュー・チェーンの分析枠組みを用い、日系企業の視点から明らかにし、その国際化戦略の策定に必要な能力を養う。	4
ASEAN発展論（北波 道子）	アジア経済のダイナミクスを理解し、それに伴う製造業の生産拠点移動など、一定の法則性を理解する。	4

授業科目（担当教員名）	授業概要	回数
ASEAN 法律制度 （西澤 希久男）	ASEANにおいて、海外子会社を経営する際に直面する問題に対応するため、特に紛争処理及び債権回収に関する法律に焦点を絞り、各国の法制度の概要、特徴、及び問題点を学ぶ。	4
ASEAN の地理・歴史 （野間 晴雄）	ASEAN の国々に現地赴任し、海外子会社を経営したり海外で直面する課題を解決したりする上で必要となる、実践的な生活の知恵と現地の人と接するときに必要な知識を学習する。	4
ASEAN の宗教・文化 （小田 淑子、宮本要太郎、 酒井真道）	ASEAN では、イスラム教、上座部仏教、ヒンズー教等の宗教が生活の隅々まで影響を与えており、現地の人と接するときに必要な知識を学習する。	4
ASEAN の華人ビジネス （吉野文雄）	ASEAN の国々の経済は華人（華僑）が牛耳ってきたといってもよい。華人のビジネスのあり方、考え方を理解する。	4
日本の経営思想 （田中一弘）	日本企業の経営は、江戸時代以来の日本的経営の思想が連綿と引き継がれている。現地の方に、それを理解してもらえるように、日本の経営思想の歴史と手法を学習する。	4
企業会計入門 （富田 知嗣）	会計への基礎知識や財務諸表分析の技術を活用し、企業のファンデーションを分析する。グループワークを通じ課題とその解決策を検討し、ディスカッションを行う。	4
管理会計入門 （大西 靖）	企業の経営管理において、必要不可欠な原価計算及び管理会計に関する知識を修得する。	4
国際租税法入門 （中村 繁隆）	日本の親法人との取引を題材に、現地国の国内租税法と租税条約の関係を学習し、国際租税法の基本思考を習得する。	4
会計情報の利用 （宗岡 徹）	企業の強みや弱み、優れた点や問題点は、会計情報に反映されており、その分析を通して把握可能なため、「会計情報の利用」の手法を設例に基づいて学習する。	4
実践応用教育プログラム（7科目 32回）		
海外事業体（子会社）における経営者の役割・コンプライアンス体制 （野本 隆）	ASEAN に立地する子会社の経営者は、企業においてどのような役割を果たすべきなのか、さらに、日本や現地国、さらには従業員のためにどう行動すべきなのかを考える。 海外子会社で直面するコンプライアンス体制の整備にかかる課題において、経営者としてどのように考え、行動すべきかを事例・ディスカッションを通して考え、説明する。	8
海外子会社の経営者として必要な能力 （宮本 昭洋）	事例をもとにしたディスカッションを通して、問題点の把握と本質的理解、解決策の模索を行い、経営者として必要な能力について考え、説明する。	4
海外子会社における人事労務政策（仲本 利明）	海外子会社で直面する人事労務政策にかかる課題において、経営者としてどのように考え、行動すべきかを事例・ディスカッションを通して考え、説明する。	4
グローバル企業の人材育成（牧 勇）	グローバル人材の定義・要件設定を行い、それに沿った人材育成を行う組織と教育の在り方を理解する。	4
経営者の戦略的役割 （吉田 史朗）	経営者としての戦略的な役割の中で、特に社員を引っ張る「リーダーシップ」を身につけること、「経営管理能力」を発揮すること等に焦点を当てる。また、経営判断の基礎となる考え方として、戦略経営、マーケティング戦略、組織・運営戦略の3分野に関して、演習を通じて理解を深める。	4

授業科目（担当教員名）	授業概要	回数
海外派遣者のストレス・マネジメント その基礎・技法と東南アジアの瞑想法 (池見陽、川端康雄)	ストレス・マネジメントの知識と技能を習得。海外生活での心の健康の維持・増進について理解する。なお、集中授業にて実施する。 海外生活をする上で必要なストレス・コントロール法の獲得。海外で直面する課題を解決する手法を学ぶ。	4
プレゼンテーション・スキルとその活用 (西尾 三津子)	プレゼンテーションスキルの活用を通して、設定された課題について他者に分かりやすく説明し、自分の考えを把握する。	4

・教育方法

【通常授業】

社会人である受講者の日常業務に支障がないようにするため、授業を週1回土曜日および平日夜間に開講する。大阪会場または東京会場のどちらかで講義を行い、もう一方の会場へは遠隔講義システムで配信を行う。

【集中合宿授業】

実践基礎教育プログラムの「異文化コミュニケーション」及び実践応用教育プログラムの「海外派遣者のストレス・マネジメント その基礎・技法と東南アジアの瞑想法」の一部は、週末を利用して、本学研修施設で1泊2日の集中合宿により授業を実施する。本合宿授業は、異なるバックグラウンドを有する受講者が、具体的かつ実践的な思考を合宿という形で、密接かつ直接お互いの意見を交換することにより、受講者の教育効果を高めることを企図している。

【e-learningの活用】

本プログラムは、社会人向けの学び直しプログラムであり、教育効果の上がることが第一である。しかしながら、受講生のバックグラウンドは様々で、その経験や知識、能力等の差異を前提とせざるを得ない。そこで、大学院レベルの授業や演習を行うためには、受講者の知識レベルをある程度整えておくことが必要となる。そのため、新しい試みとして、受講者はITを活用して事前に30分程度の反転授業を受講し、課題を行って必要な知識を習得した上で授業や演習を受ける。

また、講義収録・配信システムを活用し、復習及び仕事等やむを得ない理由で欠席した受講者のために、事後に授業を受講できるようにする。

・授業期間 毎週土曜日及び一部平日夜間 6ヶ月間

・総時間数・単位数

実践基礎教育プログラム： 6科目 28回 計：42時間

専門教育プログラム： 12科目 48回 計：72時間

実践応用教育プログラム： 7科目 32回 計：48時間

・総時間数 162時間

・履修資格 原則として、大学卒業程度

・成績評価方法・基準

成績評価方法：予習課題、レポート、ディスカッション内容を総合的に評価する。それぞれの配分(%)については、科目特性により異なる。

成績評価基準：各科目において設定される修得すべき能力について、成績評価方法で記した項目で理解度を評価する。

・修了要件

実践基礎教育プログラム、専門教育プログラム及び実践教育プログラムの中から、120時間以上の科目を受講し、各科目「可」以上の成績を修めた者

・担当教員計画(○は実務家教員)

教員名	担当する教育内容	学位・業績
久保田 真弓	異文化コミュニケーション	博士(スピーチ・コミュニケーション学)／八島智子、久保田真弓(2012)『異文化コミュニケーション論—グローバル・マインドとローカル・アフェクト』松柏社
西尾三津子	経営者のためのシンキングチャートの活用／プレゼンテーション・スキルとその活用	博士(情報学)／(NPO) 学習創造フォーラム 理事／(NGO) FEDA BOLIVIA 顧問
○吉田 史朗	戦略経営／経営者の戦略的役割	S & G ビジネスディレクション株式会社 代表コンサルタント
○嶋 えりか	マーケティング戦略	経営コンサルタント、中小企業診断士
○屋代 徳文	ASEANでの子会社経営	人間科学士・(現)りそな総合研究所アジア室兼大阪コンサルティング部コンサルタント／りそな海外マネジメントスクールコーディネータ
○仲本 利明	子会社経営で直面する課題／海外子会社における人事労務政策	東プラ・アバディジャヤ元代表取締役社長
宮本 勝浩	ASEANの地理・歴史	博士(文学)・国際協力機構(JICA)：農村開発(バングラデシュ)／『東南アジア(朝倉世界地理講座—大地と人間の物語—3)』、朝倉書店(編著)、2009
○後藤 健太	ASEAN経済	博士(地域研究)・国連開発計画及び国際労働機関勤務／伊藤忠商事株式会社勤務／国際協力機構(JICA)：ビジネスコース・インストラクター(カンボジア)、産業政策アドバイザー(ベトナム)
北波 道子	ASEAN発展論	博士(経済学)・講演「アジアNIESから中国へ—経済発展のパターンと相違点」吹田市民講座、2008／「アフリカ・東南アジアへ向かう中国資本」、『アフリカへ向かう中国資本』(編著)、2012
西澤希久男	ASEAN法律制度	修士(法学)・「タイにおける2008年消費者事件手続法の立法過程」、『タイの立法過程』アジア経済研究所、2012／「タイ」、『アジア法ガイドブック』名古屋大学出版会、2009
野間 晴雄	ASEANの地理・歴史	博士(文学)・国際協力機構(JICA)：農村開発(バングラデシュ)／『東南アジア(朝倉世界地理講座—大地と人間の物語—3)』、朝倉書店(編著)、2009
小田淑子	ASEANの宗教・文化	修士(文学)『「宗教の相貌—民族と宗教を考える」光華叢書6』(京都光華女子大学真宗研究所)(共著)、2005
宮本要太郎		博士(文学)／『宗教学キーワード』(共著)、2006
酒井 真道		Doktor der Philosophie／『Keyword in Context Index to Dharmakīrti's Pramāṇaviniścaya』(共著)、2015
吉野 文雄	ASEANの華人ビジネス	博士(経済学)拓殖大学 国際学部教授／『東南アジアと中国・華僑』(拓殖大学研究叢書(社会科学)38)、成文堂、2012、(編著)
田中 一弘	日本的経営思想	博士(商学)一橋大学大学院商学研究科 教授／『「良心」から企業統治を考える』東洋経済新報社、2014
富田 知嗣	企業会計入門	博士(商学)・『会計専門職のための基礎講座』関西大学出版部(分担執筆)、2008
大西 靖	管理会計入門	博士(経営学)・『環境経営イノベーション』中央経済社(共著)、2010
中村 繁隆	国際租税法入門	博士(法学)・村井正ほか共著『教材国際租税法 新版』(慈学社)／「国際的組織再編税制の展開」租税法学会40号

教員名	担当する教育内容	学位・業績
○宗岡 徹	課題研究(事例分析)、課題研究(トラブル事例)	経営学修士・公認会計士／日本興業銀行勤務／ソニー勤務／日本公認会計士協会「税務調査会」副部長／財務省「財政制度等審議会」臨時委員／内閣府「経済財政諮問会議資産債務等専門調査会」専門委員
○野本 隆	海外事業体(子会社)における経営者の役割・コンプライアンス体制	ダイハツ工業株式会社特別顧問
○宮本 昭洋	海外子会社の経営者として必要な能力	りそなブルダニア銀行 元代表取締役社長(2014年まで)／りそな総合研究所 顧問／公益財団法人 日本生産性本部 グローバル人材育成研修講師
○牧 勇	グローバル企業の人材育成	(現)りそな総合研究所大阪コンサルティング部コンサルタント／グローバル人材育成支援担当
池見 陽	海外派遣者のストレス・マネジメント その基礎・技法と東南アジアの瞑想法	医学博士・World Association for Person-Centered and Experiential Psychotherapy and Counseling (UK) 理事 同学会編集委員 (海外組織の運営)
川端 康雄		大阪医科大学 臨床心理士

・ファカルティ・ディベロップメント

FD活動としては、全学的な活動と本プログラム独自の活動を展開する。全学的な活動として、各教員は、その関心や改善事項に応じて、教育推進部教育開発支援センターが実施する研修(FDフォーラム、日常的FD懇話会、ランチョンセミナー(年10回程度))に参加する。これにより、教員が円滑に授業設計、実施、評価を遂行できるようにする。本プログラムの独自のFD活動として、プログラム開発委員会に授業内容等の改善のためにFD部会、プログラム構成や教員構成の見直しのためにプログラム評価部会を設置する。そして、図2のように、前者の活動に対応する「授業実施にかかるPDCAサイクル」と、後者の活動に対応する「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」を回していくことになる。

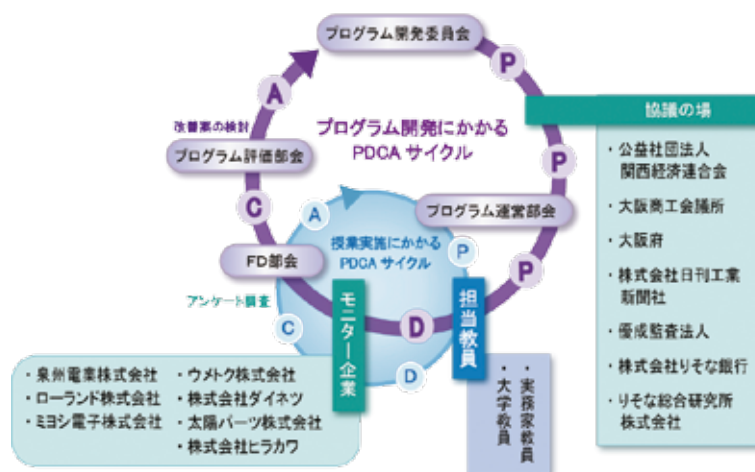


図2：実証・改善サイクル図

FD部会は、授業評価アンケートを単年度ごとに実施し、受講者からの意見を聴取して、各授業内容の改善を行う。また、教員の教育に係る資質・教授法を高めるために授業研究や公開授業等を取り入れたFD研修会(年に2回開催)を実施する。プログラム評価部会は、受講生及び派遣元企業に対するアンケートに加え、海外派遣されたプログラム修了者を対象に、授業が実際の業務に役立ったか、さらに必要な課題は何か等の情報を収集し、プログラム構成や教員構成の改善案を作成する。

これらの結果はプログラム開発委員会にフィードバックされ、協議の場での議論を経て、プログラム構成や教

員構成の見直し、プログラム内容等の改善が行われる。このようなPDCAサイクルを展開することにより、社会との連携を有機的に展開し、実践に活かされる教育プログラムを確立する。

○社会人向けの配慮

時間的制約に対する配慮：日常業務に支障がないようにするため、授業を週1回土曜日及び平日夜間に実施する。また、土曜日午後から日曜日にかけて、1泊2日の合宿を2回行うことを予定している。

場所的制約に対する配慮：東京(東京駅日本橋口の関西大学東京センター)と大阪(平成28年度秋竣工予定の梅田キャンパス)で開講する。それぞれの都市の中心地で開講することにより、地理的、時間的負担を軽減するべく配慮する。

e-learningの活用：上述したように受講生は、事前にインターネット上で反転授業を受講し、課題を行って、必要な知識を習得した上で授業または演習を受ける。

○欠席者への配慮

講義収録・配信システムを活用し、仕事等やむを得ない理由で欠席した受講者が、事後に授業を受講できるようにする。

1-6 実証・普及計画

○実証・改善の実施

関西大学には上述の「考動力」あふれる人材を育ててきた実績に加え、ASEANについての研究や教育に関する多くの業績がある。これらのシーズを活用し、産業界等からのニーズに合わせた教育プログラムの提供が可能である。また、りそな総合研究所、大阪府、及び大阪商工会議所等の産学協働に係る協賛と協力を得た多くの企業並びに団体には、実務的・実践的な経営者教育等の実績があり、それらから提供される教育資源を組み合わせ、教育プログラムを実証・改善していくことが必要である。さらに、公的機関や民間企業等が提供する実践的な教育プログラムとの補完性を意識しながら、本プログラムの教育内容を改善する。

そのために、図2で示した通り、「授業実施にかかるPDCAサイクル」と「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」を回す。前者の「授業実施にかかるPDCAサイクル」は、教員の授業内容の改善を目的としている。FD部会が受講生に授業評価アンケートを行い、授業の実施にかかる改良点を把握し、プログラム運営部会を通じた各教員へのフィードバックと年に2回開催予定のFD研修会を通して、その改善を行う。後者の「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」は、プログラム構成や教員構成の改善を目的としている。実務家を中心メンバーとするプログラム評価部会が受講生や派遣元企業さらに海外派遣されたプログラム修了者に、講義・演習の内容が社会人の学びたい内容と合致しているか、授業が実務に役立っているか等についてアンケート調査を実施し、その問題点を把握する。これらの結果を基にした改善案は、プログラム開発委員会でまとめられ、協議の場において議論されるとともに、産業界のニーズ・評価等が付加され、プログラム構成の見直しや教員の発掘・登用に反映される。

○普及計画

本委託事業にて、開発された教育プログラムの教材等やその教育方法に関して、2年目、3年目に公開セミナーを開催することにより、他の大学院等でも同様に実施することが可能となるようにし、普及を図る。また、HPを開設して、順次情報を提供することとしている。

本プログラム終了後、授業科目の教育内容を教科書として出版することや、教育内容や教育方法、教育課程の新規性や問題点等を研究論文として発表する。

本プログラムの修了者は、「考動力」あふれる高度な人材として、海外子会社の経営者となり、企業内外において高い評価を受けることとなる。なぜなら、ASEANに関する幅広い知識と教養を有し、現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係を築き、問題点をいち早く認知するとともに、その問題点に対し、自らの頭で自主的によく考えて判断し、自らの責任で自律的かつ積極的に行動し、解決していくことで、会社を発展させていく能力を持ち、単に目先の事象にかかるノウハウを持っているだけでなく、事象に対する理論的な背景についての根本的理解と、長期的なフィロソフィを有する経営者となることが期待されるからである。

1-7 産学の役割分担の明確化と産業界支援内容

○産学の役割分担の明確化

産業界(企業及び各種団体等)は、企業の具体的なニーズを背景に、当該プログラム開発への協力を行い、学界(関西大学)は、産業界の協力のもと、社会のニーズに合致した大学院レベルの教育を提供する。このような役割分担を産業界に理解していただいたことから、大企業を中心とした企業の団体である「関西経済連合会」、中小企業を含む多くの企業の団体である「大阪商工会議所」、関西と関東を地盤とする日本を代表する都市銀行である「りそな銀行」より「協議の場」に参加いただけることになった。さらに、官界(大阪府)に加え、マスコミ(日刊工業新聞社)にも「協議の場」に参加いただいた。このように、個別企業のニーズのみならず、産業界全体といえるような支援を得ることにより、そのニーズを教育プログラムに反映させる体制を構築した。

○産業界支援内容

公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所、大阪府、(株)日刊工業新聞社、優成監査法人、(株)りそな銀行、りそな総合研究所(株)は、「協議の場(KU産学官協働高度人材養成会議)」の構成員として、泉州電業(株)、ローランド(株)は、「プログラム開発委員会」の構成員として当プログラムに参加する。

海外進出を行っている、あるいは、海外進出を予定している企業7社〔西日本地区：泉州電業(株)、ウメトク(株)、(株)ダイネツ、太陽パーツ(株)、(株)ヒラカワ、ミヨシ電子(株)、東日本地区：ローランド(株)〕は、モニター企業として当プログラムに参加する。モニター企業とは、当プログラムの講義を受講し、アンケートに答え、プログラムに対する意見を述べることにより、プログラムのブラッシュアップを行う役割をはたす企業である。必要に応じて、りそな銀行、大阪商工会議所等を通して募集し増加させる予定である。

りそな総研、りそな銀行、日刊工業新聞社とは「海外子会社の経営を担う人材の養成」あるいは関連したテーマのセミナーや講演会の開催、機関誌等へのインタビュー掲載やコラム執筆等による支援の合意ができている。現在、具体的な内容やスケジュールについての協議を行っており、一部はすでに実施されている。これらの支援により、モニター企業や受講生の獲得等が行われる。大阪府とも具体的な支援内容についての協議が近く開始されることとなっている。なお、その他の団体において、受講生の募集や普及、広報活動等についての支援が行われる。

実践基礎教育プログラム・実践応用教育プログラムにおいて、人事管理、営業管理、生産管理、設備投資、資金調達、国際税務等をテーマとした演習を行う予定である。また、専門教育プログラムも必要に応じて充実させる。これらのテーマごとに2コマ～5コマを担当する実務家教員を、企業や各種団体、公的機関等の支援の下、産業界から発掘・登用する予定である。

1-8 評価体制及び継続性

○評価体制

「プログラム評価部会」は、年次計画、成果目標の達成状況を点検・評価する。また、「FD部会(授業実施にかかるPDCAサイクル)」「プログラム評価部会(プログラム開発にかかるPDCAサイクル)」が中心となり、プログラム科目受講者等に授業評価アンケートを実施する。その結果を収集・分析し、プログラム開発委員会へ報告する。プログラム開発委員会は、その分析結果に基づき、授業内容・手法に加え、プログラムの構成や教員の発掘・登用にかかる改善策を検討し、協議の場へ報告する。

○継続性

委託期間終了後、当該プログラムを継続して実施する。

- ①社会人対象の教育：本学では、社会人教育を目的として、大阪の中心地である梅田において新拠点の開設(平成28年秋竣工予定)を企画している。本プログラムも、その一環と位置づけている。
- ②資金計画：平成29年度以降は、1クール(半年間)に必要な費用(学内外講師・専門スタッフ人件費(7,100千円)、講師旅費(1,600千円)等)に対して、受講者を30人と想定して、受講料収入9,000千円(=30人×300千円)を見込み、収支均衡型の事業の構築をめざしている。なお、大学の社会貢献の一環として、委託期間終了後、最低5年間は本プログラムへの資金的な補助を行う。

2

プログラムの開発・実証活動

2-1 プログラム開発にかかるPDCAサイクル

「プログラム開発にかかるPDCAサイクルは、プログラム構成や教員構成の改善を目的としている。実務家を中心メンバーとするプログラム評価部会が受講生や派遣元企業さらに海外派遣されたプログラム修了者に、講義・演習の内容が社会人の学びたい内容と合致しているか、授業が実務に役立っているか等についてアンケート調査を実施し、その問題点を把握する。これらの結果を基にした改善案は、プログラム開発委員会でまとめられ、協議の場において議論されるとともに、産業界のニーズ・評価等が付加され、プログラム構成の見直しや教員の発掘・登用に反映される。

2-1-1 協議の場（KU産学官協働高度人材養成会議）

産業界のニーズと教育プログラムのすり合わせを大所高所から協議する場であるとともに、当教育プログラムをより良いものにするべく各種のバックアップをお願いする場である。

これらの企業・団体は、その活動や事業を通して、高い見識を有するとともに、海外進出している企業等のニーズを把握しており、また、実践的・実務的な経営者教育等の実績がある。そのため、産業界のニーズを基にした、期待される人材像と能力を議論し、見直しを行う役割がある。さらに、当プログラムが、当該人材像の育成にあっているか、内容に偏りが無いのか、期待される能力に適合したものであるか、日本の発展に貢献できるものであるか等を大所高所から議論していただき、より良い教育プログラムの構築・改善に寄与する役割がある。さらに、これらの企業・団体から提供されるノウハウを組み合わせることで教育プログラムを作ることに役立て、公的機関や民間企業等が提供する実践的な教育プログラムとの補完性を意識しながら、本プログラムの教育内容の改善を勧告する役割がある。

<協議の場構成員一覧表>

連携機関(企業・団体・機関等)の名称	構成員の所属・職名	役 割 等	承諾者の職名・氏名
1 関西大学	副学長 林宏昭	プログラム責任者	学長 楠見晴重
2 関西大学	会計研究科教授 宗岡徹	プログラムコーディネーター	学長 楠見晴重
3 公益社団法人 関西経済連合会	国際委員会副委員長 廣富靖以	大企業や中堅企業並びに海外進出企業のニーズをもとにしたカリキュラムや教材に対する専門的な意見及び受講生の募集、普及、広報活動等への助言	専務理事 川邊辰也
4 大阪商工会議所	専務理事 宮城勉	中小企業・中堅企業のニーズをもとにしたカリキュラムや教材に対する専門的な意見、受講生の募集、普及、広報活動、実務家教員の発掘・派遣（専門：人事管理・営業管理・生産管理・設備投資）	専務理事 灘本正博
5 大阪府	大阪府商工労働部 成長産業振興室長 三枝泉	公的機関の観点から、カリキュラムや教材に対する専門的な意見、実務家教員の発掘・派遣（専門：人事管理・営業管理・生産管理）、その他の支援	大阪府商工労働部 成長産業振興室長 三枝泉

連携機関(企業・団体・機関等)の名称		構成員の所属・職名	役 割 等	承諾者の職名・氏名
6	株式会社 日刊工業新聞社	取締役西日本担当・ 大阪支社長 曾根洋一	多くの企業と接するマスコミの立場で、豊富なデータ蓄積に基づくカリキュラム・教材に対する専門的な意見や、受講生の募集、普及、広報活動、講演会・セミナーの実施、実務家教員の発掘・派遣への助言	取締役西日本担当・大阪支社長 曾根洋一
7	優成監査法人	総括代表社員 加藤善孝	海外ビジネスに関する豊富な経験をもととしたカリキュラムや教材に対する専門的な意見、実務家教員の発掘・派遣（国際税務）	総括代表社員 加藤善孝
8	株式会社 りそな銀行	代表取締役副社長 池田博之	金融機関の立場で、海外進出企業への支援実績の観点からカリキュラムや教材に対する専門的な意見、及び受講生の募集、普及、広報活動、セミナーの実施、実務家教員の発掘・派遣（専門：資金調達・設備投資）等への助言	代表取締役副社長 池田博之
9	りそな総合研究所 株式会社	代表取締役社長 松井浩一	豊富な経営者教育の実績と多数の海外進出企業に対するコンサルティング実績に基づくカリキュラムや教材に対する専門的な意見、受講生の募集、普及、広報活動、講演会・セミナーの実施、実務家教員の発掘・派遣（専門：人事管理・営業管理・生産管理・資金調達・国際税務・設備投資）への支援	代表取締役社長 松井浩一
10	関西大学	会計研究科教授 宮本勝浩	外部との交流や普及、広報活動、国際経済の専門家として、カリキュラムや教材に対する意見。	学長 楠見晴重
11	元パナソニック 株式会社	元顧問 宮田賀生	海外ビジネスに関する豊富な経験をもととしたカリキュラムや教材に対する専門的な意見、実務家教員の発掘・派遣	元顧問 宮田賀生
12	関西大学	教育推進部特別任用助教 西尾三津子	インストラクショナルデザイナー	学長 楠見晴重

＜協議の場スケジュール＞

日 付	内 容
7月24日（金） 14：00～15：30	1. 平成26年度実施プログラムについて 2. 平成27年度の検討課題 3. 新設科目および課題研究テーマについて 4. 本履修証明プログラムにて修得する能力について 5. 平成27年度秋学期モニター企業向け説明会について 6. 「職業実践力育成プログラム」認定制度の創設について 7. 産業界における経営者養成についての意見交換
2月26日（金） 14：00～15：30	1. 平成27年度プログラム実施状況 2. 平成27年度開発・実証プログラムに関する自己点検・評価 3. 平成28年度秋学期カリキュラムについて 4. ワークショップ、シンポジウムについて 5. 産業界等における経営者養成についての意見交換

2-1-2 プログラム開発委員会

本委員会は、教育効果の高いプログラムを開発する場である。教育プログラムの体系と教育内容を決めるとともに、講師の人選を行い、講師の作成した教材の内容確認を行う。実際に行われた授業が企図したものと一致しているか、企業のニーズに合致した内容となっているかをアンケート等から把握し、「授業実施にかかるPDCAサイクル」と、「プログラム開発にかかるPDCAサイクル」の二つのサイクルを回すことにより、教育プログラムや教員の体系と教育内容の改善を図る役割である。

<プログラム開発委員会構成員一覧表>

名 前	所属・職名	役 割 等
宗岡 徹	関西大学大学院会計研究科教授	委員長兼プログラム運営部会長
安部 善博	野村オートリース株式会社 取締役専務執行役員	副委員長兼プログラム評価部会長
北波 道子	関西大学経済学部教授	FD部会長、東アジアの経済分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
西村 元秀	泉州電業(株) 代表取締役社長 国際本部長	企業経営者として、また豊富な海外経験に基づいた、カリキュラムの企画・プログラムに対する専門的な意見及び受講生の派遣
望月 京輔	ローランド(株) 執行役員 総務人事部長	人事分野の豊富な経験と海外進出の実績に基づくカリキュラムの企画・プログラムのモニター、受講生の派遣
高橋 伸光	大阪大学名誉教授	ビジネスにかかる語学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
牧 勇	りそな総合研究所	グローバル人材育成分野のコンサルタントとしての豊富な経験に基づくカリキュラムの企画・プログラムの評価
原 昭一	関西大学大学院会計研究科特別任用教授(住友精化株式会社顧問)	企業経営者として、また、海外経験に基づくカリキュラムの企画・プログラムの運営・評価
野間 晴雄	関西大学文学部教授	ASEANの地理・歴史学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
寺嶋 繁典	関西大学心理学研究科教授	ビジネスにおける心理学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
後藤 健太	関西大学経済学部教授	ASEANの経済分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認、FD活動
西澤希久男	関西大学政策創造学部教授	ASEANの法律分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認、FD活動
岩崎 千晶	関西大学教育推進部准教授	FD活動
西尾三津子	関西大学教育推進部特別任用助教	授業設計、FD活動、リフレクション

2-1-3 プログラム評価部会

プログラム評価部会は、プログラム構成や教員配置等を検討するため、講義・演習の内容が社会人の学びたい内容と合致しているか、授業が実務に役立っているか等について受講生と派遣元企業等にアンケート調査を実施して問題点を把握し、プログラム開発委員会に改善を提案する役割と、年次計画及び成果目標の達成状況を点検・評価する役割を持つ。

<プログラム評価部会構成員一覧表>

名 前	所属・職名	役 割 等
宗岡 徹	関西大学大学院会計研究科教授	委員長兼プログラム運営部会長
安部 善博	野村オートリース株式会社 取締役専務執行役員	副委員長兼プログラム評価部会長
西村 元秀	泉州電業(株) 代表取締役社長 国際本部長	企業経営者として、また豊富な海外経験に基づいた、カリキュラムの企画・プログラムに対する専門的な意見及び受講生の派遣
望月 京輔	ローランド(株) 執行役員 総務人事部長	人事分野の豊富な経験と海外進出の実績に基づくカリキュラムの企画・プログラムのモニター、受講生の派遣
高橋 伸光	大阪大学名誉教授	ビジネスにかかる語学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
牧 勇	りそな総合研究所	グローバル人材育成分野のコンサルタントとしての豊富な経験に基づくカリキュラムの企画・プログラムの評価
原 昭一	関西大学大学院会計研究科特別任用 教授(住友精化株式会社顧問)	企業経営者として、また、海外経験に基づくカリキュラムの企画・プログラムの運営・評価
西尾三津子	関西大学教育推進部特別任用助教	授業設計、FD活動、リフレクション

<プログラム開発委員会・プログラム評価部会スケジュール>

日 付	内 容
6月29日(月) 14:30～16:00	1. 開発プログラムに関する自己点検・評価 2. 平成27年度の検討課題 3. 新設科目について 4. 本履修証明プログラムにて修得する能力について 5. 「職業実践力育成プログラム」認定制度の創設について(報告) 6. 海外拠点での経営者層に必要な教育に関する意見交換について
12月11日(月) 10:00～11:30	1. 「社会人学び直しの促進状況等」及び平成27年度プログラム実施状況 2. 春学期開発・実証プログラムに関する自己点検・評価 3. シラバス改定案及び秋学期開設科目シラバス集 4. 秋学期開設科目(異文化コミュニケーション)の教材に関して 5. 平成28年度春学期開講科目及び平成28年度秋学期カリキュラムについて 6. 3/16(木)シンポジウム 7. 3/10(水)FDワークショップ 8. 海外拠点での経営者層に必要な教育に関する意見交換について

2-2 開発プログラムの内容

本年度は以下の日程及び内容で、春学期10科目、秋学期14科目の計24科目の授業を実施した。そのうち、実践基礎教育プログラムは7科目、実践応用教育プログラムは4科目、専門教育プログラムは13科目であった。

2-2-1 シラバス作成（例）

平成27年度 シラバス（例）

氏 名		所属(研究科・専攻等)	学 位	専 門	
西尾三津子		教育推進部	博士（情報学）	教師教育、授業設計	
科目名	経営者のためのシンキングチャートの活用			コマ数	4
授業概要・到達目標					
■授業概要 シンキングチャートは、思考プロセスを視覚化するための枠組み図であり、個々の思考活動を支援するためのツールである。具体的には、①自己の考えや問題を明確にする ②情報や考えを選択・整理する ③他者と意見を共有する ④新たな知識や考えを構築する ⑤考えや意見を評価する という目的をもつ。本来、ブラックボックスとされる「考える」という言語活動は、視覚化することにより明確になり、個々の考えを表出し合うことで新たな視点を生み出すことができる。 とりわけ、経営者は、様々な場面において経営判断を迫られることが多いが、その際、多面的な視点から批判的に問題を認識し分析する力が求められる。本授業では、シンキングチャートの理解を図るために、実務と関わる具体的なテーマを取り上げ、グループワークの中で実務へ活用可能なものとして実感させる。本授業のゴールは「経営者として問題を認知し、問題解決に向けて効果的なシンキングチャートを選択し活用する」である。教員は、受講者の思考スキル向上のために、受講者同士の双方向の学び合いを重視し、的確なアドバイスを行うように配慮する。 ■修得すべき能力 問題認知力、批判的思考力 ■到達目標 ①思考スキルとシンキングチャートについて理解し、活用法を知ることによって思考について考える。。 ②シンキングチャートの活用法を習得し、経営上の様々な場面で活用し意見交流を行う。					
成績評価方法					
授業への参加状況とレポートで総合的に評価する。 毎授業の小レポート（30％）、最終回での課題レポート（80％）					
成績評価基準					
＜レポート評価の基準＞レポートの内容についてルーブリックに基づいて3段階で評価する。 A：テーマについて根拠を明確にして自分の考えを論理的に記述している。 B：テーマについて自分の考えを論理的に記述している。 C：テーマについて自分の考えを記述しているが、論拠が不十分である。					
担当授業科目や産学連携に関する業績・経歴					
経歴 教師経験をもとに、国際協力機構（JICA）の専門家として、8年間ボリビア多民族国への教育技術支援に携わってきた。プロジェクトの終了後も、NGO活動として、現在も定期的にフォローアップを継続している。また、大学においては、複数の学部において教職課程科目（教育方法技術及びカリキュラム開発論）を担当している。					
時間外学習					
学習者は、事前に反転授業の録画を視聴し、予習をしておく。 授業担任者から課題が出されている場合は提出の準備をしておく。					
備考（教科書等の教材や課題内容等）					
参考文献は適宜紹介をする。レジュメや参考資料は必要に応じて配布する。 課題等の提出はCEASを活用して提出し、フィードバックを行う。					

2-2-2 実践基礎教育プログラム

(演習 (ケーススタディ))

担当者 原昭一

反転授業	4月23日(木)～配信開始
対面授業	5月23日(土)～24日(日)：六甲山荘【集中合宿授業】
授業内容	日本企業の海外会社経営の参考としてインドネシア・アサハン・アルミニウム社(略称INALUM)の経営事例を取り上げた。同社はインドネシア政府と共同で計画され、1983年に操業を開始した後2013年10月まで日本側が経営の主導権を握って運営されたものである。授業担当者がINALUMに赴任した時点で現地の日本人は社長のほか数名で、工場長以下10数名の部長を含めた従業員2,500人はインドネシア人であった。歴史・文化が違い宗教の理解が必要でかつ多民族国家を反映した従業員構成を持ち、現地化が進んだ同社に日本人が経理部長として勤務した事例を基に、海外会社経営の課題について考えることを目標とした。
リフレクション	東京と大阪の受講者が一同に集まり、個々の経験をもとに異業種間で活発な議論ができたことは大きな成果といえる。一人一人の背景が異なるため、ニーズがつかみにくい点もあったが、受講者の基本情報を事前に把握することで、より授業内容に深まりが増すと思われる。



関大セミナーハウス（六甲）での集中合宿授業



事例分析後のグループ毎のプレゼンテーション

(経営者のためのシンキングチャートの活用)

担当者 西尾三津子

対面授業	7月11日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、8月1日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
授業内容	シンキングチャートは、思考プロセスを視覚化するための枠組み図であり、個々の思考活動を支援するためのツールである。具体的には、①自己の考えや問題を明確にする ②情報や考えを選択・整理する ③他者と意見を共有する ④新たな知識や考えを構築する ⑤考えや意見を評価する という目的をもつ。本来、ブラックボックスとされる「考える」という言語活動は、視覚化することでより明確になり、個々の考えを表出し合うことで新たな視点を生み出すことができる。 とりわけ、様々な場面において経営判断を迫られることが多い経営者は、多面的な視点から批判的に問題を認識し分析する力が求められる。本授業では、シンキングチャートの理解を図るために、実務と関わる具体的なテーマを取り上げ、グループワークを通して実務へ活用可能なものとして実感させるようにした。「経営者として問題を認知し、問題解決に向けて効果的なシンキングチャートを選択し活用する」という目標の達成に向けて、受講者同士の双方向の学び合いを重視し、的確なアドバイスを行うことで思考スキルの育成を図るように配慮した。

リフレクション	受講者は、日常の業務において「思考」という認知活動を行っているが、そのプロセスを視覚化することはほとんどない。そういう意味で、本科目は受講者の日々の業務の中で活用し得るものであり、受講者からも高い評価が得られた。今後、本授業で習得したツールを、プレゼンテーション等の様々な表現活動の場で活用し得るような学習活動を考えていきたい。
---------	--



シンキングチャートの活用とグループディスカッション



大阪、東京、浜松の3会場をテレビ会議でつないだ異業種間の意見交換。

(東南アジアでの子会社経営～経営者の戦略的役割～)

担当者 吉田史朗

反転授業	6月25日(木)～配信開始
対面授業	7月25日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)8月1日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
授業内容	経営力は経営「者」力とも言われる。経営の第一線で活躍していただくために、まず経営者の役割・心がけを学ぶことが必要である。そのため、経営者としての戦略的な役割を理解し、実践するために必要なことは何か、に重点を置くようにする。特に社員を引っ張る「リーダーシップ」を身につけること、組織をしっかりグリップする「経営管理力」を発揮すること、などに焦点を当てて授業を設計し、双方向対話参画実践型で進めていくようにした。そこで、企業はどのようにして継続・発展していくのか、その活動のベースとして、また企業の存在コンセプトとして考えておかなければならないものは何か、的確な意思決定を行うために知っておくべき要素は何か等について、経営課題発見に資するいわゆる複数のフレームワークを学びながら、自社あるいは事例を踏まえた演習・実践を行うことで、経営判断の基礎となる考え方について理解が深まるようにした。
リフレクション	身近な企業を事例に挙げながら、企業のあるべき姿と今後の方向性について検討していった授業内容は、受講者にとっても有益で自社の問題解決に適合しやすいものであった。受講者の社内での経験や役職が異なるため、企業判断の基準について絞りきれないところがあった。役職に応じた階層別講義も一考であると思われる。



経営者の視点での意見発表



能動的な学習参加と質疑応答

(東南アジアでの子会社経営～戦略経営～)

担当者 吉田史朗

反転授業	7月22日(水)～配信開始
対面授業	8月22日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)8月29日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
授業内容	経営力は経営「者」力とも言われる。経営者の役割・心がけを学んだ後、経営者としての戦略的な役割を理解し、実践するために必要な事柄について、実践的手法を身に付けることが肝要である。経営者として「リーダーシップ」を身につけることや、「経営管理力」を発揮すること等は企業経営の要に当たる。今回の授業では、双方向対話参画実践型を基本に、とりわけ、対面授業会場と遠隔授業会場の受講者の意見交流を図るように配慮した。また、個々の受講者が抱える問題に向けて解決の糸口を示しながら、受講者自らが方向性を見定めることができるように助言するようにした。
リフレクション	業務経験年数に関わらず、受講者の能動的な学習参加がみられた授業であった。また、企業間の垣根を超えた自由度の高い議論が深まった点も成果といえる。しかし、問題の根源を深く掘り下げて追求していくためには、グループ編成のあり方についても検討していく必要があると思われる。



講師と受講者の双方向の学び合い



テーマに関する個々の経験の交流

(経営者のためのシンキングチャートの活用)

担当者 西尾三津子

反転授業	10月14日(水)～配信開始
対面授業	11月14日(土): 千里山【集中授業】、11月21日(土): 東京センター、11月28日(土): 千里山
授業内容	シンキングチャートは、思考プロセスを視覚化するための枠組み図であり、個々の思考活動を支援するためのツールである。具体的には、①自己の考えや問題を明確にする ②情報や考えを選択・整理する ③他者と意見を共有する ④新たな知識や考えを構築する ⑤考えや意見を評価する という目的をもつ。経営者は、様々な場面において経営判断を迫られることが多いが、その際、多面的な視点から批判的に問題を認識し分析する力が求められる。本授業では、シンキングチャートを理解した上で、日常の業務の中で起こり得る様々な問題を事例として取り上げ、個の思考→グループでの共有→全体でのディスカッションという流れで授業を展開した。本授業のゴールは「経営者として問題を認知し、問題解決に向けて効果的なシンキングチャートを選択し活用する」である。グループワークを中心に思考を視覚化し、互いの思考プロセスについて効果的な議論の場を確保するように配慮した。
リフレクション	受講者は、日常業務でのミーティングやプレゼンテーションの中で個々の思考の成果を他者に伝達している。このシンキングチャートは、共有を図るために役立つツールである。授業終了後、一部の受講者から、企業内でシンキングチャートの研修を試みたという話があった。本授業が、終了後も様々な場面で積極的に活用されることは望ましいことである。



バタフライチャートを活用したグループディスカッションの様子



実務でのシンキングチャートの活用の可能性についての発表

(異文化コミュニケーション)

担当者 久保田真弓

反転授業	9月24日(木)～配信開始
対面授業	10月24日(土): 千里山、10月31日(土): 東京センター、11月7日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、11月21日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、12月12日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、1月16日(土): 千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	海外でビジネスを成功裏に展開するうえでは、異文化接触時における「文化」と「コミュニケーション」の捉え方が重要になってくる。特に、文化習慣、価値観、態度、時間感覚、宗教、コミュニケーション・パターンなどの相違を理解して、状況に応じて意味交渉ができることが要である。そこで、本授業では、ある文化固有の枠組みを用いて事象を分析する「イーミック(emic)」と個々の文化的事象をある程度普遍的な基準や枠組みを用いて客観的に分析する「エティック(etic)」の知見を活かして得られたさまざまな理論について言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、価値観、宗教等の観点から学習し、異文化コミュニケーションの現象を多角的に理解・分析する視点を身に付けるようにした。
リフレクション	本授業は、海外で他者との人間関係を構築する上で基盤になる科目であり、受講者からのニーズも高い科目であった。今後、文化固有の枠組みという知見の理解に加えて、ローカル人の雇用や組織作りに関する事例を授業に織り込み、知見と実務とが接続した学習内容として高めていくための方策を探っていきたいと考える。



文化クラッシュに関する各事例について考える受講者



東京の受講者からの異文化体験についての紹介

(ASEANでの子会社経営 (組織・運営戦略))

担当者 屋代徳文

反転授業	1月13日(水)～配信開始
対面授業	2月13日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、2月20日(土): 千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	グローバル視点で立案した経営戦略を実行していく上で、どう組織を編成し動かしていくのか、どう人財を配置、育成しパフォーマンスを上げていくのか、そして、どう評価し報酬に結び付けていくのかを考えていくことが必要である。授業の中では、具体的な事象と抽象的な理論を何度か行き来することで、実践と理論を結合させ高めていくことを目指す。グループ討議も多く取り入れ、ASEANや中国、インドなどでリバース・イノベーションを実現していくことについても討議していくようにした。
リフレクション	受講者の前提条件として、コンサルタント等が実施する研修セミナーへの参加経験をもつ者が多い。そういう意味で、本授業が従来のセミナーと比較した際、どのような価値があるのかという特色を際立たせる必要がある。本授業では、異企業、異業種に携わる受講者が、自己の経験を想起させながら協働的に学び、問題解決学習をしていくという授業展開に価値があったと思われる。



組織運営戦略についての問題提起



東京の受講者の発表を大阪会場で共有

(ASEANでの子会社経営 (マーケティング戦略))

担当者 嶋えりか

反転授業	1月13日(水)～配信開始
対面授業	2月13日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、2月20日(土): 千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	P.F.ドラッカーは、企業の目的は「顧客の創造」であり、これに必要なのは「マーケティング」と「イノベーション」であると言っている。([「マネジメント[エッセンシャル版]」基本と原則]より) マーケティングとは「売れる必然」、イノベーションとは「物事の新しい捉え方、切り口、活用法」のことである。海外子会社において「顧客の創造」を実現するためには、現地の生活者を起点とした発想で、売れる必然を追求していくことが肝要である。授業では、現在世界中で注目が高まっている、米国シリコンバレー発のイノベーションのための問題解決プロセス技法「デザイン思考」をベースに、マーケティング戦略を学んでいけるようにした。
リフレクション	マーケティング戦略について受講者の経験の差が大きく、基本的な戦略内容の提供は、若手社員にとっては有益なものであった。一方、海外経験を有するベテラン社員にとっては、やや物足りなさを覚えたことと思われる。マーケティングの事象が、言葉の意味に留まることなく、実務の中でどのような姿をなし価値をもつものかについて、受講者が実感を伴わせながら習得していけるような支援のあり方について検討していきたい。



マーケティング戦略の要素についての分析



グループワークに対する講師のサジェスション

2-2-3 専門教育プログラム

(ASEANの地理・歴史)

担当者 野間晴雄

反転授業	3月25日(水)～配信開始
対面授業	4月18日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
授業内容	高等学校の「世界史」・「地理」の専門知識を前提に、東南アジアの地理と歴史の基本事項を学ぶことで、東南アジアの国々に現地赴任し、海外子会社を経営したり海外で直面する課題を解決したりする上で必要となる、実践的な生活の知恵と現地の人と接するときに必要な知識を含めて解説することを中心に授業を展開した。
リフレクション	受講者は、ASEANの地理・歴史について感覚的には理解していたが、本科目を受講することで、より正確な知識を習得することができた。ただ、時間数が2回(90分×2)と短かったため、受講者の疑問や受講者同士のディスカッションの時間が確保できなかった。ニーズの高い科目であるため、今後は時間数の検討と内容の吟味を行う必要がある。



東南アジアの地理と歴史を連動させた学習

(ビジネス英語Ⅱ)

担当者 高橋伸光

反転授業	3月25日(水)～配信開始
対面授業	4月25日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、 5月9日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、 5月30日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
テキスト及び参考文献	ビジネス英語(Oral and Written Communication)改訂版、ビジネス英語・貿易実務資料集

授業内容	貿易取引のいろいろな場面の展開と、その中で必要な用語、英語通信文、コミュニケーションの基本を学ぶことを目標とする。ただ国際ビジネスの内容を知らずして国際ビジネスでの英語を学習することは難しい。英語通信の背景にある国際ビジネス(貿易取引)について、「オファーとその承諾」や「一般的取引条件」を中心に基礎を体系的に解説し、各自の理解を深めていくように配慮した。
リフレクション	「学校英語とビジネス英語の差異は何か」について自問自答しながら、具体的なビジネスの場面におけるコミュニケーションスキルを学ぶことができたのは、受講者にとって大変有益であった。また、教員が製作したテキストがあることで、受講者は個々のペースに応じた復習ができ、授業内での理解の促進や弱点の補強に活用することができた点は効果的であった。



一般英語とビジネス英語の特徴についての解説



貿易取引時の英語によるコミュニケーションの留意点についての説明

(ASEAN 発展論)

担当者 北波道子

反転授業	5月7日(木)～配信開始
対面授業	6月6日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
授業内容	この授業の目的は、アジア経済のダイナミクスを理解し、それに伴う製造業の生産拠点移動など、一定の法則性を理解することである。さまざまな事例から抽出され、現在進行形で形成されつつある理論的枠組みの研究は、学習者が自身で現実から解決すべき課題や法則性を見つけ出す能力の開発に有効である。
リフレクション	受講者は日常の業務で、ASEANに関する専門的な知識を学ぶ機会が少ない。それゆえ、本授業は受講者の学習欲求を満たすものであった。反転授業は効果的に機能したと思われる。教員は、対面・遠隔地の受講者の意見交流に配慮しながら、テーマについて多面的な視点でとらえる場面を設定していた。今後、受講者の企業における役職に応じた能力の育成についても検討していくことが望ましいと考える。



アジア発展の理論的枠組みについての解説



東京会場でTV会議システムを用いた受講の風景

(海外派遣者のストレスマネジメント：その基礎・技法と東南アジアの瞑想法)

担当者 寺嶋繁典・池見陽

反転授業	5月13日(水)～配信開始
対面授業	6月13日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、 7月11日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
授業内容	本授業では、ストレス・マネジメントの知識と技能を習得し、海外生活での心の健康の維持・増進についての理解を深める。セルフコントロールに関連する質問紙などの体験学習により、各自に適したマネジメント方法について検討する。また、東南アジアで広く普及している「マインドフルネス」といった仏教瞑想のストレス対応効果について体験学習する。
リフレクション	本科目は、二人の教員によるリレー講義として提供された。基礎技法の理解と瞑想法という体験は非常に興味深いものであり、日常の業務の中で抱えるストレスへの対応として活用できる視座が多く含まれていた。ただ、反転授業の配信と授業の実施日に隔たりがあり、事前学習と理論、体験とを連動させることが困難な点であった。授業日程の調整や反転授業の配信日程に関して、今後検討が必要であると考ええる。



10 秒腹式呼吸の説明を通した体験学習



簡単に出来る体操法や瞑想法についてのレクチャー

(ビジネス英語Ⅲ)

担当者 高橋伸光

反転授業	5月20日(水)～配信開始
対面授業	6月27日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、 7月4日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、 7月11日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、 7月25日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
テキスト及び参考文献	ビジネス英語(Oral and Written Communication)改訂版、ビジネス英語・貿易実務資料集
授業内容	貿易取引のいろいろな場面の展開と、その中で必要な用語、英語通信文、コミュニケーションの基本を学ぶ。ただ国際ビジネスの内容を知らずして国際ビジネスでの英語を学習することは難しい。英語通信の背景にある国際ビジネス(貿易取引)について、「オファーとその承諾」や「一般的取引条件」を中心に、その基礎を体系的に解説することを意図した。本授業では、前回の授業に引き続き、様々なビジネスの場面におけるコミュニケーションの基礎について、英語のライティングを中心に理解を深め活用を図るようにした。
リフレクション	語学力については前提となる能力差が大きい。とりわけ、海外経験の豊富な受講者と国内業務のみの受講者との差異により、集合学習での教授法で対応することの難しさが露呈される場面があった。教員は、受講者の前提能力に配慮しながら授業を展開していたが、今後、受講者が自己学習を展開していく際の支援のあり方も検討する必要があると思われる。



実践的ビジネス英語の習得の様子



ビジネス英語の表記法をモデルにしたライティング学習

(企業会計)

担当者 富田知嗣

反転授業	6月4日(木)～配信開始
対面授業	7月4日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)
授業内容	この授業の目的は、日商簿記検定3級もしくはビジネス会計検定3級程度の専門知識を前提に、海外子会社を経営する上で必要な高度な会計知識を習得し、海外で直面する課題を解決する上で必要となる実践的な事例等によって学ぶことである。また、会計への基礎知識や財務諸表分析の技術を活用し、企業のファンデーションを分析し、グループワークを通じて課題とその解決策を検討し、ディスカッションを行うように授業を構築した。
リフレクション	受講者は、本授業の内容的価値を高く評価し、経営者として身につけるべき必須の能力であると認識している。日々の実務で会計に携わっている者は、実務との関連の中で理解を促進させたが、そうでない受講者にとっては、内容の習得と活用に困難が伴ったように思われる。今後は、4回分(90分×4)の授業を計画し、受講者の多様なニーズに対応していきたいと考える。



受講者への事前課題のフィードバック



課題解決のための会計知識を駆使した演習

(グローバル経済)

担当者 宮本勝浩

反転授業	7月22日(水)～配信開始
対面授業	8月22日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、 8月29日(土)：千里山、東京センター(TV会議)、浜松(TV会議)、
授業内容	この授業の目的は、東南アジアを中心にして、世界の経済の動きを客観的に把握、理解し、海外子会社を経営する上で必要な世界経済と進出先の国の経済の動向、将来を分析できる能力を身につけることである。できるだけ客観的な分析をするために最新のデータや情報を入手し、グループワークを中心に行いディスカッションを通して、理解を深めることに努めるようにした。

リフレクション	授業は、世界経済の動向をふまえ、ASEAN地域の経済の現況について分かりやすく解説されていた。受講者は、ASEANでの企業経営をイメージしながら、自らの問題として議論し解決の方向を導くことができた。学習内容の密度が高く、グループワークの成果を共有する時間の確保が難しかったように思われる。
---------	--



グローバル経済のしくみについて基礎的知識とスキルの提示



経営管理上の具体的事例にあてはめた演習

(ASEAN 経済)

担当者 後藤健太

反転授業	9月15日(火)～配信開始
対面授業	10月17日(土): 千里山、東京センター(TV会議)、10月24日(土): 千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	本講義では、東南アジアで広がる国際的な生産・流通ネットワークのダイナミックな展開の実態と、産業高度化の課題と可能性を、近年注目されるようになったグローバル・バリュー・チェーン(GVC)の分析枠組みを用い、日系企業の視点から明らかにし、その国際化戦略の策定に必要な能力を養うことを目的とする。そのため本講義では、①ASEANを含むアジア経済の地域統合の実態をレビューする。②GVC分析枠組みを習得する。③それを用いて繊維・縫製産業の国際生産・流通ネットワークにおける企業高度化戦略について考察していくという授業計画で学習支援を図るようにした。
リフレクション	受講者は、グローバル・バリュー・チェーン(GVC)の分析枠組みを用いて、自らの会社の企業戦略を分析することに対し高い関心を示していた。また、教員の豊富な経験と知見の提供は、様々な背景をもつ受講者のニーズを満たすものであり、受講者の学習意欲や実践意欲を高めるために効果的であった。



グローバル・バリュー・チェーンの分析枠組みについての解説



企業高度化戦略についてのグループディスカッション

(管理会計)

担当者 大西靖

反転授業	10月7日(水)～配信開始
対面授業	11月7日(土)：千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	企業組織の経営管理を行う際には、会計数値を活用することが重要である。ただし、会計数値を活用するためには、これらの数値がどのようにして計算されているかという、計算構造を理解する必要がある。そこで、本授業では、計算問題の演習を通じて、原価計算および管理会計に関連する基礎的な知識と計算技術を修得することを目的とする。
リフレクション	受講者の業種は、営業担当や人事担当、経理担当など様々である。経理部門の業務に携わっていない受講者にとって、本授業の内容は質の高いものであり、反転授業の事前課題をこなすことも容易なことではなかった。そこで、グループ編成の際、経理に精通している受講者を各グループに配置し、グループ内でアドバイスしやすいような配慮がなされた。経営者にとって管理会計は必須である。受講者は本授業を通して、学習刺激を与えられるとともに、自身の目標の方向性を見定めることができた。



予算・貸借対照表を使っの事例説明



管理会計上の基礎的知識を活用した演習

(会計情報の利用)

担当者 宗岡徹

反転授業	11月19日(木)～配信開始
対面授業	12月19日(土)：東京センター、12月23日(水)：千里山
授業内容	会計情報は企業の活動を反映するように作成されている。その結果、企業の強みや弱み、優れた点や問題点は会計情報に反映するため、その分析を通してかなりの部分を把握することが可能となる。ただし、原因と結果は1対1に対応するのではなく、財務諸表の現れた結果から複数の原因を想定し、その調査によって、真の原因を特定し、その対策を行う必要がある。これは、医師が様々な容態や検査結果を基に病気を特定していく過程に類似しているといえる。そのような「会計情報の利用」のやり方を設例に基づいて学習するように意図した。
リフレクション	本授業は、管理会計の基本的な理解をふまえた上で、経営者として会計上の問題点を認知し解決のための意思決定を行うためのトレーニングとなり得る学習であった。グループワークを中心にケーススタディに取り上げられた会計情報を読み解き、問題点の分析を行ったことは受講者にとって即座に実践力となり得る有益な活動であった。受講者は、反転授業で出された事前課題に取り組む中で、学習への構えや準備を進めていくことができた。



事前課題についてのグループディスカッション



グループワークの成果を発表する受講者

(税務)

担当者 中村繁隆

反転授業	1月27日(水)～配信開始
対面授業	2月27日(土): 千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	経済はグローバルであるのに対し、各国の税制はローカルといわれる。このため、同一の経済活動に対して、複数の国が何度も課税を行う現象(国際的二重課税と呼ばれる)や、どの国も課税しなかったりする現象(国際的二重非課税と呼ばれる)が生ずる。この現象への対処法が、国際租税法の領域である。本授業では、ASEANの子会社経営にとって避けることができない国際的な租税問題に対応するために必須の知識である国際租税法の基本思考を学ぶ。さらに、受講生はASEAN子会社の租税負担というローカルな視点だけでなく、日本親会社の租税負担をも含めた、いわばグローバルな視点を獲得するため、日本親会社との税法上の関係性についても学習する。税務①では、国内税法と租税条約との関係を簡単な取引例を使って学習する。税務②では、日本親会社と海外子会社との取引(関連者間取引)を取り上げ、税法上の特別なルールを学習する。税務①、②の受講者は、各グループに分かれて、取引例における税法上の取り扱いを議論し、発表を促すようにした。授業のゴールは「海外子会社の経営者として、国際租税法の知識を前提にグローバルベースでの租税負担という視点を獲得すること」である。
リフレクション	国際税法に関して、理論的に学んだ経験をもつ受講者は少なく、反転授業を受ける段階から本授業への期待は高いものであった。教員の提示する事例にそって税法の基礎基本を読み解くことへの受講者の関心は高く、授業時間の延長を希求する声も聞かれた。次回は、4回(90分×4)で、受講者の疑問や様々な問題意識の解決等の内容の提供を検討していきたい。



経営者のための国際税法に関する解説



税法上の問題点を見出し、ディスカッションする受講者

(ASEAN 法律制度)

担当者 西澤希久男

反転授業	2月5日(金)～配信開始
対面授業	3月5日(土): 千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	2015年末に創設を目指すASEAN経済共同体により、人口約6億人を擁する巨大な地域が、単一の市場と生産地となる。これに伴い、競争法、知的財産法などの一部分野において、加盟国は法改正を要求されており、いわば域内での統一法の生成の道を歩んでいる。他方で、その他分野においては、加盟国は独自の法制度を構築しており、進出企業は各国の特徴と日本法との差異を認識して対応することが求められている。授業のゴールは、ASEAN経済共同体設立に伴う、法の統一化の動きを把握するとともに、タイを対象地として、法的問題の発生を予防し、または発生した場合の対応に際しての心構えについて考えていく。
リフレクション	個々の受講者が、実務経験の中で体験した法律上の問題を紹介し合うことで、共通の話題を設定した授業展開は、受講者の学習への集中度や持続力を高めるために有効であった。ただ、4コマ(90分×4)分の授業が一日で完結したため、受講者が個々の学びを整理した上で次の課題を見出すという着地点まで到達し難い点があった。今後は、個々の課題を整理し、学びの質を向上させるための授業日程の設定を工夫する必要があると思われる。



法的問題への対応について解決の道筋を聞く受講者



TV会議システムによる東京会場の受講者の学習の様子

(ASEANの宗教・文化)

担当者 小田淑子・酒井真道

反転授業	2月12日(金)～配信開始
対面授業	3月12日(土): 千里山、東京センター(TV会議)
テキスト及び参考文献	小田淑子(藤原聖子『教科書の中の宗教－この奇妙な実態』) 酒井真道(佐々木閑「日経ビジネスオンライン」におけるインタビュー記事)
授業内容	日本人は国内では宗教に関する会話をしないが、海外では宗教の知識が必要である。この授業では、第一に、日本人の宗教観を概説し、宗教への偏見ないアレルギーをなくし、宗教に関する会話ができるための基礎知識を与える。第二に、世界の諸宗教を概観したうえで、ASEAN地域の諸宗教をやや詳しく説明する。インドネシアやマレーシアに相当数のイスラーム教徒がおり、タイ、ベトナムには仏教、特に上座部仏教が根付いている。その他、儒教とヒンドゥー教もある程度の人口を占めている。そこで、イスラームに関する基礎知識と、彼らの生活様式を理解するのに不可欠な戒律(シャリーア)の概説を行う。上座部仏教について概説し、同じ仏教であるが、どのような点に相違があるかを理解するようにした。

リフレクション	本授業は、4コマ(90分×4)の授業をリレー講義で行い、海外業務上の問題点を引き出しながら、イスラム教や仏教への理解を深める授業であった。授業の中で、ASEANで業務経験のある受講者から、ローカル従業員を雇用する際の宗教上の問題について苦慮したという経験が語られた。経営者として個々の従業員の個性を最大限に生かし業績向上につなげるためにも、宗教への理解は必須の条件である。本授業は受講者のニーズを満たすものであり、即戦力として活用し得る能力を育成すべきものであった。
---------	---



宗教への偏見や知識についての意見交換



日本仏教とタイ仏教の比較についての説明

2-2-4 実践応用教育プログラム

春学期1科目（ASEANでの子会社経営）

秋学期4科目（子会社経営で直面する課題、海外子会社における経営者として必要な能力、グローバル企業の人材育成、海外事業体（子会社）における経営者の役割）

（子会社経営で直面する課題（集中授業））

担当者 仲本利明

反転授業	10月14日(水)～配信開始
対面授業	11月14日(土)～15日(日)：千里山【集中授業】、11月28日(土)：東京センター、12月5日(土)：千里山
授業内容	海外では、日本の常識は当てはまらない。日本人的な価値観や感覚で企業運営を行っていると、思わぬ落とし穴に遭遇することがある。本授業では、ASEANの子会社におけるトラブル事例の中から、1)人間関係構築におけるトラブル 2)子会社と親会社の関係におけるトラブル 3)人事労務問題に関するトラブルの3点に視点をあて、学習者が当事者意識をもって問題の対処法を考えた。その際、トラブルの背景にある要素を整理しながら、その解決法について互いの考えや経験を基にグループで議論を深めていくように支援した。授業のゴールは「海外子会社の経営者としてトラブルに対処する際のポイントを提案すること」である。教員は、受講者から提案された問題解決のための具体的な方法に關して的確な支援を行うように配慮した。
リフレクション	ASEAN地域で起こり得る身近な事例を取り上げたので、受講者は当事者意識をもって授業にのぞみ、個々の考えを深めることができた。教員は、授業実践にやや不慣れであったため、学習活動の量と時間配分に戸惑う場面もあったが、授業設計上でのアドバイスを得ながら授業目標の達成に努めることができた。



経営者としての対応策についてのグループ討論後のプレゼンテーション



経営者の心構えや、自己コントロール法についてのレクチャー

(海外子会社における経営者として必要な能力)

担当者 宮本昭洋

反転授業	10月30日(金)～配信開始
対面授業	11月28日(土)：千里山、東京センター(TV会議)1月16日(土)：千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	通常、ASEANの海外子会社に於いては国内営業畑や技術畑出身の邦人が少数で現地経営に責任を持つことが多い。このため子会社の現地金融機関からの資金調達方法、不祥事発生時の対応や税務当局とのトラブル発生に戸惑う事例がある。本授業の目的は「海外子会社の経営者として現地で遭遇しやすい事例に対処する際のポイントを解説すること」である。そこで、インドネシアの子会社における事例の中から、1)子会社での資金調達手段 2)子会社での不祥事発生と対処法 3)多発する税務トラブルと対処法 の3点にフォーカスして、受講生が当事者意識をもって問題の対処法を考えるように配慮した。その際、事例の背景にある要素を整理しながら、その解決法について互いの考えや経験を基にグループで議論を深めていくように支援した。
リフレクション	本授業は、予め受講者の情報やニーズを把握した上で、講義内容にビデオを織り込みながら授業設計したものである。グループディスカッションでの議論では、対面・遠隔地で学ぶ受講者同士が交流し合う場面も設定され、能動的な学習が意図されていた。教員からビデオを活用した授業とスクーリング形式の授業との学習効果の差について検証してみたいという提案があった。今後のeラーニングの活用にも転用できる要素が含まれた授業であった。



トラブル事例に基づいたディスカッションと、その後の発表



授業のまとめでレポートに取り組む受講者

(グローバル企業の人材育成)

担当者 牧勇

反転授業	11月12日(木)～配信開始
対面授業	12月12日(土)：千里山、東京センター(TV会議)

授業内容	本授業は、企業においてグローバル展開を行う際に常に課題となっている「グローバル人材の育成」に関して検討を行うものである。そこで、「海外子会社の経営を担う人材の育成」を特に意識しつつ、1) 自社におけるグローバル人材の定義(自社の事業戦略に基づく、基本的なグローバル人材像やグローバル人材に求める要素など)、2) 自社のグローバル人材に関するニーズ(自社のグローバル人材に関する現状把握、グローバル人材として確保すべき必要人数、必要となる時期、グローバル人材の活躍の場など)、3) 自社のグローバル人材育成に向けた基本目標・計画、4) 自社グローバル人材育成に関する方策や具体的なプログラムのあり方などの諸点に視点をあて、学習者が当事者意識をもって自社における問題の対処法を考えられるようにした。その際、様々な視点や要素を整理しながら、その解決法について受講者同士の考えや経験を基に議論を深めていくことにも配慮した。
リフレクション	教員は、受講者の既習学習の差異や体験の有無に苦慮しつつ、グループ学習を盛り込んだ授業展開を工夫していた。若手の受講者には、レベルの高い内容も含まれていたため、今後の実務の中で消化し活用していくことを期待したい。受講者のレベル感の差異をプラスに転化させながら各自の問題意識を引き出し、能動的な学びを支援する指導法について今後も検討していきたい。



グローバル人材の定義について学ぶ受講者



問題解決の示唆を得る東京会場の受講者

(海外事業体(子会社)における経営者の役割)

担当者 野本隆

反転授業	12月9日(水)～配信開始
対面授業	1月9日(土)：千里山、東京センター(TV会議)
授業内容	本授業は、現在 海外生産事業体の社長、工場長、上級管理者の方、及び近々、海外に赴任しその職位に付かれる方を対象としている。 海外事業体の創成期は日本人出向員が主要ポストを占め、ローカル人材は専門知識・経験に乏しいため、出向員に尊敬の念を持って接してくれ、上下関係が明確で比較的円滑に会社・工場運営することができる。しかし、時の経過と共に各国政府及びローカル従業員は現地化(自立化)を期待する。その際の課題は経営者と管理者のローカル人材の不足である。特に海外事業体の社長、工場長となると出向する日本人さえ、人材不足が深刻な問題となっている。その理由は日本の部長クラスの人材が海外事業体の社長、工場長に任命され、経営経験がないまま現地に赴任するためである。本授業では、①海外に於ける会社経営・工場運営するにあたり、経営者・管理者の心得、責任と役割を理解する ②海外で活躍できる人材の要件を理解する ③海外事業体の経営者・管理者としての「行動指針」をダイハツの例を参考に学ぶ ④海外事業体の経営者・管理者としての能力を身に付け改善計画を立案し、実践できるようにする の計画で学習を進める。
リフレクション	本授業で学んだことを実務でどのように活用し、活用の際に自身のどのような新たな力を見出すのが肝要となる。従って、学習の数ヵ月後、実務での活用報告を別途設けることで、受講者自らの中に経営管理能力として蓄積していくことが可能になると思われる。授業の日程に関しては、カリキュラム編成の際、科目の価値とあわせて検討すべきであると思われる。



講師からの問いかけに対する東京会場からの応答
に聴き入る受講者



テーマについて考察し、プレゼンテーションの準備
をしている様子

3

プログラムに関する自己点検・評価活動

3-1 授業実施にかかるPDCAサイクル

「授業実施にかかるPDCAサイクル」は、教員の授業内容の改善を目的としている。FD部会が受講生に授業評価アンケートを行い、授業の実施にかかる改良点を把握し、プログラム運営部会を通じた各教員へのフィードバックとFD研修会を通して、その改善を行う。

3-1-1 FD部会

FD部会は、授業評価アンケートを単年度ごとに実施し、受講者からの意見を聴取して、各授業内容の改善を行う役割を持つ。また、教員の教育にかかる資質・教授法を高めるためにFD研修会を実施する。

<FD部会構成員一覧表>

名 前	所属・職名	役 割 等
宗岡 徹	関西大学大学院会計研究科教授	委員長兼プログラム運営部会長
北波 道子	関西大学経済学部教授	FD部会長、東アジアの経済分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
後藤 健太	関西大学経済学部教授	ASEANの経済分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認、FD活動
西澤希久男	関西大学政策創造学部教授	ASEANの法律分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認、FD活動
岩崎 千晶	関西大学教育推進部准教授	FD活動
西尾三津子	関西大学教育推進部特別任用助教	授業設計、FD活動、リフレクション

<FD部会スケジュール>

日 付	内 容
4月22日（水） 13：00～14：00	1. 平成26年度授業評価アンケート、及びインタビュー調査の結果・考察 2. 平成27年度授業評価アンケートについて 3. 平成27年度学び直しプログラム入学時アンケート（プレ・アンケート）について 4. 反転授業について
7月22日（水） 9：30～10：30	1. FD部会構成員とその役割（成果報告書 p 19）について 2. プレ・ポストアンケートの取り扱いについて 3. 受講者への個別インタビューの実施について 4. 派遣元企業へのアンケート 5. FD研修について 6. 授業評価アンケート（実施状況、リフレクションの状況） 7. 反転授業について（実施状況、授業者からのコメント、学習者からのコメント）

日 付	内 容
9月16日（水） 10：30～11：30	1. ポストアンケート結果（速報版）について 2. 受講者への個別インタビューの実施結果（速報版）について 3. C E A S上でのシラバスの公開について 4. 反転授業の要件（案）について 5. 派遣元企業へのアンケート 6. 学内者向けFD研修または講演会の開催形式等について 7. 9/30（水）授業担当者説明会について 8. FD部会のスケジュール調整について
10月27日（火） 14：40～15：40	1. ポストアンケート結果（概要）について 2. 派遣元企業へのアンケート（概要） 3. 遠隔講義における教室の設備及び教育技法等について 4. 反転授業の要件（案）について 5. 学内者向けFD研修、講演会の開催形式等について 6. FD部会のスケジュール調整について
12月7日（月） 13：00～14：00	1. 次年度の新規科目について 2. シラバス集及び改定案について 3. 各種アンケート結果・考察（概要） 4. 3月10日（木）FDワークショップについて 5. シンポジウム等について 6. FD部会のスケジュール調整について
1月18日（月） 13：20～14：20	1. FDワークショップについて 2. 授業設計及び授業評価アンケート項目の見直し・検討 3. 遠隔講義システム等について 4. 平成28年秋学期開講プログラムに係る教務事項について 5. FD部会、授業担当者説明会 開催候補日 6. シンポジウム等について 7. FD部会のスケジュール調整について

3-1-2 プログラム運営部会

プログラム運営部会は、プログラムの運営全般を担当するとともに、実務家教員に対し、インストラクショナルデザインの知識を持った専門スタッフとともに、プログラムの構成やコンテンツの作成、授業の進め方等についての指導助言を行い、実務家教員の経験を教育に結び付ける役割を持つ。本部会は、授業の実施にかかる改良点を把握し、本部会を通じて各教員へ授業評価アンケート等の結果をフィードバックする役割を持っている。

<プログラム運営部会構成員一覧表>

名 前	所属・職名	役 割 等
宗岡 徹	関西大学大学院会計研究科教授	委員長兼プログラム運営部会長
安部 善博	野村オートリース株式会社 取締役専務執行役員	副委員長兼プログラム評価部会長
原 昭一	関西大学大学院会計研究科特別任用 教授(住友精化株式会社顧問)	企業経営者として、また、海外経験に基づくカリキュラムの企画・プログラムの運営・評価
野間 晴雄	関西大学文学部教授	ASEANの地理・歴史学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
寺嶋 繁典	関西大学心理学研究科教授	ビジネスにおける心理学分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認
後藤 健太	関西大学経済学部教授	ASEANの経済分野を中心に教育内容を決め、講師の人選、教材の内容確認、FD活動

名 前	所属・職名	役 割 等
西澤希久男	関西大学政策創造学部教授	ASEANの法律分野を中心に教育内容を決め、講師の人选、教材の内容確認、FD活動
岩崎 千晶	関西大学教育推進部准教授	FD活動
西尾三津子	関西大学教育推進部特別任用助教	授業設計、FD活動、リフレクション

<プログラム運営部会スケジュール>

日 付	内 容
4月22日（水） 9：30～10：30	1. 平成27年度各部会委員について 2. 平成27年度実施プログラム受講状況およびプレ・アンケートについて 3. 平成26年度授業評価について 4. りそな総研のニーズ調査結果によるカリキュラム再検討について
5月27日（水） 9：30～10：30	1. 5/22（金）「関西大学科学技術振興会創立50周年記念式典」展示ブース出展 2. 5/23（土）、24（日）集中合宿授業について 3. 4/18 プレ・アンケート結果の報告 4. 春学期科目の能力指標 5. 授業運営補助業務チェックリストに関して 6. 秋学期授業担当者説明会について 7. 秋学期プログラム出講調査について 8. 仲本利明氏への協力依頼等に関して 9. 授業実施における講師謝礼金額の変更について
6月24日（水） 9：30～10：30	1. 新設科目について 2. 「就業実践力育成プログラム」認定制度の創設について（報告） 3. 秋学期授業担当者説明会（報告）について 4. 7/30（大阪）、31（東京）モニター受講者説明会（案内）について
6月24日（水） 9：30～10：30	1. 新設科目について 2. 「就業実践力育成プログラム」認定制度の創設について（報告） 3. 秋学期授業担当者説明会（報告）について 4. 7/30（大阪）、31（東京）モニター受講者説明会（案内）について

3-1-3 講座担当者説明会

講座担当者説明会は、本プログラムの講義を担当する教員に対して、本プログラムの事業コンセプトや能力指標等について意識統一する役割を持っている。

<講座担当者説明会スケジュール>

日 付	内 容
6月15日（月） 13：00～14：30	1. 授業設計について 2. 能力指標について 3. シラバスモデルについて
9月30日（水） 9：30～11：00	1. 秋学期受講申込について 2. 春学期受講生アンケートについて 3. 社会人学び直し教育に関する講演会（予定）について 4. 本プログラムの授業設計等について 5. 能力指標について 6. シラバスについて

3-2 プレ・ポストアンケート調査

学び直しプログラムの実施による能力への影響を明らかにするために、本プログラムの実施前及び実施後において、プログラムが目指す＜経営管理能力＞に関するアンケートを実施した。対象者は、プレアンケート・ポストアンケートの両方に回答した春学期の受講者26名、同じく両方に回答した秋学期受講者30名である。プレ・ポストアンケートの得点を比較し、プログラムの実施による能力の向上について考察する。

以下はその結果と考察である。

3-2-1 能力指標（大カテゴリー【Ⅰ】～【Ⅵ】 中カテゴリー①～⑫）

本プログラムが目指す能力は以下の6つである。【Ⅰ】から【Ⅵ】の大カテゴリー及び12の中カテゴリーは以下の通りである。

- 【Ⅰ】ASEANに関する幅広い知識と教養
 - ①知識理解力(ASEANに関する情報を収集・理解し、説明する力)
 - ②異文化適応力(ASEANの異なる文化や言葉、価値観を有する他者を理解し、尊重する力)
- 【Ⅱ】現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係の構築
 - ③言語活用力(ASEAN地域での勤務に必要な言語の基礎力と活用への意欲)
 - ④人間関係力(他者の立場を尊重・理解し、互いの考えを伝え合う力)
- 【Ⅲ】問題点の早期認知
 - ⑤問題認知力(海外子会社の現状把握を通して問題を判断し、危機に適切に対処する力)
 - ⑥批判的思考力(海外子会社の課題について批判的な思考を働かせて分析する力)
- 【Ⅳ】問題点に対する自主的な思考・判断
 - ⑦主体的判断力(海外子会社の課題について自らの責任で物事を正しく認識し、評価する力)
 - ⑧自己調整力(状況に適応し、自らの課題を見極め必要な努力を持続させる力)
- 【Ⅴ】自らの責任で自律的、積極的な行動力
 - ⑨積極的行動力(会社経営に必要と判断した事柄について目的意識をもって行動する力)
 - ⑩問題解決力(会社経営に関する問題を正確に把握し、根拠の明確な解決策を考え実行する力)
- 【Ⅵ】会社を発展させていく能力
 - ⑪リーダーシップ力(会社経営に関する知識や経験を統合させ、活用する力)
 - ⑫革新的創造力(会社の組織や習慣を見直し、先を見通しながら新しいものを作り出す力)

3-2-2 春学期の分析結果と考察

1) 大カテゴリーにおける比較の結果

対応のある検定を行った結果、以下の大カテゴリーにおいて、有意な差がみられた。

- ・1%水準で有意差あり・・・【Ⅰ】ASEANに関する幅広い知識と教養
【Ⅴ】自らの責任で自律的、積極的な行動力
- ・5%水準で有意差あり・・・【Ⅱ】現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係の構築
【Ⅳ】問題点に対する自主的な思考・判断
【Ⅵ】会社を発展させていく能力
- ・有意差なし・・・【Ⅲ】問題点の早期認知

大カテゴリー【Ⅰ】ASEANに関する幅広い知識と教養 と【Ⅴ】自らの責任で自律的、積極的な行動力 においては、受講者の能力向上が顕著であったといえる。また、【Ⅱ】現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係の構築、【Ⅳ】問題点に対する自主的な思考・判断、【Ⅵ】会社を発展させていく能力 においても、本プログラムの実施による能力の向上が認められる。

大カテゴリー【Ⅲ】問題点の早期認知 はケーススタディの科目を経て、実務で発揮されるより実践的な能力である。今後の実践過程の中で継続的に検証する必要がある。

2) 中カテゴリーにおける比較の結果

・1%水準で有意差あり・・・①知識理解

⑩問題解決力 ⑫革新的創造力

・有意差なし・・・③言語活用能力 ④人間関係力 ⑥批判的思考力

⑦主体的判断力 ⑧自己調整力 ⑪リーダーシップ力

対応のある検定を行った結果、中カテゴリー①②⑤⑨⑩⑫において有意な差があった。特に、知識理解力の向上が高いことが分かる。このことから、本プログラムの実施は、①知識理解 ②異文化適応力 ⑤問題認知力 ⑨積極的行動力 ⑩問題解決力 ⑫革新的創造力 の能力の向上に効果があったと考えられる。

3) 対面授業(大阪)と遠隔授業(東京、浜松)における比較の結果

・Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵの全てのカテゴリーにおいて、有意差は見られなかった。

対面授業(大阪)と遠隔授業(東京、浜松)の両者において、受講者の能力向上に差異は見られなかった。その要因として、両会場における学習環境整備への注力と連携や、遠隔会場を意識した授業担当者の授業設計が考えられる。また、浜松会場は、授業実施に対する会社のサポートが手厚く、教育環境の面でも優れていた。そのため、受講者の学習意欲が高く目標設定も明確であった。今後、遠隔授業において、浜松会場のような会社からの全面的サポートを期待することは困難が伴うため、対面授業と遠隔授業の教育効果の比較に関しては、秋学期の状況とあわせて精査する必要がある。

3-2-3 秋学期の分析結果と考察

1) 大カテゴリーにおける比較の結果

・1%水準で有意差あり・・・【Ⅰ】ASEANに関する幅広い知識と教養

【Ⅱ】現地の人々と対等でウィン・ウィンな関係の構築

【Ⅲ】問題点の早期認知

【Ⅴ】自らの責任で自律的、積極的な行動力

・5%水準で有意差あり・・・【Ⅳ】問題点に対する自主的な思考・判断

【Ⅵ】会社を発展させていく能力

対応のある検定を行った結果、全ての大項目において有意な差があった。このことから、本プログラムの実施は、経営管理能力の向上に効果があったと考えられる。

2) 中カテゴリーにおける比較の結果

・1%水準で有意差あり・・・①知識理解 ③言語活用能力 ⑤問題認知力 ⑩問題解決力 ⑫革新的創造力

・5%水準で有意差あり・・・⑥批判的思考力 ⑨積極的行動力 ⑪リーダーシップ力

・有意差なし・・・②異文化適応力 ④人間関係力 ⑦主体的判断力 ⑧自己調整力

対応のあるt検定を行った結果、中カテゴリー①③⑤⑥⑨⑩⑪⑫において有意な差があった。このことから、本プログラムは、①知識理解 ③言語活用能力 ⑤問題認知力 ⑥批判的思考力 ⑨積極的行動力 ⑩問題解決力 ⑪リーダーシップ力 ⑫革新的創造力 の育成に効果があったと考えられる。

3) 対面・遠隔受講による影響の分析結果(大カテゴリーにおけるポストアンケートの比較)

【Ⅰ】、【Ⅱ】、【Ⅲ】、【Ⅳ】、【Ⅴ】、【Ⅵ】の全てのカテゴリーにおいて、有意な差はみられなかった。このことから、ポストアンケートにおいて、「対面で受講した受講者」と「遠隔で受講した受講者」の経営管理能力の育成に差はないということが分かる。ただし、両受講者に本来より差があったのではないかと可能性は否定できない。

4) 対面・遠隔受講による影響の分析結果(中カテゴリーにおけるポストアンケートの比較)

①～⑫の全ての中カテゴリーにおいて、有意な差はみられなかった。このことから、ポストアンケートにおいて、「対面で受講した受講者」と「遠隔で受講した受講者」の＜経営管理能力＞の中カテゴリーに差はないとい

うことが分かる。ただし、両受講者に本来より差があったのではないかという可能性は否定できない。

5) 対面・遠隔受講による影響の分析結果(大カテゴリーにおけるプレアンケートの比較)

プレアンケートにおいて、【Ⅰ】、【Ⅱ】、【Ⅲ】、【Ⅳ】、【Ⅴ】、【Ⅵ】の全てのカテゴリーにおいて、有意な差はみられなかった。このことから、本プログラムを受講する前から、「対面で受講した受講者」と「遠隔で受講した受講者」の経営管理能力には差はなかったといえる。また、受講後も有意な差がなかったことから、本プログラムにおいて、対面・遠隔という受講方法による能力向上の差はないと考えられる。

6) 対面・遠隔受講による影響の分析結果(中カテゴリーにおけるプレアンケートの比較)

プレアンケートにおいて、①～⑫の全ての中カテゴリーにおいて、有意な差はみられなかった。このことから、本プログラムを受講する前から、「対面で受講した受講者」と「遠隔で受講した受講者」の経営管理能力には差はなかったといえる。また、受講後も有意な差がなかったことから、本プログラムにおいて、対面・遠隔という受講方法による能力向上の差はないと考えられる。

7) 海外経験による影響の分析結果(大カテゴリーにおけるポストアンケートの比較)

受講者の海外赴任経験による経営管理能力の向上への影響について分析を行った。「海外赴任経験のある受講者」と「海外赴任経験のない受講者」のポストアンケートの結果のうち、大カテゴリーの平均値を比較した。

その結果、全ての大カテゴリーにおいて、有意な差はみられなかった。つまり、ポストアンケートにおいて、「海外赴任経験のある受講者」と「海外赴任経験のない受講者」の経営管理能力の向上の差はないといえる。ただし、両者の間に本来より差があった可能性については否定できない。

8) 海外経験による影響の分析結果(中カテゴリーにおけるポストアンケートの比較)

分析の結果、全ての中カテゴリーにおいて、有意な差はみられなかった。つまり、ポストアンケートにおいて、「海外赴任経験のある受講者」と「海外赴任経験のない受講者」の経営管理能力の中カテゴリーに差はない。ただし、両者の間に本来より差があった可能性は否定できない。

9) 海外経験による影響の分析結果(大カテゴリーにおけるプレアンケートの比較)

本プログラムを受講する前の「海外赴任経験のある受講者」と「海外赴任経験のない受講者」の経営管理能力の向上について分析した。プレアンケート結果のうち、大カテゴリーの平均値を比較した。

その結果、プログラムの受講前は、大カテゴリー【Ⅰ】において、5%水準で有意な差があった。つまり、受講前は、大カテゴリー【Ⅰ】において差があったのに、受講後は差はみられなかった。したがって、本プログラムを受講することにより、大カテゴリー【Ⅰ】において差がなくなることが分かる。

10) 海外経験による影響の分析結果(中カテゴリーにおけるプレアンケートの比較)

分析の結果、①知識理解 ④人間関係力 において5%水準で有意な差がみられた。ポストアンケートでは、中カテゴリーにおける差がみられなかったことから、本プログラムが、①知識理解、及び④人間関係力の育成に有効であると考えられる。

平成 27 年度秋学期の科目と能力指標をマトリックスに表すと以下のようになる。

< 経営管理力 > の育成 マトリックス

(平成 27 年度秋学期)

12 の能力	ASEAN 法律制度	子会社経営で直面する課題	異文化コミュニケーション	ASEAN 経済	税務	管理会社	子会社経営（組織運営）	子会社経営（マーケティング）	企業の人材育成	ASEAN の宗教・文化	経営者としての必要な能力	海外子会社における経営者の役割	会計情報の利用	シンキングチャートの活用
①知識理解力			◎	◎		◎			◎	○			○	
②異文化適応力			◎	○		○			○	◎		◎		
③言語活用力		○	○							○				
④人間関係力		◎	○				◎			◎	◎	◎	○	○
⑤問題認知力	◎	◎		◎	◎	◎	◎		◎		◎	◎	◎	◎
⑥批判的思考力	○	○	◎	○	○	○	○		○		○	○	○	◎
⑦主体的判断力		◎	○	○	◎	◎		◎	◎			◎	◎	
⑧自己調整力					○	○		○	○				○	
⑨積極的行動力	○	○			○			○	○		○			
⑩問題解決力	◎	◎		○	◎			◎	◎		◎	◎	◎	○
⑪リーダーシップ力							◎	○				◎		
⑫革新的想像力		○		◎			○	◎				◎		

◎はコアの能力、○はサブの能力

3-3 授業評価アンケート調査

学習者自身が「自己を客観視して変容に気付く」という視点で、科目ごとに授業評価アンケートを実施した。集計結果は授業担当者にフィードバックされ、リフレクションの場で話し合うための情報とした。その結果についてFD部会で考察を行い、今後の授業改善に活用していくようにした。

3-3-1 概要

○アンケート項目

アンケートの項目は、選択式が12項目、自由記述式が3項目であり、学習者(前提条件・意欲・変容)及び授業(内容や方法・難易度・効用性や進度)に関するキーワードを基に、以下のような質問項目を作成した。

3-3 授業評価アンケート調査

【学習者について】		
前提条件	設問①	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。
	設問②	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。
意欲	設問④	授業によく出席していた。
	設問⑤	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。
変容	設問⑥	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。
	設問⑦	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。
	設問⑧	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。
可能性	設問⑨	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。
【授業について】		
内容や方法	設問③-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像（以下、反転授業）を視聴した。
	設問③-2	反転授業の事前課題（レポート等）に取り組んだ。
	設問③-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。
	設問⑩	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。
難易度や進度	設問⑪	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。
効用性	設問⑫	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。
【自由記述】		
反転授業の成果	設問⑬	反転授業を受けて、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。
授業の成果	設問⑭	この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。
授業への期待、要望	設問⑮	今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください。

○アンケートの配布・実施時期

春学期、秋学期ともに、第一回目の授業導入時、アンケート実施の目的や方法に関して趣旨説明を行った。その中で、C E A Sを活用したオンラインアンケート調査回答の方法及び、回答期日等について説明を行った。

春学期のアンケート実施は、C E A Sを用いて回答を求めたが、回答率の低さや回答時期等に改善の必要性がみられた。

秋学期は1科目の授業の最終回で、ペーパーで回答を求めるようにした。

○アンケート結果の分析と考察

F D部会を開き、アンケートの実施（内容・集計・分析方法等）に関して共通理解を図った。また、結果の集計や考察に関して意見交流を行い、次年度に生かすための改善点を整理することができた。

○アンケート結果の分析と考察

FD部会を開き、アンケートの実施(内容・集計・分析方法等)に関して共通理解を図った。また、結果の集計や考察に関して意見交流を行い、次年度に生かすための改善点を整理することができた。

3-3-2 結果

授業科目名：演習(ケーススタディ)集中合宿授業

担当教員名：原 昭一

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら でもない	そう 思わない	全く 思わない
学習者について	条件 前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	1	9	4	2	0
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	4	3	7	1
	意 欲	4	授業によく出席していた。	7	7	1	1	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	3	10	2	1
	変 容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	8	8	0	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	7	9	0	0	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	10	6	0	0	0
	可 能 性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	10	6	0	0	0
	授業について	授 業 内 容 や 方 法	3-1	授業前に予習として、授業の録画を視聴した。	7	7	0	2
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	5	7	4	0	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	6	10	0	0	0
や 進 度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	6	9	1	0	0
効 用 性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	10	6	0	0	0

⑬予習として配信した録画授業を視聴して、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
課題の背景をある程度理解出来た。(受講者②)								
反転授業はポイントが理解できてよい。雰囲気が分かるだけでメリットあり。全て視聴するのは不可能。今回のように「必須」と「選択」を明示して頂くと良い。(受講者④)								
事前に視聴することで、自分自身最低限取り組む姿勢となった。「学ぶ」為の準備の重要性を改めて感じた。(受講者⑬)								
⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。								
原先生はものの事、様々な経験を持つほかの受講者の実務経験を共有させて頂けたことが何よりの成果です。また、4つの視点から具体的に問題点を掘り下げることが出来たことも今後の自身の業務に活かす事が出来ると感じました。(受講者③)								
多くの方の話を聞く事が出来ました。また、グループディスカッションではグループ内の人たちと打合せ、自分の考えと他の方の考えのすり合わせが出来たこと。原先生のお話の内容(リスクについて等)は参考になりました。(受講者⑭)								
本社と子会社のバランス。本社に勤めている為、どうしても管理の方向へ頭がいってしまいがちになるが、本研修をうけて、現地化の大切さ、子会社への理解を深める組織作りが必要だと感じました。(受講者⑳)								
⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
製造業なので部材購入、機構部品(プラスチック、鉄、アルミ等)調達や金型手配などの具体的な現地インフラを学びたい。物流(輸出入)の実例もあると、かなりリアルなものとなる。(受講者①)								
インドネシアに特化した予習であったが、別国(フィリピン、ベトナム等)に制作してもらえるとより自分のニーズにあった視点で学んでいける。授業についても同様です。(受講者⑨)								
今回ディスカッションという形式であった為、異業種の方が抱えている問題を聞く事が出来ました。もっと他社の事例について学びたいと思います。(受講者⑳)								

授業科目名：経営者のためのシンキングチャートの活用

担当教員名：西尾 三津子

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わ ない	全く 思わ ない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	0	6	5	1	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	1	4	6	3
	意欲	4	授業によく出席していた。	2	8	1	3	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	5	6	3	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	10	0	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	9	2	0	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	2	7	0	3	2
可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	6	6	2	0	0	
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した					
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。					
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	9	1	0	0
	難易度や進度	11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	10	2	1	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	6	7	1	0	0
⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。								
問題点に対してチャート図を使い可視化することで的確な判断と対応ができることを学ぶことが出来た。今までチャート図の存在は知っていたが自分から使うことはなく、効果も正直期待していなかったが授業を受けてからは積極的に使いたいと感じました。(受講者④)								
色々なチャートを用いる事によって、考え方、アプローチが画一的になることを防ぐ事が出来る。プレゼンテーション資料として非常に効果的である。(受講者⑩)								
具体的な事実や要素を分析し抽象化する思考方法と、それを統合へ導くプロセスについて、ツールを活用することで効果的に思考することができることを学んだ。 チャートを効果的に組み合わせた活用により、思考のレベルアップにつながった。(受講者⑬)								
⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
グループワークを中心に行うことが出来て考える幅も広がり大変参考になりました。他のグループではチャート図の使い方に工夫もあり応用的な使い方なども学びたいと感じました。内容に対して授業時間が短いように感じました。 ありがとうございました。(受講者③)								
今後、実際の業務において回数をこなし(特にピラミッドチャートとボーン図)、自分のスキルとしてスムーズに使いこなせるようにしたい。(受講者⑨)								
シンキングチャートを活用できれば様々な場面、特に問題に直面したときに役立つと思うので、より深く活用方法を学びたいです。(受講者⑱)								

授業科目名：東南アジアでの子会社経営～経営者の戦略的役割～、～戦略経営～

担当教員名：吉田 史朗

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わない	全く 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	0	9	4	4	1
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	7	7	3	0
	意欲	4	授業によく出席していた。	10	7	1	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	2	14	0	2	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	10	7	1	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	6	10	1	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	6	7	2	3	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	10	7	0	1	0
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した	12	1	3	0	2
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	3	11	4	0	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	11	5	2	0	0
	難易度や進捗	11	授業の難易度や進捗は、自分の理解を深めるのに適切であった。	7	10	0	1	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	9	7	2	0	0

⑬予習として配信した録画授業を視聴して、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。

反転授業(事前ビデオ)はこの授業でどんなことを学べるのか、準備は必要かなどの情報が得られるのであった方が良くと思います。今回の反転授業は大変参考になりました。(受講者④)

反転授業は大変興味深く、授業を受ける上で役に立ちました。但し「経営者の～」と「戦略経営」を別々にして頂けたらと思いました。(受講者⑬)

事前に内容がわかり、調べたりする時間があつたので授業の理解が深まった。(受講者⑰)

⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。

今後、自社の事業領域をどう広げていくべきか深く考えさせられた。部門ごとに戦術的思考に走りがちなるが、まずは経営全体としてどこを主戦場に戦っていくべきかの戦略が必要であることを思い知らされた。(受講者⑩)

自分の頭の中がイノベーションしました。目からウロコでした。(受講者⑫)

ちょうど、東南アジアの販売組織について企画検討していたところだったので、内容が完全に合致してありがたかったです。ドラッカーなどの定番戦略も、うまく引用していただき授業が構築されていたので、わかりやすかった。先生の実践から来る迫力もあり、自然に引き込まれ参加できた。(受講者②②)

⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください

戦略を立て、現在成功しているor失敗した企業の事例研究(受講者②)

自分の会社の戦略、今後の戦略について考えていきたいと思います。(受講者⑨)

授業科目名：ASEANの地理・歴史

担当教員名：野間 晴雄

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わない	全く 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	1	7	5	2	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	6	3	3	4
	意欲	4	授業によく出席していた。	6	8	2	0	1
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	2	13	0	1
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	1	15	0	0	1
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	0	8	6	2	1
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	2	3	9	2	1
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	5	11	0	1	0
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した	14	1	2	0	0
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	4	10	3	0	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	14	0	0	1
	難易度や進捗度	11	授業の難易度や進捗度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	14	1	0	1
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	1	14	1	0	1
⑬予習として配信した録画授業を視聴して、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
講義の概要について事前に認識出来るのは、理解向上に役立つ。自分で地図に国名を入れていくのはASEANの国々の理解が進む。(受講者⑦)								
授業のブレガイダンス的な反転授業だったような気がします。もう少し、調べるというよりは考えておくようなサジェスション的な要素も含んで頂けたら良いのではと思いました。(受講者⑪)								
事前の学習なので「さわり」という意味では丁度いいボリュームだったと思う。5～10分程度で終わる宿題も仕事をしながら勉強する人には無理が無く良いと思う。(受講者⑰)								
⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。								
ASEANの地理と歴史について基礎知識を得る事が出来ました。(受講者⑥)								
東南アジアの国々の成り立ちについて。実際に雲南省、広西チワン族自治区から陸路で東南アジアに行った事があるので、非常に興味深かったです。(受講者⑧)								
点での知識を地理的・歴史的観点を知ることによって、線から面に繋がったと思います。特に宗教的な背景が開けて勉強になりました。(受講者⑪)								
⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
宗教について深く学びたい(文化・風土を理解する上で)。各国の人のキャラクターを理解すればビジネス・商談に有効活用できると考えます。(受講者③)								
ビジネスをする場合の注意点。習慣や考え方の違い。法律で理解しておくべき事。(受講者⑫)								
地理・民族・宗教・気候・大まかな歴史等、一通り網羅できていたと思う。1つの国を掘り下げて講義があったわけではないが、それぞれターゲットの国があると思うので、講義以上に掘り下げた内容は自分で学習すればよいと思う。ASEANの全体の知識としては十分な内容だったと思う。(受講者⑰)								

授業科目名：ビジネス英語Ⅱ

担当教員名：高橋 伸光

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件 前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	0	9	3	5	3
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	3	5	5	7
	意 欲	4	授業によく出席していた。	6	11	3	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	7	4	0	0
	変 容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	15	1	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	4	11	2	3	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	3	14	2	0
可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	6	12	2	0	0	
授業について	授業 方法 内容 や	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した	4	3	5	2	6
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	0	6	13	0	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	10	5	1	0
	や 難 易 度 進 度	11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	9	2	6	0
	効 用 性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	6	12	2	0	0
⑬予習として配信した録画授業を視聴して、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
反転授業は、授業の意図や講師の雰囲気が大雑把に理解する上で参考になりました。講師が何にポイントを置いて授業を進めようとするかは、当日までの心構えの上で大切な要素と思います。また事前課題が無くても毎回の授業の質が高いということもシンプルに構成された反転授業の価値を上げるものでした。(受講者⑯)								
どの科目もそうですが事前の授業視聴は、学ぶ意識、姿勢を高めるためにも大変有効です。今後、社内の研修、打合せ等の事前準備として実践していきたいと思います。(受講者⑱)								
事前にある程度どのような授業なのか知る事が出来て良かった。(受講者㉑)								
⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。								
ビジネス英語特有の丁寧な言い回し、主語を揃える、印象を和らげるための手法、数字の切れ目などが大変参考になりました。通常の英語の参考書では載っていないものでした。(受講者①)								
ビジネス英語の基本的な表現法(悪い事は自分の主語を隠す)等、ロジックの部分が教えてもらえたのは、非常に分かりやすかった。(受講者⑦)								
日々何気なく使っている英語ですが、使い方や意味に奥深さがあり、その表現方法は売り手と買い手では異なること、また重要なメッセージをテキストで伝えるためのノウハウ(垣根表現、過去形表現)は、正直目からうろこ状態が何度もありました。高橋先生のプログラムの完成度や教え方が優れている事を実感します。受講者の集中力が落ちないよう脱線して頂ける点も好印象です。受講前と受講後では、英文や英単語の意味の捉え方に対して理解が一歩深まり、さらに意識を高める必要性を感じています。(受講者⑯)								
⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
Eメールのやり取り以外に電話や直接の打ち合わせなど口語によるコミュニケーションについても学びたいと思います。(受講者①)								
もう少しペースが上がるとよいと思った。英語によるディスカッションなど参加型になると身になると思う。(受講者④)								
今回のように「事例集」を元に展開する講義は自分の業務にも多少絡んだ内容の為、イメージがしやすかった。このような形態で他の事例についても学びたい。(受講者⑮)								

授業科目名：ASEAN 発展論

担当教員名：北波 道子

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	1	6	9	5	0
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	10	5	5	0
	意欲	4	授業によく出席していた。	7	7	4	3	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	8	7	6	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	15	1	2	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	12	6	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	0	7	11	3	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	6	14	0	1	0
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した	13	3	3	1	1
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	1	13	7	0	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	1	14	6	0	0
	や進捗 難易度	11	授業の難易度や進捗は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	14	2	2	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	3	15	2	1	0

⑬予習として配信した録画授業を視聴して、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。

ASEAN 発展論を学ぶ狙いを反転授業で知ることによって目的意識を持つことができた。反面自分の仕事に関係ない国については興味を持って聞くことが難しいものがあった。中国、台湾、インドネシア、マレーシア以外は直接関係しない。(受講者①)

反転授業は私自身は役に立ちました。授業内容についての知識が無かったので視聴することで授業にスムーズには入れました。(受講者⑤)

課題が出されることによって、何について講義が行われるのかわかるので、役に立っている。講義タイトルだけでは、講義の内容がわからない場合があるので。(受講者⑬)

⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。

ASEAN 国のこれまでの経緯を知ることができた。これをきっかけに関係するところを深掘りするきっかけになればよいと思う。(受講者①)

キャッチアップ型工業化論のくだりは非常に参考になりました。また、そのテーマに基づき宿題を投げかけていただいたことで、自ら興味を持って復習や予習に取り組むことができました。(受講者③)

日本が辿ってきたキャッチアップ型工業化の流れは、自社や業界の状況に似ている面もあり、今後の仕事の進め方・考え方のヒントになったと思います。*後半の授業は欠席しました。(受講者⑮)

⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください

国ごとにより掘り下げた経済発展のスピードと今後の可能性。(受講者③)

現在の子会社関連の仕事をしていますが、仕事上のことだけではなくその国のことをいろんな面で知ることが必要だと感じました(受講者⑤)

各国の経済特区などへの進出メリット、デメリットや先生が経験されてきた内容をもっと授業の中で例題として学びたかった。(受講者⑭)

授業科目名：海外派遣者のストレス・マネジメント

：その基礎・技法と東南アジアの瞑想法

担当教員名：寺嶋 繁典、池見 陽

設問項目			強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わない	全く 思わない	
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	0	3	6	4	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	3	3	6	3
	意欲	4	授業によく出席していた。	5	7	2	1	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	1	2	6	3	3
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	10	2	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	1	12	2	0	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	6	4	3	1
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	11	1	0	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した	8	1	4	0
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	1	9	5	0	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	1	8	4	2	0
や難易度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	8	3	1	0
効用性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	2	10	3	0	0
⑬予習として配信した録画授業を視聴して、成果や問題点などと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
ストレスは人によって違うし、その内容によっても対応方法が違うのではないかと再認識できたことがよかった。自分自身が仕事上でストレスを感じるような身体的な症状を経験したことがないので、本当の意味でストレスを理解できていないと思っている。(受講者⑤) 自分自身が過去に経験したストレス症状をストレスの種類であてはめ整理できた。(受講者⑪) 1回目の授業と2回目の授業に時差があったので2回目の授業前に反転授業を聞き直すのを忘れていて、反省でした。(受講者⑬)								
⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。								
ストレスについて受けやすい特性や対処法、認知や支援方法などは今後の実務においても知識として価値ある物でした。(受講者④) 心身症やうつ対策や防衛策、考え方等、またうつの人にどのように対応すればよいかなど、多角的な視点でストレスの考え方をえられた。(受講者⑦) 日頃ストレスを感じることが多々あるので、今回の授業で学んだ呼吸法を実践します。 マインドフルネスを養い気付きを大切にします。(受講者⑱)								
⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
具体的なケースでストレスの見つけ方とその対処方法を学びたい。(受講者⑤) 部署内、鬱や躁鬱を患っている部下もいるため、ケアを含めた対処方法、他のメンバー含む周囲の協力方法について深く掘り下げたいと思います。(受講者⑩) ストレスを受けている人に対する実践的な接し方、会社としての責任について学びたい。 「がんばれと言わない」、「休養させる」という一般的な知識とは別に、会社の責任者(子会社社長)としてどう接するべきかを、会社経営責任とコンプライアンスという両面からストレスについて学びたい。(受講者⑳)								

授業科目名：ビジネス英語Ⅲ

担当教員名：高橋 伸光

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	0	6	1	4	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	3	3	5	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	5	6	2	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	6	3	4	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	5	7	1	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	6	2	2	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	1	5	5	1	1
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	5	7	1	0	0
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した					
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。					
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	5	5	3	0	0
	難易度や進捗	11	授業の難易度や進捗は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	5	1	4	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	4	8	1	0	0
⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。								
英文章を日常ビジネスで使用する機会がなく、個人スキルもなく、非常に難解な授業でした。但し、英文法での物事の考え方を教えていただいた事は、気付きになり、今後の業務に大変役に立つと思います。(受講者⑬)								
・先生から「スベルミスは会社の信用を失う」と聞いて、スベル間違いに気を付けるようになりました。 ・業務で使う実用的な英語(受講者⑭)								
英語表現の中で、日本文化と異文化のバックグラウンドの違いからくるコミュニケーション方法や考え方、発想の違い、位置づけの違いを認識することができる機会となり、ビジネス英語表現に関する具体的用法、事例、ノウハウを学びました。素晴らしい講義ありがとうございました。(受講者⑮)								
⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
難易度が高いため、英語力が低い人向けの反転授業もしくは選択性のカリキュラムだとうれしいと思います。(受講者⑯)								
自分自身が例文を繰り返し読む、書くを実行する事が先決です。(受講者⑰)								
今回のテキストは非常によくできていると思います。このテキストの内容に仕事の現場や、オフィス、工場、販売などで使われるビジネス英語を学びたいと思います。(受講者⑱)								

授業科目名：企業会計

担当教員名：富田 知嗣

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	0	5	5	5	3
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	2	9	3	3	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	5	8	4	1	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	0	6	9	3	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	1	15	1	1	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	0	12	4	2	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	2	9	3	4	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	11	2	1	1
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した	10	2	5	0	1
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	3	5	8	2	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	8	4	2	2
	や難易度 や進度	11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	7	5	6	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	2	9	7	0	0

⑬予習として配信した録画授業を視聴して、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。

自分にとって会計について学ぶ機会が無く、授業後も反転授業が見られる事はとても有効な事だと感じています。繰り返し見る事が出来るのは大変助かります。(受講者④)

授業で行われる内容のイメージが出来て、授業に入りやすかった。テンポが速すぎて、私の理解力が不足しているせいもありますが、理解が浅かった(2回見せて頂きました)。(受講者⑬)

課題は基礎知識を得るのに役立ちましたが、反転授業の全てを視聴できなかったため、理解しきれませんでした。また、授業中、TV会議システムだと使用されていたスライドが見えないので、反転授業や授業中に使用されたスライド資料を配布して頂けると助かります。(受講者⑭)

⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。

企業の評価を財務諸表から見て少し理解できた。また今後、非常に興味が持てた。貸借対照表、損益計算書から見えてくるもの等なれることを意識していきます。(受講者⑪)

普段関わっている仕事に近いところではあったが、改めて考えさせられる内容でした。数字を見るポイント、そこから分かることが理解できました。(受講者⑯)

個人的に会計に関する基礎知識が深まったと思います。もともと持っていた知識に広がりとし深さができました。(受講者⑳)

⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください

今回受講した基礎知識から更に発展した事など、まだまだ知らない事ばかりなので興味が湧きました。まずは今回受講した事を確実に付けたいと思います。(受講者④)

会計の基礎を学びたいです。分からないことが多すぎたので勉強します。(受講者⑱)

財務諸表を読むコツ・現実に活かす方法、という視点の授業がほしい。他社の分析や、数字の読み方、目安などは参考になったので、ここを増やしてほしい。今回の内容は4回コースくらいでもよかったと思います。(受講者㉒)

授業科目名：グローバル経済

担当教員名：宮本 勝浩

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業に関する基礎的な知識があった。	0	8	7	3	0
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	3	11	2	1	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	7	9	1	1	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	3	6	7	1	1
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	10	8	0	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	13	2	0	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	3	6	5	3	1
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	7	11	0	0	0
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した	12	2	3	0	1
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	4	11	3	0	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	7	9	2	0	0
	や進捗 難易度	11	授業の難易度や進捗は、自分の理解を深めるのに適切であった。	5	11	1	1	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	8	8	2	0	0
⑬予習として配信した録画授業を視聴して、成果や問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
よかったです。欠席した授業を見ることができる。あるいは授業の内容をもう一回みたいことができる。(受講者①)								
反転授業(事前ビデオ)を視聴することが出来ると、どんなことが学習できるのか、準備が必要かなど前もって分かり、理解しやすいと思います。事前ビデオが無い場合でも授業風景のビデオを視聴することで復習でき大変助かりました。(受講者④)								
授業の内容を事前に知ることができ、調べておけた。反転授業の長さも20分程度でちょうどよかった。(受講者⑬)								
⑭この授業を受けて、あなたが得たもの(学んだこと)は何ですか。具体的に記入してください。								
末国の利上げについて。経済だけではなく、国民性や宗教、慣習についても調べた上で他国の人と交流する必要がある。ということ学んだ。(受講者②)								
ASEAN各国、また先進国の経済を最新の数値を活用し海外戦略を考える習慣が必要だと考えた。また宮本先生の講義は非常に興味の内容であり、知見の広さに感銘をしました。(受講者⑪)								
データは最新で正確なもので分析、と繰り返しご指導されており、なるほどと思った。 宿題を出していただいたのは大変だったが、自発的な予習復習にもなりよかった。(受講者⑫)								
⑮今後、この科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
グローバル経済におけるASEAN諸国の立ち位置、今後の成長率、政治的・経済的不安定性などのリスクにどう向き合うべきかをより深く学びたい。(受講者⑩)								
今回の講義は2回だけでしたが、是非引き続き具体例を挙げたお話を聞きたいです。(受講者⑪)								
ASEANで何かをしたときにどれくらいの経済効果があるなどの分析手法を学びたいです。(受講者⑫)								

授業科目名：異文化コミュニケーション

担当教員名：久保田 真弓

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わない	全く 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	1	12	9	6	0
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	2	10	9	6	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	7	17	2	2	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	4	14	7	2	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	8	17	3	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	7	18	2	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	6	19	3	0	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	7	17	3	1	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	9	18	1	0
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	8	19	1	0	0
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	6	19	3	0	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	8	16	4	0	0
や難易度 進捗度		11	授業の難易度や進捗度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	6	16	5	1	0
効用性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	8	18	2	0	0

⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
授業の内容は的を射ており、有効的です。時間的にも丁度よい配分で受けやすいと思います。(受講者1)	
授業で出されるディスカッションの内容を反転授業で一度自分で考え、授業で話し合うことができたので、効率がよかった。(受講者12)	
予備知識をもって授業を受けることができた。資料も充実しわかりやすかった。(受講者31)	
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
アウトプットも全て、手元にデータとして持っておきたい。最終授業へのアプローチが早かったように思える。各授業のフェーズが、どの段階にあるのか、少しどまどいました。(受講者5)	
予備知識がもっと必要な科目だと感じた。もう少し、反転授業が多めの方がいいのでは(予習という意味で)。(受講者21)	
授業回数が多かったので、反転授業の回数ももう少し増やしてもらえればよかったと思う。また、配布物も事前にいただければ。授業時間をより有効に使えたと思います。(受講者33)	
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	
異文化コミュニケーションの重要性や文化の島などを考えることで、現在サポートしているフィリピン現地法人のワーカーに対する視点や今後の接し方などを授業で学んだ事を活かしながら取り組んでいきます。(受講者10)	
海外現法にてローカル社員と一緒に仕事をしていく日本人社員に対し、“異文化”とは、又は意識しなければならない点について、うまく伝える事ができるのではと思う。(受講者21)	
異文化コミュニケーションとして様々な理論や手法を勉強させていただき、今後海外赴任などの機会があれば非常に役立つと考えました。(受講者32)	
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください	
皆さんと意見を出し合う事による新しい発見、そしてそのトピックを与えてくれる先生、また機会があれば別のトピックによる学びをできればと思います。(受講者3)	
アセアンでの中小企業の最新の異文化コミュニケーションの成功事例や失敗事例が聞きたいです。(受講者15)	
今回学んだことを単なる知識に留まらずに、意識的に実践することで本授業の本質を習得したいと思います。(受講者27)	

授業科目名：経営者のためのシンキングチャート活用

担当教員名：西尾 三津子

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	13	7	8	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	3	5	18	4
	意欲	4	授業によく出席していた。	15	12	0	3	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	3	13	7	3	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	11	17	2	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	9	20	0	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	16	11	2	0	1
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	12	17	1	0	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	7	19	0	4
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	0	0	0	0	0
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	4	19	6	1	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	12	17	1	0	0
や進 度 難 易 度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	7	23	0	0	0
効 用 性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	13	17	0	0	0

⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
事前に予備知識を付ける意味においてすごく役立ちました。また事前に先生の顔や声、表情を見れるので授業当日に違和感なく受講できる、内容も理解しやすいように思います。(受講者1)	
理解を深める方法を学べたが、理解する意欲が高まった。学び直すにperspectiveの変容が必要という言葉も非常に後輩教育、相手理解に通じる概念だと思う。(受講者5)	
授業内容がシラバスだけでは分かりにくかったため、反転授業で予備知識を事前に入手できたためスムーズに授業に入ることができた。(受講者33)	
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
反転授業でもっとくわしく説明してもらい、本授業では例題をもっと増やして欲しい。例題は脳を使うので良い！！(受講者18)	
もう少し深い内容(活用事例)の反転授業を望みます。(受講者21)	
時間短いと思います。(受講者25)	
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	
考えて書くという動作が最近減ってしまい、頭の中だけでまとめようとしていた。授業を受けてまず書くことから再度ははじめます。(受講者7)	
多面的で批判的なものの考え方には自信があったつもりですが、多面的に考えた答えだとしても一度まとめた考えはブレイクしきれなくなっている自分に気付きました。以上のような気付きが仕事に大きく役立つと思います。(受講者13)	
様々な問題、議題が出てきたときにシンキングチャートを利用し、多角的に分析ができるようになった。会社でもシンキングチャートを活用してみたいと思う。(受講者32)	
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください	
・プレゼン力・非常に分かりやすく参考になりました。また是非受講したいです。ありがとうございました。(受講者8)	
理論や内容について頭で理解できているので、それを具体的事象にあてはめる、実際に使うことのトレーニングをしたい。(受講者23)	
業界や商品知識のない人にも当社の内容を説明する時など良い点だけでなくシンキングチャート方式で説明する等活用したい。(受講者29)	

授業科目名：ASEANでの子会社経営(組織・運営戦略)

担当教員名：屋代 徳文

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	2	13	7	4	1
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	6	11	8	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	8	12	7	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	9	15	3	0	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	7	14	6	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	3	18	5	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	8	15	3	1	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	5	16	5	1	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	6	21	0	0
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	3	10	13	1	0
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	4	17	6	0	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	3	16	7	1	0
難易度や進度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	2	18	6	1	0
効用性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	5	20	2	0	0
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
対面授業の内容をちょうどいいレベルで予習できた。反転用と対面用で資料が分かれているのも分かりやすくよかった。(受講者9)								
組織運営戦略と聞くと、経営者が考え実行するプランであると思っていましたが、組織の一員としても非常に重要なトピックであるのだという理解、関心が生まれました。(受講者27)								
専門外の内容だったため、予備知識を持って授業に入ることが出来た。スピード、資料とも分かりやすく聞きやすかった。(受講者33)								
⑭反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
内容について、組織情報が多すぎて、伝えたいコアがぶれてしまったような気がします(どこに向かっているのか、何の話だったかな?と考える時間が多く発生しました)。(受講者5)								
対面授業でケーススタディができるような事前課題があると、より有意義な授業となるのでは。1日だけの外部セミナーとの差別化予習の為に反転授業があることは学び直しプログラムの強み(付加価値)となると思う。(受講者9)								
時間の確保が難しいときがある。(受講者11)								
⑮この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
・紹介していただいた書籍が自分の組織経営に関する知識に非常に役立った。 ・重要度、緊急度のチャート分析は日頃の業務に役立った。(受講者8)								
当社でも社是、社訓、理論、スローガン、会社方針は言葉、可視化するものはあるが、それぞれに対して具体的な活動が不足していることが分かった。今後、内容を検討し、上層部と議論したいと思います。(受講者19)								
組織の定義について考える事ができて良かった。これまでは曖昧に捉えていた。(受講者26)								
⑯今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
会社全体の組織論を今回勉強したが、海外子会社の組織運営についても学びたい。 親会社の組織上、海外子会社では縛りがあるが、その上でどう運営すべきなのか?(受講者3)								
強い組織を作るための明確な方程式(受講者6)								
先生のお話を聞く中で、「人事制度あるいは評価」について感心を持ちました。先生から参考になる書籍を紹介していただいたので、それを読む予定です。(受講者26)								

授業科目名：ASEANでの子会社経営(マーケティング戦略)

担当教員名：嶋 ねりか

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	1	7	10	9	0
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	12	8	5	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	8	14	3	2	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	3	15	4	5	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	5	14	3	4	1
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	5	10	5	6	1
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	8	18	1	0	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	3	17	4	3	0
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	7	19	0	1	0
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	3	15	5	3	1
		3-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。	2	17	6	2	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	2	18	3	3	1
	難易度や進捗度	11	授業の難易度や進捗度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	4	17	3	2	1
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	2	15	7	3	0
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
言葉を知らなかったので、反転授業が役立ちました。(受講者7)								
興味がわく内容だった。ダウンロードの教材ともリンクしていて事前の準備がしやすかった。(受講者30)								
授業参加前にポイントを理解することが出来た。(受講者36)								
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
事前課題の本は難しかった。ポイントを予め紹介していただければ助かったかもしれません。(受講者21)								
反転内の課題によりデザイン思考について資料を読みました。授業のベースとなる事項であったと思いますが、授業にどのように関わったのか少し分かりませんでした。(受講者26)								
スピードが速く理解していないまま、授業が進んでいく部分があったこと。(受講者34)								
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
マーケティング自体は実務の中で行っているが、なんとなくであり理論的、学問的なものは学んでこなかったため、今後の実務の中で本授業のマーケティングのフレームワークに当てはめて考えたい。(受講者3)								
戦略や戦術的、目的、目標など用語の定義を含め基礎的なことから学ぶことが出来、自社の現状を体系的に考え、見つけ直す機会になりました。またインサイトということは非常にインパクトに残りました。(受講者10)								
会社の問題点、課題を解決するきっかけとなる考え方を学ぶことができた。業務に落とし込んでいきたいと思う。(受講者20)								
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
実戦によりそったことをさらに学べればと考えます。今回の授業内容で、実戦になかなか当てはめられないこともあるとも思いました。(受講者3)								
反転授業の資料にあった「5つのステップ」や「39のメソッド」をステップ毎に学んでみたい。(受講者13)								
マーケティングの視点からもっと色々な業種のマーケティング戦略の事例をみてみたい。(受講者30)								

授業科目名：子会社経営で直面する課題

担当教員名：仲本 利明

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	3	11	7	5	1
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	9	9	7	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	11	9	4	2	1
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	1	5	14	2	1
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	6	20	1	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	7	15	4	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	18	9	0	0	0
可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	10	16	1	0	0	
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	9	16	0	2	0
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	10	14	1	1	1
		3-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。	7	16	1	2	1
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	19	4	0	0
	難易度や進捗	11	授業の難易度や進捗は、自分の理解を深めるのに適切であった。	9	14	4	0	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	9	17	1	0	0
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
事前に講師の人物や略歴が分かるのでよいと思う。また実際の講義を受講する際の予備知識と心まがえを事前に行えるので非常に効果的だと思います。(受講者1)								
反転授業の内で提示された課題が人事や異文化理解など各分野で提示されていたので多面的に考えることができた。(受講者14)								
経営についての予備知識を持っていなかったので、事前に予備知識を仕入れる指針になった。(受講者23)								
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
反転授業を受けてから、先生の答え(結果)を聞くまでにかかなり日時が経っていたのはどうかと思う(もう少しタイムリーなほうが良い)。(受講者11)								
自分の問題だが、反転授業を見るための時間作りに苦労しています。(受講者31)								
4コマの授業だったので、2回の反転授業があってもよかったのではないのでしょうか。(受講者33)								
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
当社も実際にASEANで子会社を数社持っており、より実務に即した内容だったので、業務を行う上でダイレクトに役に立つと思います。特に現地での資金調達の方法等はより深く考えるべき課題であり、今後も引き続き内容を復習していきたいです。(受講者1)								
海外展開するクライアントにおいて、クライアント理解に資するものと考えます。今回の授業で学んだ問題が実際に起きているかどうかは別として、潜在的なリスクとして認識しておくことは必要であると考えます。(受講者4)								
自分を改めて認識する、考える事ができました。特に「5ヶ条」を口に出していうことにより、今後の心の柱を確立した気持ちになっています。(受講者18)								
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
今回、最終回の授業においては、4ケースの事例について学びましたが、実際のケーススタディについて興味があるため、時間の許す限り、実際の事例を取り上げて頂きたいと考えます。(受講者4)								
今後は学ぶというよりも、実務を通じて経験を積んでいくことが重要だと感じました。(受講者22)								
より具体的な業務における課題解決について、生産性向上、品質管理、利益率向上、労使問題等、ぜひお聞きしたい。(受講者33)								

授業科目名：海外子会社における経営者として必要な能力

担当教員名：宮本 昭洋

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう 思わない	全く 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	7	8	11	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	5	11	11	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	9	15	4	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	4	16	7	0	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	7	17	3	1	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	4	13	7	3	1
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	7	13	7	1	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	10	15	2	1	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	8	17	1	2
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	2	16	9	1	0
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	4	16	7	1	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	6	13	7	0	2
難易度や進度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	2	10	7	8	1
効用性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	8	18	2	0	0

⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
税制については無知であったので、非常に参考になった。(受講者2)	
いきなり、本授業に進むと理解に苦しむ場面が多くなったと思うので、予習は大切。特にこのような授業では……。但し、まだまだ担当業務範囲外となるので、なじみは薄い科目です。(受講者5)	
事前に自分なりの課題整理ができた。(受講者16)	
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
各事例に対する自己の知識が少なく、考えるのに困難な事例があった。(受講者3)	
参考文献を事前に挙げていただければ良かった。(受講者9)	
仕事上、実務知識が全くないと難しいのでは。(受講者21)	
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	
配当などを会社の経営が進むにつれ、具体的な課題が発生しつつあります。具体的に考える際に大変役に立つと思います。(受講者13)	
移転価格税制などの税務リスクについては、直接的に自分の業務に深く関わる問題であるので、より事例研究はしていきたい。(受講者16)	
税務面でのリスクは、ASEAN諸国には潜在していると思います。リスクをゼロにすることは出来ないと思いますが、小さくできるよう事前調査や事前相談をすることの重要性を思い知りました。(受講者26)	
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください	
税務に関する知識が乏しすぎ、現状さらに学びたいというよりも、基本的な知識を身につけることを優先して考えたい。(受講者9)	
資金調達のための具体的な案件、必要な状態を知りたい。(受講者24)	
節税対策、他のケーススタディ、対処法をもう少し勉強したい。(受講者29)	

授業科目名：グローバル企業の人材育成

担当教員名：牧 勇

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	1	11	7	4	2
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	10	5	9	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	8	14	3	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	1	15	6	0	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	8	14	2	0	1
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	4	16	2	2	1
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	4	11	8	1	1
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	7	14	1	2	1
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	5	17	0	1	2
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	2	13	6	2	2
		3-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。	5	14	3	2	1
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	8	11	2	3	1
	や進度	11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	8	12	5	0	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	9	12	2	1	1
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
グローバル人材の育成という考えはありませんでしたが、具体的に考える意識付けが出来てから授業に参加することができた。(受講者13)								
授業に関する内容をあれこれ想像することができ、本授業において事前の自分の考えとの違いが明確になった。(受講者26)								
自分の業務と直接は関係のない分野であったので、詳細を事前に説明してもらえて、予備知識、事前学習に取り組めた。(受講者33)								
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
反転授業を受けて感じた点としては、一般社員の立場から考えると課題に対する回答を考えるのが難しく、経営者側向けの授業だと感じた。(受講者3)								
資料(プロジェクト)の字が映像では見づらい。(受講者8)								
スライドを印刷していないと、動画のパワーポイントだけでは見づらかった。(受講者30)								
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
反転授業では弊社規模では難しい課題だとは思っていましたが、授業を受けてみて直ぐにでも取り組む必要があると思いました。先はグローバル人材のニーズと分類について経営者と話し合ってみたいと思います。(受講者13)								
現在は海外生産したもののほとんどを日本で販売しているが今後、海外販売も視野に入れていくことになろうと思われる。事業計画とそれに促した人材確保の計画を至急考える必要がある。(受講者24)								
会社運営、事業計画を作成する上で、参考になる講義でした。人材育成についてどう取り組んでいくのか考えていきますが業績に左右される心配あり。(受講者31)								
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
海外赴任中の育成教育について。赴任後の教育は現地任せになってしまい、初めて赴任する人にとっては自分で教育のチャンスを求めていかなければ、そういった機会を得られないため。(当社の実情として)(受講者9)								
人材の育成をどうやって行っていくのか？ 研修制度の充実をはかり、自社独自の制度を構築していきたい。(受講者22)								
具体的な制度として人材育成をとらえ、またサイクルをプランニングするという非常に高度な内容でした。今後、経営や管理する立場になると仮定した上で、今一度人材育成に対する一貫したプロセスを復習しようと思います。(受講者27)								

授業科目名：海外事業体(子会社)に於ける経営者の役割

担当教員名：野本 隆

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く 思わない
学習者について	条件 前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	15	10	1	1
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	5	14	7	0	1
	意 欲	4	授業によく出席していた。	16	10	1	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	13	10	2	0	0
	変 容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	14	12	1	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	10	14	2	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	14	12	1	0	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	14	11	2	0	0
	授業について	授業 内容 や 方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	6	17	3	0
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	6	18	1	1	1
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	9	16	1	0	1
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	14	12	0	1	0
難 易 度 や 進 度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	12	12	2	1	0
効 用 性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	16	10	0	1	0
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
参考文献があり、本番授業の前に入念な予習ができた。挙がっていた参考文献を読破したいです。事前課題の内容と本番授業での活かし方も良かった。深いディスカッションができた。パワーポイントの内容も理解し易く、課題にも取り掛かりやすかった。(受講者9)								
反転授業をもとに授業をされていたので内容がわかりやすかった。推薦図書を1冊でも読んでいれば、より理解が深まったと思います。(受講者17)								
事前に自らの意見を考えることができ、授業中に皆さんの意見を聞くことができて良かったです。(受講者27)								
講義の対象、目的、授業までに考えてくることが大変明確で、講義の理解にとっても役立ちました。(受講者30)								
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
課題について、十分な時間を取って取り組むことが出来ませんでした。時間の作りかたを見当しなおしたいと思います。(受講者13)								
「反転授業」で本を読む、とありました。あまり時間がなく読めませんでした。「反転授業」をもう少し早く展開してほしかったです。(受講者18)								
今回は、年末年始休みがあったため、課題図書を読む時間を取れたが、次回以降も課題図書がある場合には、余裕を持った反転授業のタイミングとして欲しい。(受講者33)								
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
より業務や会社方針に即した内容だったので、本日学んだことを社内を持ち帰り情報共有したいです。(受講者1)								
進捗管理が非常に為になります。今の業務に生かせる、と楽しみです。また、目標進捗管理については、個人でも利用できますので、様々な場面で利用、活用していきたいと思います。(受講者5)								
自社の会社で一体感の不足、行動指針、経営方針が不透明であることに改めて気付かされた。自分一人で改革をするのは大変だが、少しでも賛同者を増やして会社を良い方向へ導きたい。(受講者6)								
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
社長の行動として、理念・ビジョン・大義・使命が有るとお聞きしましたが、他の方々の(企業家・起業家)の理念を聞いてみたいですし、議論してみたいと思います。(受講者5)								
・社長、管理者としての心得、役割、責任について教えていただいたが、実際のトラブルシューティング実績や異文化理解、現地社員の理解スピード等を聞いてみたい。(受講者29)								
全てが新鮮です。話が聞けたと思います。大企業のトップの人は違うなと感じました。(受講者32)								

授業科目名：ASEAN 経済

担当教員名：後藤 健太

設問項目			強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない	
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	1	11	10	6	3
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	13	9	6	2
	意欲	4	授業によく出席していた。	13	10	7	1	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	2	10	12	1	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	11	15	3	1	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	9	19	1	1	1
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	6	17	8	0	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	15	15	1	0	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	12	17	0	2
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	9	16	2	3	1
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	11	18	1	1	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	12	14	4	1	0
難易度や進度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	7	18	5	0	1
効用性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	9	17	5	0	0
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
・事前に授業のイメージが出来た。 ・何回も見直すことができる。(受講者8)								
反転授業だけでは、理解することは出来ないが、事前に考える事で、授業で理解力が向上できる。(受講者19)								
対面授業前に授業内容の概略を、講師の先生から直接話を聞けることは、対面授業に向けた気構えが出来てよかった。(受講者26)								
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
図や表にもう少し動きが欲しかった。文字が多いと厳しい。(受講者6)								
・視聴時間がなかなか取れない。 ・視聴環境が限定的(ブラウザ、容量)。(受講者8)								
自分の勉強不足から反転授業の内容だけでは、先生の意図した課題の成果に持っていけなかった。(受講者9)								
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
ディスカッションを通じて様々な企業のVCを知る事ができたのが収穫でした。今後同じような業種のクライアントを担当した際の企業の理解に資するものと考えます。(受講者4)								
GVCを自社の商流、プロセスへ落とし込めて、客観的な視野で自社の商流、プロセスを見ることができたこと。(受講者10)								
今後、更に海外展開をしていく上で、弊社がどこに強みを持っていてどこを伸ばしていくべきなのかを考えるスキームを教えていただけただけだったので、駐在になったら色々な提案が出来ると思う。(受講者22)								
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
アジア全体の現状を、授業のみではなく、参加者同士の会話をもっと取り入れて生の声を聞きたい。(受講者7)								
大学時代、私は経済学部でしたが、当時の授業は基本的なモデルの話ばかりで、実学とは程遠いものだったと認識しております(そんなことないかもしれませんが)。今回の先生のお話は現実に起こっている現象と、経済学的な理論とを結び付けて説明していただき、経済学に対する興味がわきました。前述しましたが、経済学をもう一度、本などを読み直そうなどと思っております。(受講者16)								
今後も新たなモデルや学説も出てくると思います。歴史や社会的背景などなど今回重要性に気付きました。理解できていない部分を深耕し、ビジネスフォームに重ねることが出来るよう復習します。(受講者27)								

授業科目名：管理会計

担当教員名：大西 靖

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら もない	そう もない	全く そう もない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	3	3	5	6	8
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	8	7	6	3
	意欲	4	授業によく出席していた。	12	9	4	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	2	4	16	0	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	4	13	6	2	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	4	9	7	3	2
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	0	7	11	5	2
可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	5	12	5	3	0	
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	18	6	0	1	0
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	12	10	2	0	1
		3-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。	11	9	3	0	2
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	4	7	8	6	0
	難易度や進度	11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	1	4	8	8	4
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	3	12	7	3	0

⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
反転授業により、原価計算の基礎的な事項を事前に学ぶ役に立った。(受講者11)	
具体的な説明を演習により、事前準備としては良かったが基本的な会計についての知識がなく、授業についていくのが大変でした。(受講者19)	
具体的に問題を解きながらの授業だったので、よく理解を深めることが出来た。何でもくり返し視聴することで、事前課題も解くことができた。(受講者33)	
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
全く予備知識がなく、用語から分からず調べる時間も持つことが出来ませんでした。(受講者13)	
管理会計や簿記の資格のない人間には複数回及び資料をプリントスクリーンで印刷して対応した。資料としてワードで添付していただければ楽だった。(受講者29)	
課題取り組みに反転授業だけでは厳しかった。テキストを用意して欲しい。(受講者31)	
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	
計算書を作成することで、組立の内容が理解できました。今まではポイント部のみ見ていましたが、その成立が解かりましたので、細部の検討がやりやすくなりました。(受講者7)	
会計用語を知ることで数字の意味が分かるようになり、決算予算の見方も前よりも分かるようになった。(受講者12)	
会計実務上の財務の基本を大筋で理解できました。実際の業績管理に活用したいと思います。(受講者15)	
現在、関係の深い業務を行っているが、かなり我流な部分があるので、本授業で学習した指標をもとに一度弊社、事業計画、業績を見直してみたいと思います。(受講者21)	
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください	
授業内容と時間を数えると、この時間では足りないくらいの内容かと思います。個人的な知識不足なものがありますので、この分野ではもっと根本的な各用語から理解したいと思います。次は機会があれば、別の会計について学びたいと考えます。(受講者3)	
具体的に、どういった課題に対して、こういったアプローチが役立ったのかなどの事例ベースでの話が聴ければもっとよ良かったと思います。(受講者21)	
更に細分化して時間をかけてほしい。具体的にASEAN子会社の報告書より読み取るなど。(受講者25)	

授業科目名：会計情報の利用

担当教員名：宗岡 徹

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	2	8	8	6	5
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	11	8	6	3
	意欲	4	授業によく出席していた。	12	12	4	1	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	10	17	1	1	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	14	14	1	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	9	16	3	1	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	12	12	4	1	2
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	16	12	0	1	0
	授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	7	18	0	2
3-2			反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	6	15	4	2	2
3-3			反転授業は学習を深めるのに役立った。	4	15	8	2	0
10			授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	14	11	3	1	0
や進 難易度		11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	8	13	5	2	1
効用性		12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	14	14	0	1	0

⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
反転授業の課題は非常に難しかったです。反転授業内で紹介された本を本屋で見ましたが、理解が難しため、マンガ付きの入門書を購入しました。そして、課題には取り組みましたが、ほぼ全問不正解でした。しかしながら反転授業に取り組んだためか、授業は感覚的に理解できたと思います。(受講者3)	
基本的な知識が不足しているのが良く分かりました。(受講者11)	
授業を受けるにあたりブラッシュアップができた。(受講者20)	
具体的なケースを与えられての予習だったため、当日の授業内容がつかみやすかった。(受講者33)	
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。	
不足する条件の設定により回答が異なるため、ディスカッションがなかなかまとまらなかった。対面授業の効率や効果を考えると、条件の設定について予め与えてもらえる方がよいかもしれない。(受講者9)	
反転授業を見るのを忘れ、授業についていく事が大変でした。(受講者14)	
反転にて“考え方”を教えてもらえたから、事前課題にとり組み易かった。(受講者25)	
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。	
現在、さらに今後、企業の買収に取り組んでおり、まさに必要な授業であった。(受講者2)	
この分野での知識がまったくなく、現在おこなっている業務とは全くかけはなれていたので、新しいことばかりでした。貸借対照表、損益計算書からいろいろ推測して原因を予想するのは、少しの知識でもグループワークに参加できたのでよかったです。(受講者17)	
経営計画の策定、事業会社の財務分析に役立つ。(受講者20)	
子会社の役員会での指摘項目として、P/LやB/Sを見ることが出来るようになった。また、各数字の見方も完璧ではないものの、考え方について経理部門のクローズの世界から“引っぱり出させる”ことが出来た。その他、若手社員への教育へ有効です！(受講者25)	
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください	
会計情報関係の更なる応用をもっと多く学びたい。(受講者1)	
実際の企業をモデルに財務分析のケーススタディ等を学びたいです。(受講者4)	
ROA、ROEの分析から自社と他社を比較分析することを学びたいです。(受講者10)	
細かな数字をP/L、B/Sから引き出せるようにしたい。(受講者14)	
計算システム(エクセル)を使い社内を見直したいと思います。(受講者18)	
対面授業で得た具体的な数値を全て理解できるまで勉強したい。(受講者26)	
もう少し時間を取って2期分、3期分の決算書から銀行がどのような視点を持っているかも聞きたい。(受講者29)	

授業科目名：税務

担当教員名：中村 繁隆

設問項目				強く 思う	そう 思う	い え な い ど ち ら と も	そ う 思 わ な い	全 く そ う 思 わ な い
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	2	4	5	10	4
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	1	7	6	9	2
	意欲	4	授業によく出席していた。	11	11	3	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	8	11	5	1	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	8	15	2	0	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	5	11	5	3	1
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	3	13	8	1	0
可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	10	14	1	0	0	
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	2	21	1	1	0
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	5	10	9	1	0
		3-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。	7	15	3	0	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	9	11	3	2	0
	難易度や進捗	11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	5	8	8	3	1
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	11	11	3	0	0
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
いきなり授業を受けて説明を聞くよりも反転授業を1度見て準備ができ、理解が深まりました。(受講者12)								
国際租税法の仕組みが大枠で理解できた。(受講者15)								
対面授業の中で時間を取れない内容を事前に学ぶことができたと思います。授業時間には限りがあるので、有効な方法だと感じました。(受講者26)								
・租税という科目で面倒だなと思ったが、中村先生の授業を受け興味が出た。 ・税金はコストという考え方と、グローバルタックスプランニングは今後の課題として捉えていきたい1つ。(受講者29)								
ほとんど予備知識の無い分野だったが、反転授業、資料とも分かりやすく、自前の予習がスムーズにできた。(受講者33)								
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
税制、管理会計は生徒間のレベルも差があると思うので、個別質問がしやすい対面をそれぞれ(東西)で行うほうが助かります。(受講者5)								
税務面の知識が無く言葉の理解からが事前学習となる。(受講者19)								
事前に調べる内容など細かく教えてもらえると、もっと取り組めたと思います。(受講者34)								
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
税金対策を検討することの重要性がわかり、海外で実践したい。(受講者2)								
・税＝難しいと思って授業にのぞみましたが、中村先生の説明は非常に分かりやすく税＝難しくないと感じました。 ・移転価格税制や子会社からの配当還流の税務など実務的なことを補う知識のきっかけとなりました。(受講者10)								
租税条約の内容を理解することで、二重課税を防ぐ。(受講者35)								
直接、自分の業務と関わるわけではないと思いますが、海外で経営するうえでは基礎的な内容くらいは理解しておくべきだと感じた。「どこかで1回課税する」という言葉がポイントなのだと思います。とても分かりやすかったです。(受講者36)								
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
今後もこの分野の学習はグローバル企業にとってMVSTの知識であり関大学び直しの授業でコマ数を増やしてほしい。特にBEPS、移転価格はMUSTだと思います。(受講者1)								
事例を用いたケーススタディによりより具体的に知りたい。(受講者19)								
実際に節税の方法をグローバルベースで考えられるスキルを持っていたら良いと思う。(受講者24)								
具体的企業の租税回避手法(受講者35)								
非常に分かりやすかったです。税ベースは理解できたので、また他の視点で学びたいです。(受講者36)								

授業科目名：ASEAN 法律制度

担当教員名：西澤 希久男

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件 前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	2	6	15	0
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	8	10	5	0
	意 欲	4	授業によく出席していた。	6	14	3	0	0
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	2	15	6	0	0
	変 容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	3	15	4	1	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	11	8	2	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	4	17	2	0	0
可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	4	15	4	0	0	
授業について	授業 内容や 方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	6	16	0	1	0
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	1	12	9	1	0
		3-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。	4	17	2	0	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	1	13	5	4	0
	や進 度 難 易 度	11	授業の難易度や進度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	0	16	4	3	0
	効 用 性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	1	14	7	1	0
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
ASEAN域内で共通の問題点(法的な)が存在することを意識するいい機会となった。(受講者6)								
eラーニングにより言葉のアレルギーなく、授業に入れました。反転が必要である。(受講者7)								
非常に不得意な科目で、日頃の業務とかけ離れていたため理解するために2回は視聴した。(受講者19)								
ASEANの実態が簡潔に分かりやすく説明してもらえ、基礎的な知識の習得に役立った。(受講者24)								
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
読み物としてASEAN憲章を見たとしても授業(現場)とのリンクがどうなされているのかなあと思いました。(受講者5)								
本講義で説明してもらったパワーポイントを事前にプリントアウトできた方がより反転授業を深く理解できたと思う。(受講者18)								
当日の説明資料を授業前(当日)までに配布して欲しい(授業中の重要なポイント等をメモしたいので)。(受講者19)								
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
人権問題、環境問題を社内規定に取り込みたい。またそれを強みとしてアセアンビジネス展開に差別化要因を出せる様になりたい。(受講者15)								
ビジネスを取り巻くリスクについて改めて考える必要があると考えさせられたので、ビジネスリスクについての整理をしたい。(受講者20)								
扱う商品の製造背景を理解していなければ、知らず知らず人権侵害に加担している可能性があり、定期的なチェックが必要。(受講者35)								
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
ASEAN諸国の法制度。本講義は日本から見た海外法制度、タイをベースにした人権問題、過失問題を重点的に行ったが、各ASEAN諸国から見た法制度それぞれの特徴を知りたい。(受講者6)								
自分たちの進出先の労働法規については学ぶ必要があると思っています。(受講者11)								
ASEAN地域の具体的な事例から注意すべき分野の法律やその解決。(受講者30)								
ベトナム、インドネシアに関するPL法(受講者35)								

授業科目名：ASEANの宗教・文化

担当教員名：小田 淑子、酒井 真道

設問項目				強く 思う	そう 思う	どちら とも いえない	そう 思わない	全く そう 思わない
学習者について	条件前提	1	授業を受けるにあたり、授業科目に関する予備知識をもっていた。	0	7	10	9	1
		2	授業を受けるにあたり、書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	0	8	10	8	1
	意欲	4	授業によく出席していた。	6	15	4	1	1
		5	授業で学んだことについて、書籍や情報を調べるなどして復習に取り組んだ。	1	14	8	4	0
	変容	6	授業を受けて、知的好奇心が刺激され自分の意欲が高まった。	5	14	7	1	0
		7	授業の中で、既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	2	15	8	2	0
		8	授業の中で、他の授業者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	0	8	17	2	0
	可能性	9	今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	2	13	9	3	0
授業について	授業内容や方法	3-1	e-learningによる反転授業：事前配信したビデオ映像(以下、反転授業)を視聴した。	7	19	1	0	0
		3-2	反転授業の事前課題(レポート等)に取り組んだ。	6	13	4	3	1
		3-3	反転授業は学習を深めるのに役立った。	6	18	1	2	0
		10	授業の内容や方法は、自分のニーズに合致するものであった。	1	14	10	2	0
	難易度や進捗度	11	授業の難易度や進捗度は、自分の理解を深めるのに適切であった。	3	15	7	2	0
	効用性	12	授業は、今後の自分の業務に役に立つものである。	2	16	6	3	0
⑬反転授業を受けて、成果だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
事前にASEANの宗教や日本、イスラムなどの宗教に対する概念を理解する上で役に立った。併せて事前に自分で確認するきっかけになったと思う。(受講者1)								
基本的言語の意味、自身の考えは先にまとめておきましたので、授業に対する切り口が用意できて良かったです。(受講者5)								
授業の内容が想像でき、授業にすんなり入れた。(受講者24)								
宗教について理解できるベースが身に付いたと思える。日本の仏教とタイの仏教の違いが事前に理解できた。(受講者36)								
⑬反転授業を受けて、問題点だと思うことは何ですか。具体的に記入してください。								
日頃から宗教について口にしたりする機会がないので、事前に反転を見てきましたが、なかなか入ってきません。(受講者7)								
当日の配布物も同時にUPしてもらえればより授業に入りやすかったと思う。(受講者33)								
中途半端な知識を得たので、もっと勉強する時間が必要。専門的な知識を知る人が周りにいない。(受講者34)								
⑭この授業科目で学んだことは、あなたの現在の仕事にどのように役立ちますか。具体的に記入してください。								
・イスラム教については知識が薄いため、今回お話を聞け、イスラム圏についての知識を得ることができた。								
・タイの仏教については仕事上よく関わっており知っているつもりであったが、整理された知識を得ることができた。(受講者3)								
宗教について客観的に初めて学ばせて頂きました。自分の知識として、役立てていきます。小田先生のバワフルな講義に感服しました。(受講者31)								
タイの方とのコミュニケーションの取り方が一つ増えた。日本の宗教についても答えられるようになった。(受講者34)								
⑮今後、この授業科目に関してさらに学びたいことは何ですか。具体的に記入してください								
自分自身の身の回りの宗教に関して(日本)、実はよく分かっていないので、授業ではなく調べてみたい(個人的に)。(受講者3)								
フィリピン(キリスト教)を担当しているため、キリスト教について学び実務に役立てたいです。(受講者10)								
仕事のパートナーとして他宗教者と良い付き合い方を学びたいです。(受講者18)								
各宗教における最低限の意識をつけれるよう勉強します。(受講者19)								
各宗教(信者)に対する企業の対応(受講者35)								

3-4 授業に関するインタビュー調査

インタビューの目的は、半年間の受講を終えた受講者の率直な感想を聞き取り、内容を分析・考察することでプログラムの改善に活かすというものである。インタビューの方法は、半構造化面接で一人約15分間であった。春学期と秋学期に得られた結果をもとに今後の改善点を見出したいと考える。

3-4-1 インタビュー結果と考察（春学期）

対 象	春学期受講者 22名
時 期	8～9月
内 容	①参加動機 ②成果 ③課題 ④授業設計 ⑤自己変容

①参加動機

- ・会社から参加を促されて参加した受講者と、プログラムに関する情報を得て自主的に参加した受講者の割合は、3：7であった。いずれの場合でも、自分自身で目標設定が出来ている人は意欲も高く、学習に能動的に取り組んでいる。
- ・会社に指示されて参加した人でも、他の受講者から刺激を受けて学習への意欲を高めていった受講者がみられた。

⇒参加動機に関わらず、学習へ継続的に取り組み意欲付けを図るためには、学習内容の検討に加えて、協働学習の場を意図的に設定することが効果的である。

②成果

- ・自分自身の目標が達成できた、もしくは、達成のための糸口になったと応答した受講者が大半であった。一方、受講することで自分自身の能力や意識の高さを再認識し、今後の自己学習の必要性を感じたと応答する受講者もいた。個々に目標設定は異なるが、受講したことにより自己の変容を確認することができたという応答が得られた。
- ・講義内容への満足度に加えて、他の企業の方とのコミュニケーションを通して、新たな視点を獲得し、互いに刺激し合えたことは大きな成果であると感じる受講者が多かった。また、受講者同士のネットワークの構築についても成果として挙げられている。

⇒個々により目標値は異なるが、プログラムに参加して一定の成果を実感することができたと思われる。ただ、受講したことが実務にどのように活用できるのか、実際に海外で仕事に携わった方を対象に追跡調査するのもよいと思われる。

③課題

- ・東京会場での孤立感と学習環境（音声や画像、資料配布、電源接続等の整備）の問題が挙げられていた。また、遠隔地との距離感があり、大阪との双方向の授業になりにくいという指摘もあった。
- ・土曜日は出席しにくいことが多く、平日の夜間の授業も検討してほしいという希望が出された。
- ・個々のニーズや目標値に合致しない科目もあり、科目のレベル差が大きいという意見があった。
- ・復習をする時間が取りにくい。自分自身の問題だが、宿題が多いと対応しきれないことがあるとの意見があった。

⇒東京会場の学習環境については、スタッフ等の尽力により、かなりの改善が図られてきている。また、教材としての資料配布や、資料提示の仕方も工夫され、東京・大阪間の事務局の連携がうまく行われている。今後も東京会場でのスタッフとの連携について検討していく。

⇒機器等の整備に関しては、今後、さらに検討する必要があると思われる。

⇒授業科目や遠隔授業のあり方、授業設計については、学習者のニーズと学習内容という視点での継続的な検討が必要である。例えば、遠隔授業の際の要件等も、授業担当者徒と共に考えていけるといいのではないか。

④授業設計

- ・ブレンディッド学習(eラーニングと対面授業の混合)については好評であった。
- ・機器の問題でパソコン操作がうまくいかず、反転授業や復習のビデオが視聴しにくかったという声があった。
- ・東京は遠隔授業が大半を占めていたので、対面授業も入れてほしいという要望があった。

⇒東京での対面授業を検討し、秋学期には一部の科目(異文化コミュニケーション、シンキングチャートの活用、会計情報の利用等)において実施計画を立てた。

授業設計の中で、とりわけ反転授業に関しては、以下のような結果が得られた。反転授業に関するインタビューデータの抜粋(◎肯定意見 ●否定意見 ☆今後の活用)は以下の通りである。

- ◎前もって予習することで、先生がどこを重点的に話すのかが分かり、本授業の理解が深まった。
 - ◎映像を視聴することで内容はよく伝わる。学習者にモチベーションがあれば、余計によく伝わる。
 - ◎先生はこのような授業をするのだというイメージ作りができるので、授業の前に自分の頭の中でいろいろと想像することができる。そのため、授業にスムーズに入っていける。
 - ◎アウトラインを理解した上で、自分の中で見てみたいもの、何をポイントにしていきたいかということを投げかけていただいているのがいい。
 - 反転授業の内容が本授業でなぞられていて、もうちょっと割愛されて本題の方にその時間をディスカッションに使ってほしいなと思った。
 - ちょっと時間が長いのがよくない。要点の提示でいいのではないかと思う。
 - 作業になる課題や量が多すぎると、やらされる感じがあってよくない。
 - 反転授業のビデオを見ようと思ったときに、環境がなかなか整わないことがあり、視聴意欲をなくすことがあった。
- ☆10分か15分程度で視聴でき、内容を絞った課題、考えさせる課題を出すのがいいかと思う。また、課題を出した際の回収の仕方を検討してほしい。
- ☆映像とペーパーと両方あれば、学習する状況に応じて使い分けることができていい。
- ☆授業でやることの意味などを伝えて、内容がイメージできるインフォメーションであるときにはすごく有効だと思う。
- ☆反転授業が必要な科目とそうでない科目とがあったように思われる。

⇒インタビューを通して、ほとんどの受講者が反転授業を効果的な学習方法だと実感していることが分かった。一部の受講者に、機器の不具合で視聴できない場合があったので、今後、改善策を検討したい。本インタビュー結果から、反転授業が社会人教育にとって効果的かつ効率的な学習を促すものであるということが分かる。

⇒インタビュー結果を質的に分析した結果、効果的な反転授業には、＜学習の意味付け＞＜学習の目的意識＞＜学習内容と構成＞という3つの要因が作用していると解釈することができた。

⑤自己変容

- ・自分自身の目標が明確になったという意見や、他者との交流を経て、自分を再確認できたという気付きがあった。他者と自己との比較を通して、自己を客観的にとらえるきっかけが得られたようである。
- ・変容とまではいかなくとも、自分の方向性が見えたと述べる受講者もいた。
- ・今回のように継続的かつ体系的に学ぶことができて、課題対処への活路が見出せたと述べる受講者もいた。

3-4-2 反転授業の要件

春学期のインタビューの結果をふまえて、反転授業の要件を以下の形にまとめることができる。

＜学習の意味付け＞
 学習者自身が学習の意味を再認識し、自分は、何のために、なぜ学ぶのかという自らの学習姿勢を問い返す働きかけが必要である。

＜学習の目的意識＞
 学習の目的とゴールを明確にし、どのように学んでいくと実務に役立つのか意識する働きかけや、実感できる場の設定が必要である。

＜学習内容と構成＞
 反転授業の設計の中に、「適切な時間」「本授業との接続」「内容の量とバランス」「課題と資料」を効果的に位置付ける。

⇒受講者に「学習の目的意識」をもたせるためには、授業の中で、実務への活用の仕方を考える場を設定する等、受講者に当事者意識を促し、能動的な学習を支援していくことが必要である。

⇒反転授業の「学習内容と構成」に関しては、以下のような工夫が必要であると考ええる。

「適切な時間」・・・一つのトピックは10分未満で、チャプターを設けて全体を構成する。

「本授業との接続」・・・反転授業の学習内容をシラバスに位置付ける。また、本授業において、反転授業での課題のフィードバックの場面を設定する。

「内容の量とバランス」・・・学習内容は簡潔に、トピックを中心に絞って提示する。

「課題と資料」・・・ビデオと紙媒体資料を併用する。できるだけ事前に資料が配布されるように配慮する。

3-4-3 インタビュー結果と考察（秋学期）

対 象	秋学期受講者 30名
時 期	2～3月
内 容	①参加動機 ②成果 ③課題 ④授業設計 ⑤実務への活用の可能性

①参加動機

- ・30名の受講者のうち、会社の人事課や部長から紹介されて参加を促された受講者は11名、自分から進んで希望した受講者は14名であった。
- ・5名の受講者は、自身は海外赴任の予定はないが、海外へ人材を派遣する研修担当や海外子会社の管理・サポートに関わっている。彼らは、自らが受講することで効果的な研修について模索しつつ、本プログラムの学習内容を確認するために参加を希望したのであった。
- ・会社の方針とプログラムの趣旨が一致し参加の価値を見出し参加した人がほとんどであった。

⇒参加動機にかかわらず、目的意識をもって受講した人は主体的に学習に参加している。さらに、受講者への会社からのサポートは、学習への意欲向上や持続力維持に一定の効果をもたらしていると考えられる。

②成果

- ・経営管理能力を付けるために、宗教、人事、経営など広範囲の学習についての知識やスキルを体系的に学ぶことができたのは、大変有益であったという応答が大半を占めた。
- ・海外で業務を行う場合もそうだが、日本から海外の事業会社を見る側にとっても必要な要素を多く含むものであり、質の高いプログラムであるという声が聞かれた。
- ・春学期と同様に、講義内容への満足度に加えて、他の企業の方とのコミュニケーションを通して、新たな視点を獲得し、互いに刺激し合えたことは大きな成果であると感じる受講者が多かった。

⇒異企業、異業種の受講者が、互いの経験をもとに情報を交換し合い、テーマについてディスカッションすることで、自己を再認識する観点が得られる。今後も授業設計上の工夫を図っていきたい。

⇒プログラムに参加することで、個々の目標に応じた成果を実感することができたと思われる。また、受講者同士のコミュニティ活動(情報交流、企業訪問等)についても、徐々にではあるが動き出しており、今後の活動が期待される。

③課題

- ・受講者自身に関わる課題として、海外経験の有無により授業内容が実感できない科目があり、グループワークへ積極的に参加しにくい場面があった。また、業務とのやりくりの中で、時間を生み出すことが難しく、毎週の授業への参加が負担になる時もあったとの応答が得られた。
- ・土曜日は出席しにくいことが多く、平日の夜間の授業も検討してほしいという意見や、復習をする時間の確保や宿題への対応について苦慮しているという声があった。
- ・プログラムに関わる課題として、一科目ごとのコマ数を増やしてほしい、授業コマ数の少ない科目に対してフォローが欲しいという要望があった。また、受講者層のバラつきが大きいため、質の高い議論ができず、もう少しターゲットを絞った方が効果的ではないかという意見があった。

⇒東京会場の学習環境については、整備、改善が図られてきているため、春学期に出されたような不満の声はほとんど聞かれなかった。ただ、機器(大きなテレビ画面や良質のマイク等)の整備や改善に関する要望は出されているため、今後も検討する必要があると思われる。

⇒授業科目の時間数や配置、遠隔授業の効果的な設計については、学習者のニーズを取り入れた上で、学習効果を測りながら継続的に検討していく必要があると考える。

⇒受講日が土曜日に集中している点に関しては、社会人が参加しやすい平日の夜間等の設定を検討している。

④授業設計

- ・30名全ての受講者が反転授業の効果を認め、ブレンディッド学習(eラーニングと対面授業の混合)の設計に関して教育的価値を認めている。ただ、春学期同様、機器の問題でパソコン操作がうまくいかなかったという声が、一部の受講者から聞かれた。機器の活用に関しては個別に対応していきたいと考える。
- ・実務のために欠席した場合でもビデオ視聴ができる、自分の苦手な領域の科目では複数回視聴できるのも大変有益であったというeラーニングの利点を評価する応答が多かった。
- ・反転授業は非常に良く、複数回見ることもあるが、課題をこなすことで精一杯なため授業ビデオを再視聴して復習することは難しいという意見もあった。

⇒東京での対面授業を検討した上で、秋学期には、「異文化コミュニケーション」や「シンキングチャートの活用」、「会計情報の利用」等という意見ものの科目を東京で実施した。

⇒eラーニングの活用について、今後さらに質の高い内容にしていけるために改善していく。

秋学期では、春学期終了時点で得られた反転授業の要件を少しずつ取り入れながら実施していった。反転授業に関するインタビューデータの抜粋(◎肯定意見 ●否定意見 ☆今後の活用)は以下の通りである。

- ◎事前学習としてとても有効である。20分から30分という時間もとても良い。業務の隙間でも視聴でき何度でも繰り返すことができるので、忙しい社会人には効果的である。
- ◎反転授業があるからこそ、温まった状態で対面授業が受けられる。
- ◎はじめに反転を見るだけでも予備知識が入ってくる。インターネットで講義内容を調べるなど、事前準備ができる。いつでも自分の好きな時間に視聴できるところもニーズに合っている。
- ◎欠席した際、自宅でスマートフォンで授業を見て理解することもでき、事前に見ることや後から振り返ることもできて非常に助かる。また、出張先でスマートフォンやアイパッド等で視聴できるのもよい。
- ◎社会人になってから予習して研修等に参加する機会がなかったが、事前に内容を聞き、課題が出るとより集中して聞いた上で課題に取り組むので非常に良い。
- ◎この度初めて知った授業方式だった。課題を出してくれる先生はありがたかった。講義の入口を示してくれて問題意識をもって授業に臨むことができた。
- ◎反転授業によって対面授業においてより深く学ぶことができ、ディスカッションやプレゼンをメインにできるところがよかった。

- ◎一般の企業研修では事前に簡条書されたシラバスを見るだけである。映像として見ることは意欲的に学ぶための助けとなる。また、反転授業から対面授業への接続もスムーズであった。改善の必要性はないと思う。
- 時間は適切だったが、内容と目的がやや明確でないものがあったように思う。
- ANDROIDとの相性が良くないのが残念。
- 視聴はインターネット・エクスプローラだったが、操作性は悪かった。
- ☆反転授業アップや課題についてのお知らせメールがあればありがたい。
- ☆科目によっては事前ペーパーがあれば学習に役立つ。また、仕事中の昼休みに動画の視聴ができなかったので、紙媒体で資料があるといいと思う。
- ☆CEASは春学期に比べて科目が見やすくなったが、日付順になればもっと見やすいのではないかな。
- ☆TV会議システムのモニターは先生の顔、もう一つのプロジェクターは教室内の他の受講者の様子を映すと、みんなの反応も分かるし一体感が出るのではないかな。
- ☆課題をこなすのは大変だが、次への活力になるのでフィードバックが欲しい。
- ☆反転授業の20分は全く問題ないしすごくメリットがあった。その後にプラスアルファで見ておくべきサイトや文献資料など紹介していただくと受講者の満足度が高まるのではないかな。
- ☆反転のアップの間隔や課題を出す間隔、課題提出の間隔がバラバラだったので、ある程度タイムスパンが決まっていなくて社会人にはつらいと思う。
- ☆反転授業では、全て課題を出し提出させるという負荷をかけたほうがいい。その方が対面授業でもっと深い理解に繋がる。

⑤実務への活用の可能性

- ・自分自身の実務の見直しを図る等、自分にとってはどの授業も有益なものだった。
- ・社内には研修システムがないため、総務財務関係者、日本サイドから人を派遣する側にも有益であった。
- ・自分の実務に関わる「税務」を貿易取引の観点からみたり、社内でも問題が出たときに「シンキングチャート」を活用したりできると思った。
- ・得意先に今後外国人が多くなるので、異文化コミュニケーションや宗教の授業で学んだことは人間関係の構築にも役立つ。
- ・海外に行かなくても考え方が変化したと自分でも認識している。税務の授業では、今までとは別の考え方、視点を持って取り組めるという期待感がある。プログラムを通して、「知らなかったことに気づかされた」ということが一番大きかった。責任者になった時、自分に足りないものを補えるようになりたいと思う。
- ・今回学んだことは、台湾の駐在員に指導すること等で、実務に使う自らも学び直せると思う。また、本社、国内子会社、海外子会社において、経営者としての視点で業務にあたることで、今までと違った施策の提案をしていきたい。
- ・講義の全てを役立てるつもりで聴いている。実務への活用は意識の問題であると思う。
- ・自分の小ささを感じ、先人の偉大さを感じることでできる貴重な機会だった。税務、法制度、経営者の役割などの科目が実務に大きく役立つ。受講者間で質問を共有することも有意義であった。
- ・他業種のあらゆる世代の受講者とのコミュニケーション、ディスカッションが非常に役立つと思う。グループでの協働ワークは部下を育成する場面で活用できる。
- ・実務への可能性は大きいと思う。自分は海外に人を送り込む立場だが、このプログラムがなかったら彼らへの教育の手段としてどんなプランを立てていたかと思う。社内のプログラムは自分が作っているが、今回もリソースはいろいろあると感じた。
- ・シンキングチャートの技法を別の科目で活用したのは非常に良かった。実務でも活用可能である。
- ・ほとんどの授業は実務への活用が可能であると思う。また、他者と意見交流をしたり自らも発表することで、プレゼンや意見を整理する練習になった。
- ・日本側にいる人間にとっては「グローバル企業の人材育成」の講義は役立つと思った。実務に近いものであった。
- ・自社に海外赴任者のためのプログラムはないため、社内で研修プログラムの設計にも携わっていきたい。このプログラムは全般的に網羅されているので活用できる。

⇒受講者のバックグラウンドや目標値は異なるが、実務への活用の可能性は大きいと言えるだろう。

⇒主体性を発揮し、多様な考え方を受け入れながら協働的に学ぶ経験は、実務に役立つものであると言える。

4

プログラムの普及・広報活動

平成27年度については、本事業を広く周知するために、以下の通り業務委託を行った。それぞれの用途並びに成果等について、以下の通り報告する。

4-1

フライヤーのリニューアル

昨年度に作成したA4版のフライヤーをリニューアルし、本プログラムが広く普及するために継続して配付を行った。具体的な配付機会としては、企業の人事担当者と本学教員が参加する「名刺交換会」や、3月開催のシンポジウムならびにFDワークショップの案内時に資料として同封した。また、実務家教員候補者や新規モニター企業候補など、プログラムの説明時に頻繁に配付した。



4-2

Webサイトの充実

構築した平成26年度当初には、教員の顔写真やプログラムの内容が確定していない未完成のものであったため、継続して充実を図った。

モニター受講者の募集時期にはトップページのスライダー部分に当該内容を表示させたり、News欄に記事を掲載するなど、タイムリーに更新を行ったため、昨年度から大幅にページビュー数が約10倍に増大した(平成26年度1,951、平成27年度18,591)。

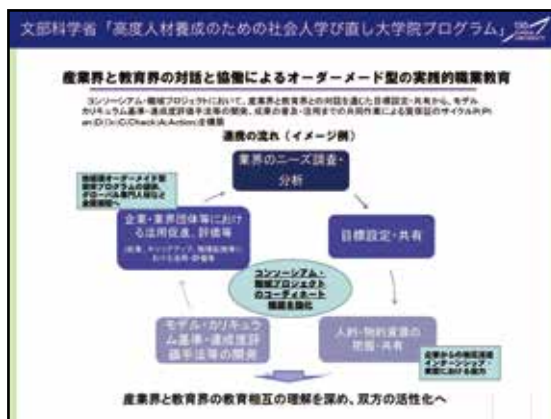
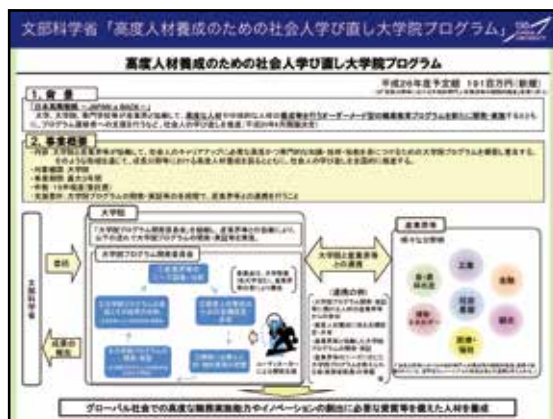
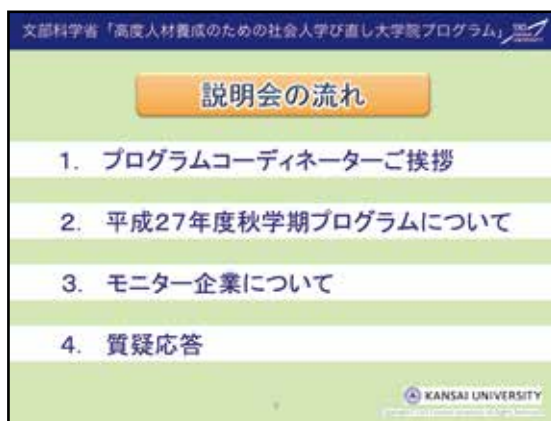


4-3 説明会の実施

平成27年度秋学期モニター受講者の募集を広報することを目的として、本学のうめきたラボラトリ(グランフロント大阪ナレッジキャピタル)、東京センターを利用してモニター企業向け説明会を開催した。同説明会の広報のために、昨年度のニーズ調査アンケートに回答があった324社をはじめとして、りそなグループの協力もあり、合計38社55名の参加があった。

説明会では、下記のパワーポイントスライドを基に、以下のとおり説明を行った。

- 1 プログラムの概要説明(宗岡徹プログラムコーディネーター)
- 2 授業運営方法の説明(西尾三津子インストラクショナルデザイナー)
- 3 平成28年度秋学期プログラムの概要説明(神宮司健太)



(1) 分野別認定・認定大学数

分野	認定大学数		認定大学数		認定大学数		認定大学数		合計
	認定数	認定率	認定数	認定率	認定数	認定率	認定数	認定率	
理工系	10	1	14	3	4	1	18	5	
経済系	3	1	1	1	1	1	5	2	
総合系	23	6	2	1	6	2	11	3	
合計	36	6	17	5	11	3	47	14	

(2) 認定第一等

分野	認定大学	認定大学数	認定大学数	認定大学数	認定大学数	認定大学数	認定大学数	認定大学数
理工系	東京大学	1	1	1	1	1	1	1
	京都大学	1	1	1	1	1	1	1
	大阪大学	1	1	1	1	1	1	1
	名古屋大学	1	1	1	1	1	1	1
経済系	東京大学	1	1	1	1	1	1	1
	京都大学	1	1	1	1	1	1	1
	大阪大学	1	1	1	1	1	1	1
	名古屋大学	1	1	1	1	1	1	1
総合系	東京大学	1	1	1	1	1	1	1
	京都大学	1	1	1	1	1	1	1
	大阪大学	1	1	1	1	1	1	1
	名古屋大学	1	1	1	1	1	1	1

文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

2. 平成27年度秋学期プログラムについて

■ 受講の流れ

■ 開講期間・受講料・場所

■ 開講科目

■ 授業風景

■ 受講にあたってのお願い

■ 申込方法・期間・お問い合わせ

文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

2. 平成27年度秋学期プログラムについて

■ 受講の流れ

■ 開講期間・受講料・場所

■ 開講科目

■ 授業風景

■ 受講にあたってのお願い

■ 申込方法・期間・お問い合わせ

文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

■ 受講の流れ

反転授業(e-learning)

講義(スクーリング)

復習(e-learning)

授業評価アンケート

文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

■ 開講期間・受講料・場所

❖ 開講期間

反転授業(e-learning) 平成27年9月下旬～随時配信予定

講義(スクーリング) 平成27年10月10日(土)～平成28年3月12日(土)の土曜日(11/15のみ、日曜含む)

❖ 受講料

モニター受講期間は無料(集中授業については参加費を別途徴収)

❖ 授業実施場所(平成27年度)

①大阪近郊: 関西大学千里山キャンパス 第2学舎2号館5階 C505教室

②東京近郊: 関西大学東京センター(サピアタワー9階)

※東京会場については、TV会議システムで配信

文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

■ 開講科目

科目名	単位数
● 講義(スクーリング) ●	20単位
最先端ITとマーケティング	1.0単位
経営者のためのシンキングマインドの活用(集中授業)	2.0単位
マーケティング戦略	4.0単位
組織・経営戦略	4.0単位
経営経済	4.0単位
社会経済学概論	4.0単位
社会経済学概論・文化	4.0単位
経営会計	2.0単位
経営	2.0単位
経営戦略の活用	2.0単位
海外企業における経営者の役割	4.0単位
海外企業における経営者として必要となる力	2.0単位
グローバル企業の人材育成	2.0単位
企業経営者で活躍する国際(グローバル)企業経営	2.0単位

文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

■ 受講にあたってのお願い

❖ 授業評価アンケート

❖ 受講者インタビューについて

❖ 動画及び写真撮影について

文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

■ 申込方法・期間・お問い合わせ

(1) 申請方法

ア 提出書類

●モニター受講申込書 一人1枚(要押印)

●意思確認等書類 各企業1枚(社長名もしくは総務部長、人事部長等の社印)

※WebサイトURL(<http://www.kansai-u.ac.jp/research/schedule.php>)よりダウンロード可能

(2) 受付期間

平成27年9月7日(月)～9月11日(金) 必着

(3) 書類送付先

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学 社会人学び直し大学院プログラムオフィス

文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

3. モニター企業について

❖ モニター受講者を派遣いただく企業は、本プログラムの「モニター企業」として選定

❖ 「意思確認等書類」を社長名(もしくは総務部長、人事部長等)で提出

❖ 申し込み状況によって、受け入れ受講者数を調整する可能性あり

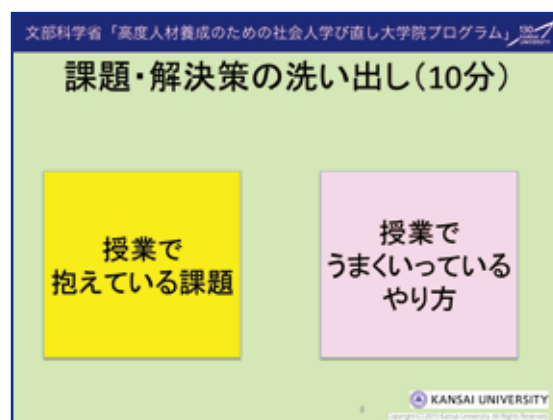
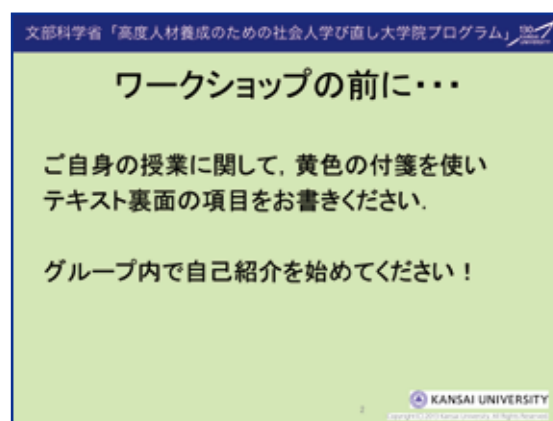
4-4 公開FDワークショップ

本プログラムの普及を目的として、FDワークショップならびにシンポジウムを開催した。

○公開FDワークショップ

日時	場所	参加者
平成28年3月10日(木)	関西大学千里山キャンパス	19

社会人の学び直しのニーズに対応するため、専門家によるレクチャーと立場や意見の異なる参加者による討論を通して、社会人教育の授業設計や学習支援のあり方を考え、より良質な教育プログラムの開発、実施をめざすことを目的として、下記のとおり公開FDワークショップを実施した。





4-5 公開シンポジウム

日時	場所	参加者
平成 28 年 3 月 16 日（水）	関西大学千里山キャンパス	40

2年間の成果の発表を兼ねた基調講演ならびにパネルディスカッションを行った。第1部では、ASEAN子会社の経営に関する現状と課題、ならびに現地の情報を把握することを目的として基調講演いただき、第2部では、立場や背景が異なるパネリストによるディスカッションを通じて、ASEAN子会社の経営者教育の課題について意見交換し、より良質な教育プログラムを開発すること等を目的として実施した。

以下は、当日のシンポジウム内容の記録（抜粋）である。

社会人学び直しシンポジウム「ASEANの現状と経営者教育」講演記録(抜粋)

開会の挨拶 関西大学副学長 吉田栄司

第1部 基調講演

「大阪府の中小企業海外展開支援施策と知事ミッション帰朝報告」

大阪府商工労働部 成長産業振興室 参事 仲畑尚敏 氏

「ASEANの日系企業を取り巻くビジネス環境」

ジェトロ海外調査部 アジア大洋州課 課長 池部亮 氏

第2部 パネルディスカッション

「ASEAN子会社の経営者教育の現状と課題」

パネリスト 泉州電業株式会社 代表取締役社長 西村元秀 氏

大建工業株式会社 海外事業企画部 次長 本田貴久 氏

株式会社東研サーモテック 営業部 部長 小田実 氏

関西大学経済学部 教授 後藤健太

関西大学教育推進部 特別任用助教 西尾三津子

コーディネーター 関西大学副学長 林宏昭

閉会の挨拶 関西大学副学長 林宏昭

第1部 基調講演

「大阪府の中小企業海外展開支援施策と知事ミッション帰朝報告」

大阪府商工労働部 成長産業振興室 参事 仲畑尚敏 氏

私は商工労働部で、国際経済交流促進を担当しております。今回は、関西大学主催のシンポジウム「ASEANの現状と経営者教育」ということで、ASEANに関するお話をということでございます。詳細なASEANの分析や現状分析、今後の発展や展開等については、この後、登壇される専門家の方々がより詳しくお話しされると思いますが、私からは、大阪府では大阪府の中小企業さまの特に海外展開をいろいろと支援させていただいております、その支援施策について、特にASEANを中心にお話しさせていただきたいと思います。また、その支援施策の一環といたしまして、ほぼ毎年、知事が現地に出向きまして、販路開拓や現地の政府機関との関係構築を行っております。私どもはトップミッションプログラムと呼んでおりますが、本年1月からもフィリピンへ行って参りました。ちょうどASEANですので、そのときの状況と、今後、中小企業のフィリピンの展開に役立ちそうな覚書等もいろいろと締結して参りましたので、そうしたプログラムについてお話しさせていただきたいと思います。限られた時間でございますが、よろしくお願いいたします。

まず、大阪府商工労働部ですけれども、大阪府の商工業の振興を図るために、融資や助成、情報提供、技術、経営、販路開拓支援、人材育成などの仕事を行っております。それ以外にも、高年齢者、障害者の雇用促進や雇用確保、労働福祉の向上、職業能力の向上などを主な仕事としております。その商工労働部の中に、成長産業振興室というのがあります。主に三つの柱をメーンに据えまして、その振興を図って、大阪の産業の発展を目指そうということでやっております。一つ目の柱は、新エネルギー産業です。蓄電池や水素・燃料電池などの新エネルギー産業を振興させます。それから2番目は、ライフサイエンス産業。大阪はご存じのように薬の町と言われておりました。そういった関係から、医薬品や医療機器などの産業、ライフサイエンス産業を振興させようというのが二つ目の柱です。そして、三つ目の柱が中小企業です。大阪はやはり中小企業の町です。府内企業の約99.6パーセントが中小企業です。その中小企業の方々に頑張っていただかないと大阪の産業の振興はあり得ないということで、特に中小企業さまの特に海外展開を私どもは支援しております。

国際ビジネスにあまり精通されていられない中小企業を対象に、主に五つのニーズに対応したサポートを提供しております。1番目は、国際ビジネスに関するさまざまな情報を収集したいけれども、その手段がない、その方法が分からないという方々に対しまして、経済セミナーを実施しております。

それから2番目としまして、国際ビジネスに関するいろいろな課題についての相談、例えば、海外と取引するのにL/Cとはどんなものだろうか、貿易保険とはどんなものだろうか、といったような問題から始まりまして、あらゆる課題に対応するために、私どもは大阪産業振興機構という外部団体を持っており、そこに相談窓口を設置しております。

3番目としまして、海外でパートナーを探したいけれども、その方法が分からないし、海外の拠点も何もないという方々に対しまして、大阪府の上海事務所および大阪ビジネスサポートデスクというのを設置しております。

それから4番目としまして、海外企業との直接的なマッチングイベントにいろいろ参加したいけれども、その手段もあまりないというニーズに対しまして、経済ミッション団の派遣に参加いただいたり、海外の見本市に出展をしていただいたりしています。また、大阪にもしばしば海外から経済団が来られますので、そういった方々との交流の場を設定するといったことをやっております。

それから5番目が、先ほど少し触れましたけれども、大阪府知事がトップに立ちまして、海外の政府機関や有力企業に自社の製品や技術を紹介したり、先頭に立って開拓したりする海外トッププロモーションというプログラムです。

主にこの五つのプログラムを中心に、企業さまの海外展開の支援をさせていただいております。(中略)

そして最後に、トップミッションというのがございまして、これは大阪府の知事が音頭を取って海外の市場開拓に行こうというものです。ここに書いてありますように、平成21年度から本年度のフィリピンまで、東南アジアを中心にトップミッションを派遣しております。毎年、10社から20社の会社の幹部の方や役員の方、社長などに参加していただいて、このミッション派遣をきっかけに交流が始まって、具体的な商談を経て成果につながったということも多々あり、高い評価を得ております。

その一環といたしまして、本年度は1月12日から14日まで、フィリピンに行って参りました。参加メンバーは大阪府の松井知事、そして植田副知事のお二人ですが、知事は公務の関係で1日しか参加できないということで、その後は植田副知事がミッションを引率されまして行事をこなして参りました。それ以外に、大阪観光局や新関西空港などのメンバーにも参加いただき、経済ミッションにつきましては19社23名の方々に参加いただき

ました。訪問先といたしましては、貿易産業省、フィリピン経済区庁、そしてファーストフィリピン・ホールディング社、アヤラ・コーポレーションというフィリピンを代表する財閥の本部を訪問し、今後は大阪との国際経済交流を活発化していこうということで一致いたしました。それから、大阪プロモーションセミナーというものを行いまして、経済・観光・空港という切り口から大阪をアピールして参りました。また、参加いただきましたミッションの方には、フィリピン企業とのビジネス商談会をやって参りました。フィリピン企業38社と、主に物作りである、電子機器、工作機械、自動車部品などの分野での商談会を実施いたしました。半日で商談件数が100件を超えるといったように、非常に良い成果が収められたのではないかと考えております。さらなる契約に向けて、各社、引き続いて交渉されているようです。(中略)

大阪府は、こういった支援プログラムを持っております。今後、皆さま方の企業経営にあたりまして、こうした府の施策を積極的に利用していただき、ビジネスを積極的に展開していただき、元気を出していただければ、大阪も元気になります。大阪府としましては、全面的にサポートさせていただきますので、何かありましたら、ぜひご連絡いただければと考えております。非常に簡単ではございますが、大阪府の中小企業海外展開支援施策、そして、この度フィリピンで締結しましたプログラムについて説明させていただきました。どうもありがとうございました。

「ASEANの日系企業を取り巻くビジネス環境」

ジェトロ海外調査部 アジア大洋州課 課長 池部亮 氏

「ASEANの日系企業を取り巻くビジネス環境」ということで、なかなか30分足らずではお話ししきれないところもあるのですが、それでも、やや網羅的にお話できるようにしたいと思います。(中略)

ASEANというのは非常に多様であって、これがAECという経済では共同体を作るとなっていますが、何がその魅力なのか、この後、ご説明しますが、大きな話で言えば多様性なのだと思います。経済的な格差というのも、ある意味では魅力なのです。GDPが1人当たり1000ドル少しの国で、1カ月の賃金が100ドルというところであれば、労働集約的な産業を持ていきます。縫製品、アパレルなどが向いているでしょう。一方で、シンガポールのような裕福な国もあります。日本よりも1人当たりのGDPは高いですから。そういったところでは、高度なサービスやそういったものを提供する大きな市場があると考え、10カ国とは言っても、非常にばらけた経済規模の国々が並んでいると考えています。(中略)

最後にしますが、やはり日本企業がいまアジアに出て一番困っていることで共通しているところは賃金の上昇だと思うのですが、もう一つは賄賂です。税関や消防、環境局、警察などが、実地検査で頻繁に工場に来るわけですね。税関は輸入のときも輸出のときも関係しますので、いろいろな意味でファシリテーション費のようなものを要求されます。これが日常業務に対して1件何百円という安いものだったとしても、日本の企業はコンプライアンスにがんじがらめですから。それが悪いことだとは思いませんけれども、「そんなもの、くそ食らえだ」と言っている企業も多いなか、日本企業だけが狙い撃ちにされているケースも結構見受けられます。日本は真面目に払ってくれるから、これもぶつけてやれ、これも要求してみようというようなことを行政サービス側に生じさせている面もあります。ですので、コンプライアンスが最大の競争阻害要因みたいなことをおっしゃる人が増えてきています。手続きが煩雑であればあるほど向こうのペースなわけで、それをスピードアップさせるためにお金が必要だよという口実になっているということです。

少し駆け足でしたが、資料は続いていますので、ご参考までに後でご覧いただければと思います。すみません、早口になりましたけれども、これで終わります。ありがとうございました。

第2部 パネルディスカッション

「ASEAN子会社の経営者教育の現状と課題」

林 ディスカッションの大きな流れは、先ほど西尾からありましたように、一巡目はこのプログラムの成果と課題についてということで、このプログラムでのご経験を踏まえてのお話をいただきたいと思います。それから、もう一巡はASEAN子会社の経営者として目指す姿。どういった経営者が望まれるのか、特に先ほどのお話にもありましたように、アジアの国々に進出していくにあたって経営者としてどういったことが求められるのかということと、経営者を養成するための学び直しというのはどういった内容で、あるいはどういった方向性で進めて

いけばいいのかということについて、それぞれのパネリストの皆さまのお話を伺っていきたいと思っております。

西尾 本プログラムは、海外子会社の経営を担うリーダーの育成を目指すもので、産業界をはじめとする社会ニーズに対応した大学院レベルの教育プログラムを開発、提供するものです。具体的には、ASEANに進出する企業の現地子会社で経営を担う出向予定者に対して、現地にかかわる各種情報、地理歴史、経済情勢、そして経営に携わるための理論的、根本的な教育を効果的に行う、産学協働により開発された教育プログラムであるといえます。

例えば、実際に教育プログラムの一つである「ASEANでの子会社経営」という科目では、実務家教員による演習や講義があり、経営者としての基礎を学習する科目として設定されています。また、後藤先生が担当してくださった「ASEAN経済」という科目は、ASEANでの生産流通ネットワークの実態と、産業高度化の課題と可能性をグローバルバリューチェーンの分析枠組みを用いて明らかにするという、非常に専門的な内容になっています。この科目は、大学教員による専門教育プログラムの一つとして位置付けられています。(中略)

本田 大建工業の本田と申します。今回、半年間受講させていただいて思ったのは、弊社だけではないと思うのですけれども、やはり赴任前教育というのは基本的に存在しないのですね。うちの場合ですと、1カ月ぐらい前にどこどこへ行ってきなさいと人事異動が発令されて、はい、行ってきますと行ってくる。過去に数回の出張経験はあるかもしれないけれども、実際にそこで仕事をするということが何のことなのかも分からずに行くということが、基本的な流れであります。会社からは郷に入っては郷に従えというふうに言われるので、マレーシアですとマレーシア人と同じように生活しないといけないのかな、というふうに考えながら仕事をする状況です。

基本的に無知な状態で現地に行くわけなので、いろいろな失敗談が私にも多くあります。それを少し紹介しながら、この学び直しシンポジウムの有意義さをご説明できればいいかなと思っております。

最初に、今日、来ていただいている仲本先生の、講義の中での話にありましたけれども、やはり日本人が若いときに行くというのは、非常に血気盛んで、興奮状態で行くのです。自分の経験や知識があまりない間に行くということです。そして、日本的な仕事の仕方しか知らないのに、それを現地の人間に押し付けるというようなことがやはりある。すると、現地の人にとっては「何だこいつは、何も知らないくせに」というので反発がある。そういう私も赴任したてのときはよくもめまして、仲本先生も言われていましたけれど、私もローカルスタッフの胸倉をつかんで、けんかしそうになったこともありました。大きな問題にもなったのですけれども、いまではいい友達です。

この教育プログラムを半年間受けてきまして、後藤先生もおられますけれど、経済学から経営、会計、税務という専門分野から、一方で異文化コミュニケーションや宗教など、非常に幅広いところを学ばせていただいて、どうして私が行く前に教えてくれなかったのか、ということが正直なところなんです。実際、私は11年間海外に行っていますけれども、そういう専門的なことを何も勉強せずに行っていますので、やはり断片的な経験でしかなかったです。今回学ばせてもらって非常に知識が深まりましたし、さらに知識を深めたい場合のいろんな本を紹介してもらいましたし、今後も継続して勉強して行きたいと思っております。

小田 東研サーモテックの小田と申します。どうぞよろしくお願い致します。春学期を受けて、その後そのまま継続して秋学期も受けさせていただきました。ですから、だいたい90コマ以上、受けさせていただいたことになります。

本当に授業はタフですし、先生方が本当に熱心で、それを一生懸命聞いていると学生時代みたいに寝ることは一切ありませんでした。逆に終わった後は、疲れ果てるという状況でした。別に私は学校の回し者でも何でもありませんが、今回、成果というか、私が一番思ったのは、やはりこの学び直しのプログラムというのは非常に効果的だということを感じました。(中略)

それと最後はコミュニティーですけれども、本当にまだいまはメンバーと一緒に飲む程度です。ただ、飲みながら、いろいろと苦労話をしたり、会社のことを話したりということで打ち解けていって、みんなの信頼関係は生まれてきたと思います。これからコミュニティーの形を作っていくときに、私どももここに出ているメンバーも、みんな忙しい人ばかりだったので、学ぶ側と教える側から組織ではなく個人で参加していって、われわれももっと参加するし、事務局側も参加していただくようにしながら、コミュニティーをどういう形にしていこうかというのを試行錯誤していきたいと思っております。

西尾 私はプログラムを開発するという立場、運営する側の立場から、現状の課題を言うならば、3点あるかなととらえております。

1点目は講義にかかわって、さまざまな仕掛けというものを作っております。その仕掛けの教育効果の測定と分析を行わなくてはならない。その仕掛けは具体的に言いますと、例えば反転授業であったり、ブレンディット型学習であったり、e-ラーニングの活用であったり、そういうものがあると思います。

2点目は、受講者のニーズを踏まえた教育内容の編成ということで、小田さまや本田さまは非常に良かったと言ってくださいましたが、参加して下さった受講者が本当に満足いくものであったか。このプログラムで学んだことがASEANの現地子会社に行ったときに、本当に経営者としての真の力と言いますか、実践的知識、実践的技能として発揮できるのかどうかというあたりもさらに考察していく必要があります。そのための講義の科目の数であったり、時間数であったり、科目内容についてはやはり今後検討する必要があるともくろんでいます。

そして3点目ですけれども、時間的、空間的に非常に制限のある社会人の方が学び続ける、しかも能動的に学習に参加しながら継続して学ぶためには、やはりサポート体制がいるのではないかと考えております。本田さまや小田さまは会社さまからのサポートもあった、例えば、学び直して学んだことを社内で報告する機会があったり、今日もお見えになって下さったりと、そういうことがあったと聞いております。しかし、プログラムを運営する側のサポート体制の在り方も今後検討していかなければいけないと考えております。

後藤 経済学部の後藤健太と申します。このプログラムでは、「ASEAN経済という科目を2週間にわたって4講義、担当致しました。私の話なのですが、大学を出まして私も普通の企業に入りまして、伊藤忠商事というところで繊維部門に配属されて、しばらくものづくりの難しさと、実際にビジネスの複雑さを、身をもって体験しました。その後大学院に進んで経済をもうちょっと体系的に勉強することになるのですけれども、あのときの体験が、対象とする経済、もしくは産業、もしくは企業を見るときの視点になったと思います。いまとなつて思えば、遠い回り道をしましたけれども、それは私の中で非常に良いバックグラウンドになっているなと思います。(中略)

私が伊藤忠のときに非常に複雑だ、難しいと思ったのは、まさにその場その場で状況が異なるわけなのです。異なった状況に直面して、さあどうするんだといったときに、なかなか形式的なマニュアルや知識に依存できない場面が出てきます。私が見ていまして、特に日本企業は内部でそのことの蓄積がすごく進んでいる。それも良い形で進んでいる。こういうのを一般的に形式化された知に対して暗黙知というのですが、暗黙知に関しては授業ではなかなか伝達できない。そこがおそらく社会人の学び直しプログラムを作る際の、一つのチャレンジという課題になると思います。

林 ありがとうございます。もう一巡、プログラム自体の中身を少し超えて、ASEAN、海外に進出していくにあたって、経営者に求められる資質や身に付けておくべきことについて、それぞれお考えをお持ちだと思いますので、そういったことをお伺いします。その上で、学び直しの中でこういうことが身に付く講義、あるいは機会があればよいということをご示唆いただければと思います。

西村 ASEAN子会社の経営者というのは、先ほどのジェトロの話でもありましたように、これからどんどん全体に占めるウエートは上がっていくと思います。おそらく東京オリンピック以降、日本の人口は減っていく、一方でASEANの人口は増えていくという中において、重要な子会社になっていくと感じております。重要子会社の経営者として、しっかりとしたプランニングができる、これが非常に大事だと思います。プランニングの素養は国内も同じだと思うのですけれども、会社をどのように持っていくのか、しっかりと考えながらやっていく。

二つ目は、日々の収益管理です。これがしっかりとできるというのが、非常に大事だと思います。あと、どうしても海外だと、危機管理が非常に大事だと私は思います。いざ何か起こったときに、本部の指示を受けているとどうしても時間がかかりますので、やはりその代表として危機が起こったら何をやらなければいけないのか、それを明確に持っておくというのは重要です。(中略)

あとは、経営者の失敗談を話し合うということも非常に実のあることではないかと思います。失敗談そのものは本当のケーススタディーと言いますか、実際私は、それは失敗ではないと思うのです。これをやることによってどう変わっていったか、そういうところが単に本で勉強するよりも身に付けるべきものが多いのではないかと感じております。

本田 経営者として海外子会社に行く場合は、やはり事前準備と言いますか、その会社の歴史や経営状況等々、しっかり分析をして、何が不足して何が必要なのかということを経る前に準備しておくことが大事ではないかと思います。行った際には、すぐに判断ができて手が打てるような人でないと、なかなか難しいという気がします。

そういう意味では、こういう基礎知識や、大小を問わずいろいろな一般企業の方に来てもらって講演してもらったのが私としては興味深かったもので、その点を充実していただけたらいいと思っているしだいです。(中略)

小田 学び直しの在り方というところですが、学ぶ側としての観点で話しますと、私は90コマ以上、だいたい週に2、3回、10カ月受けたのですけれども、お話を聞いていると秋以降は108コマで、それも6カ月ということですので、週に4、5回、仕事…？…。本当に受講される方は大変なことは私自身もすごく感じるのですが、そういう意味では受けられる方は相当な覚悟もいるだろうというのと、それと上司の方、会社側もいろいろなサ

ポートが必要なのかなと思います。学ぶ側としてどうだったかという、そういうことが心配なので、ぜひともその辺を考えていただければと思います。

後藤 授業を通じては形式知の伝授が中心になると思います。いま、例えば本田さまからもいろいろな失敗談がありました。しかし、それこそが暗黙知の蓄積につながるわけです。ですから、この大学で受けられる形式知の伝授と、現場での暗黙知の伝授をうまく組み合わせるようなスキームをわれわれも考えて、受講生の方々も暗黙知が重要なのだということを常に認識していただいて、ここで培った、もしくは獲得した形式知を現場でどういうふうに生かすか、それは蓄積された暗黙知の中でどういうふうに生かすかということを考えられることがいいことかなと思います。

西尾 本プログラムでは養成すべき人材というものを、海外子会社の経営を担う「考動力」、これは考えて動く力と関西大学では申し上げているわけなのですが、考動力あふれる高度な人材というふうにして、習得すべき能力を明確にしています。(中略)

社会人は、自分のものの見方や考え方、ものの枠組みというものが非常に固定化されているということです。だから、その枠組みをいったん崩すとか、外すとか、取り去ってしまって、また新たな物事を見る枠組みを再構築するということが重要なこと。それぞれの授業の中で、そういった機会を意識的に設計していくようにしております。

もう一つ、思考の道筋で言えば、本田さまや小田さまは授業の中でいくつかの先生からそういう話を聞かれたと思うのですが、具体から抽象、抽象から具体という道筋です。例えばインドネシアの人事労務についての授業があったとします。インドネシアの問題の背景には一体何があって、どのようにすれば解決の糸口が見えるのか、というケーススタディーがあったとします。ある受講者の方が、自分はタイで仕事をしているからと、自分の会社はタイに事業部を持っているからインドネシアの話は当てはまらない、という感じでとらえたとします。そうではなくて、インドネシアのケーススタディーで得られたことをいったん自分の頭の中で具体を抽象化する。その抽象化したものを、次はまた自分の置かれた環境で、対応、対面しなければならない課題に向けて具体化する。つまり、具体・抽象・具体の道筋は、もちろんできる方はいらっしゃるのですが、大部分は教育の中で示していく、獲得していく考え方ではないかと思っております。

林 社会人の方、海外経験を積まれた方、いろいろな方がおられて大丈夫なのだろうかと責任者として若干の不安もありましたが、それもうまくグループディスカッションなどを踏まえてクリアしていただいているということで、安心致しました。学生相手だと、知識を教える、あとは考えてみようというところだとどまることが多いです。いろいろな企業の皆さまとお話すると、あなたは学生に何を求めますかという、人間力と言われる。人間力とは何のことか分からない。飲みにケーションのことですかみたいな話です。それも性格的なこともあるのではないかと私は個人的には思っているのですが、今日の話を伺って、やっぱりコミュニケーションや明るさは大事なですよ、ということが伝わっていくことも大事なことのだろうと思います。それが、いろいろな人との交わりや、あるいは講師の方のうまい回し方によって、そういうことも大事なのだなということを気付いてもらうことも、一つの効果であると思います。知識は、言えば切りがない。こんなことを知っていればいいと言いだせば切りがないだろうと思うのですが、こういうことを知らないで困ったという情報が積み重なってくれば、この講座ではここまでは最低でもきちんと押さえていただける。いわゆる後藤さんのおっしゃる形式知の部分では、ここまではしっかり押さえていただくと非常に便利ですということがだんだん分かってくると思います。いま、続くようにとお言葉をいただきましたので、ぜひこういう機会の経験も踏まえて続けて参りたいと思います。

パネリストの皆さま、どうもありがとうございました。

文部科学省 「国際人材の確保のための社会人学び直し大学プログラム」
(国公立大学に2014年度から導入された社会人学び直し大学プログラム) 実施 国公立大学

2015年度公開シンポジウム

参加無料
事前申し込み制

社会人学び直しシンポジウム 「ASEANの現状と経営者教育」

日時：2016年3月16日 水 15:00～18:00 (開場・受付14:30)
場所：関西大学 千里山キャンパス尚文館マルチメディアAV大教室

プログラム

15:00～15:10 開会の挨拶 関西大学学長 横尾 尚彦

◆第1部 基調講演
15:10～16:10
「大規模の中小企業海外展開支援施策と
知事ミッション特種報告(フィリピン)」
大阪府知事 松井 康智 氏
「ASEANの自国企業を取り巻くビジネス環境」
シエトロ海外活動部 アジア太平洋課長 池田 亮 氏

アクセス

16:20～17:30
「ASEAN学会社の経営者教育の現状と課題」
◆パネルディスカッション
東洋電機株式会社 代表取締役社長 西村 元男 氏
大塚工業株式会社 海外事業部長 方田 泰司 氏
株式会社サトーモーター 営業部長 小田 実 氏
関西大学経済学部 教授 後藤 健二 氏
関西大学会計専門職大学院 教授 (プログラムコーディネーター) 宮岡 徹 氏

◆コーディネーター
関西大学教育政策部 特任教授 西尾 三津子 氏

17:50～18:00 閉会の挨拶 林 聖昭 氏

参加申込み
参加無料【100名限定】
先着順で申し込みください。
FAXもしくはメールより応募ください。
2016年3月14日(月)締切

【お問い合わせ】
関西大学 社会人学び直し大学プログラムオフィス
〒591-8586 大阪府堺市東区 尚文館3F
TEL: 074-6344-3276 FAX: 074-6344-3277 E-MAIL: hr@kaiyuu.ac.jp
URL: <http://www.kaiyuu.ac.jp/program>



社会人教育における反転授業の可能性に関する一考察

Feasibility Study of Flipped Classroom in Adult Education

西尾 三津子

Mitsuko NISHIO

関西大学

Kansai University

＜あらまし＞本研究では、社会人教育において、受講者の能動的な学習参加を促す授業設計としての反転授業の可能性について検討する。そこで、産学官連携事業における教育プログラムに参加し反転授業を経験した受講者を対象に、学習内容の理解度や意欲、反転授業の成果や問題点について調査した。その結果、反転授業を導入する際には、協働学習を取り入れた授業設計を行うことが効果的であることが確認できた。反転授業を取り入れた授業設計は、実務への活用を意識しながら能動的に学ぶ人材を育成する社会人教育の一助になると考える。

＜キーワード＞ 社会人教育、人材育成、反転授業、授業設計、協働学習

1. はじめに

現在、実施されている人材育成のための社会人教育の多くは、講師が一方的に知識や自身の体験を伝達するため、受講者にとって楽しくない研修になりがちで、自己との関わりが希薄な受動的な学習に終わることが多い（吉田 2006）。そのような教育の場においては、受講者の学習意欲の向上や実務での可能性、自己変革を伴った成長を期待することはできない。「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」は、文部科学省の委託を受け関西大学が展開している産学官連携の事業プログラムである。本プログラムは、海外子会社の経営を担う出向予定者に対して、現地に関わる各種情報、地理歴史、経済情勢等に加え、経営に携わるための理論的、根本的かつ効果的な教育プログラムを提供することで、「考動（自ら考え解決へ向けて行動する）力」あふれる次世代の経営者の育成を目指すことを目的とする。そして、産学官の連携のもと、海外子会社の経営者の人材育成という社会的ニーズを把握し、ノウハウや手法等の実務に偏らない、大学のコンテンツを生かした経営者向けの実践教育を提供するものである。

平成 27 年 2 月から 20 名の受講者を対象に 2 科目の授業が試行的に実施され、同年 4 月からは、新たなモニター受講者を募集し、8 科目の授業が行われている。

2. 研究の目的および方法

本研究の目的は、社会人教育において、受講者の能動的な学習参加を促す授業設計としての反転授業の可能性について検討することである。

本プログラムにおける反転授業は、e ラーニングによる事前学習を指す。受講者は授業の 1 か月前に配信された映像を視聴し、授業のねらいや全体像をイメージして必要な知識を自ら習得する。また、担当者から出された課題について個々に調べたり書籍を読んだり

して予備知識をもつ。これは、異なる背景をもつ社会人が対面授業での理解を促進させ思考を深化させることを意図したものである。本研究では、科目「事例研究」を受講した 31 名（2 月の受講者 15 名：A グループ、5 月の受講者 16 名：B グループ）を研究対象としている。科目「事例研究」は 2 月（授業 A）と 5 月（授業 B）に同一テーマの内容がそれぞれ 5 コマ（90 分×5）ずつ実施された。両授業ともに、担当者と反転授業の内容は共通している。授業 A は、講義を中心とする説明型授業であり、授業 B は協働学習を中心とする双方向型授業であった。

授業 B の授業設計では、まず、「海外子会社の経営者としての必要な能力とは何か」という大テーマにそって 4 つのサブテーマが設定された。これらは、反転授業でのキーワードをもとにして設定された課題である。次に、協働学習を行うために経験年数や企業、業種に偏りがいないような 4 つのグループが編成された。そして、グループごとに一つのサブテーマが選択された。受講者は、反転授業で事前に獲得した知識と実務での既習経験を融合させながらサブテーマの課題に取り組んだ。また、課題解決の過程では担当者から新たな知識や方法についてのヒントが与えられ、グループで課題を解決していった。本授業における反転授業のねらいは、協働学習を通して企業活動における受講者の既習経験を具体的な場で活用できる実践的知識として構築していくことである。

両授業後に実施した授業評価アンケートは、学習者についての 8 つの設問と授業についての 4 つの設問の計 12 項目で、＜強くそう思う、そう思う、どちらともいえない、そう思わない、全くそう思わない＞の 5 段階選択式である。なお、反転授業の成果と問題点については問 13 として自由記述でも回答を求めた（表 1）。A グループは 13 名、B グループは 16 名から有効回答が得られた。

表1 アンケート項目と枠組み

[受講者について]の設問	[授業について]の設問
前提条件 (問1. 2)	授業内容や方法 (問3. 問10)
意欲 (問4. 5)	難易度や進度 (問11)
変容 (問6. 7. 8)	効用性 (問12)
可能性 (問9)	
反転授業の成果と問題点 (問13) 自由記述	

3. アンケートの結果と考察

A、Bグループの授業評価アンケートの結果は、表2の通りである。＜強くそう思う＞と＜そう思う＞を肯定的回答とし、＜そう思わない＞と＜全くそう思わない＞を否定的回答とした。

表2 授業評価アンケートの結果

アンケート項目	Aグループ	Bグループ
問1. 授業を受けるにあたり授業に関する基礎的な知識があった。	23 46	62 13
問2. 授業を受けるにあたり書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。	62 38	31 50
問3. 反転授業は、対面授業を理解するのに役立った。	61 8	75 0
問4. 授業によく出席していた。	78 0	88 6
問5. 授業で学んだことについて書籍や情報を調べる等して復習に取り組んだ。	54 15	23 23
問6. 授業を受けて知的好奇心が刺激され、自分の意欲が高まった。	85 0	100 0
問7. 授業で既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	69 8	100 0
問8. 他者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	23 0	100 0
問9. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	92 0	100 0
問10. 授業の内容や方法は自分のニーズに合致するものであった。	69 8	100 0
問11. 授業の難易度や進度は自分の理解を深めるのに適切であった。	61 16	94 6
問12. 授業は自分の業務に役立つものである。	69 0	100 0

上段：肯定% 下段：否定%

問13. 反転授業の成果や問題点 (自由記述)

	Aグループ	Bグループ
成果	予め授業のポイントを押さえることができた。 授業内容を事前に把握することのできたので授業にのぞみやすい。 授業の雰囲気を感じられてスタートできて有意義である。 事前課題を考え講義内容の理解の助けになった。 事前学習にどのように取り組むのか理解できた。	課題の背景がある程度理解できた。 具体的な知識を得ることができた。 ポイントが理解できて良い。 対面授業の内容が事前に理解できた。 授業内容をある程度理解して授業にのぞめたので効果的に授業を受けることができた。

問13. 反転授業の成果や問題点 (自由記述)

	Aグループ	Bグループ
問題点	事例にある国への興味はわいたが、本授業のテーマにどのように適用できるのか分からなかった。 資料が難しく不安だった忙しくてビデオを見ることができなかった。	機器等の環境設定に時間がかかった。 機器（パソコン）の都合で視聴できなかった。 録画時間が連続して長いように感じた。

授業評価アンケートの結果から、受講者による学習内容の理解度や学習意欲、自己の変容及び反転授業の成果や問題点を読み取ることができる。A、Bグループともに、受講者の背景が異なるため、学習に対する前提条件には差異が見られるが、授業への参加傾向は類似していると考えられる。一方、自己の変容に関する項目は、Bグループの肯定的応答率が3項目ともに100%となり、Aグループとは異なる。また、授業内容や方法が自己のニーズに合致していて、学んだことが実務に役立つという回答も全員が肯定的回答であった。以上の結果から、反転授業を導入する際、協働学習を取り入れた授業設計が、受講者の能動的な学習を促す可能性があることが確認できる。また、今後の業務への関連を意識した能動的な学習は、受講者の学習意欲と達成感を高めると考える。

4. まとめと課題

本研究では、社会人教育における反転授業の効果について考察を行った。その結果、反転授業を導入する際、協働学習を取り入れた授業設計がより効果的であることが分かった。今後の課題としては、社会人教育における様々な反転授業のデザインの構築と反転授業の効果やその要素について検証していきたい。

参考文献

- 関西大学 (2015)「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」中間成果報告書
- 鈴木克明 (2015) 研修設計マニュアルー人材育成のためのインストラクショナルデザインー 北大路書房
- 松下佳代 (編) (2015) ディープ・アクティブラーニングー大学授業を深化させるためにー 勁草書房
- 吉田新一郎 (2006)「『学び』で組織は成長する」光文社新書

社会人教育における反転授業の可能性に関する一考察

関西大学 西尾 三津子

- 研究の背景
- 研究目的
- 研究方法
- 結果と考察
- 今後の課題

研究の背景

- 人材育成のための社会人教育
 - 社内研修・社外研修・海外研修
- 企業の目指す研修と社会人のニーズ
- 学習意欲の向上と実務への活用
- 自己変革を伴った成長

↓
社会人教育の問題点と見直し

研究の目的

- 社会人教育において、受講者の能動的な学習参加を促す授業設計としての、反転授業の可能性について検討すること

↑
社会人を対象とした教育プログラムの実践事例をもとに調査する。

海外子会社の経営者を育成するプログラム

- 考動力あふれる次世代の経営者の育成
- 社会的ニーズの把握
- ASEAN地域の各種情報、地理歴史、経済情勢
- 経営に関わる理論的で根本的な教育
- 効果的な授業(反転授業、IDによる授業設計)

⇒産学官連携のもと、大学のコンテンツを生かした
経営者向けの実践教育の提供

- 社会人の学びへのサポート
- ニーズに沿ったカリキュラム編成
- 半年1クールで履修証明書を発行
- ゴールまでのプロセスの明確化
- 反転授業と対面授業の組み合わせ
- 集中授業や実践研修
- eラーニングによる復習と補習

(中間成果報告書2015)

本プログラムにおける反転授業

[目的]

- ・学ぶことの意味に気付かせ、意欲の向上を図る。
- ・対面授業での理解を促進させ、思考を深化させる。

[内容]

- ・授業のねらいと概要、ポイントを提示する。
- ・テーマに関する前提知識の整理と心構えを促す。
- ・予習としての課題を指示する。

[方法]

- ・各科目(複数コマ)の授業の前に、20分～30分の反転授業ビデオ(複数のチャプター含む)を視聴する。
- ・必要なチャプターを選択し、事前学習を行う。

反転授業から対面授業の流れ(例)

科目	反転授業	対面授業
ASEAN発展論 (全4コマ)	[配信]5月7日～ [内容]授業の目的、概要 授業計画とポイントの提示 ASEAN地域の発展に関 する基本情報の提供と問 題提起 課題と課題提出の指示	[実施]6月 6日 2コマ 6月13日 2コマ [内容]ASEAN地域の歴 史的背景について解説 提出課題を取り入れた説 明と意見交流
企業会計 (全2コマ)	[配信]6月2日～ [内容]授業の目的、概要 授業計画とポイントの提示 会計用語の基本や使い方 について事前学習の指示 課題と課題提出の指示	[実施]7月4日 2コマ [内容]反転授業で習得し た基本知識の活用 財務指標等の計算、読解 と結果についての議論

研究方法

授業評価アンケート(5段階選択式)の実施

- ・受講者についての設問 8項目
- ・授業についての設問 4項目
- ・反転授業についての自由記述

■データの収集と対象

- ・2015年2月:本プログラム受講者(T1)15名
- ・2015年5月:本プログラム受講者(T2)16名

■受講科目と授業実施時期

- ・担当者、反転授業、科目「事例研究」のテーマは同一
- ・2月実施(説明型授業:授業A)
- ・5月実施(協働学習を取り入れた授業:授業B)

9

アンケート調査の結果

アンケート項目	Aグループ	Bグループ
問1. 授業を受けるにあたり授業に関する基礎的な知識があった。	23	82
問2. 授業を受けるにあたり書籍や情報を探るなどして予習に取り組みました。	46	13
問3. 反転授業は、対面授業を理解するのに役立った。	62	23
問4. 授業によく出席していた。	38	92
問5. 授業で学んだことについて書籍や情報を探る等して復習に取り組みました。	61	75
問6. 授業を受けて知的好奇心が刺激され、自分の意欲が高まった。	8	0
問7. 授業で既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。	78	88
問8. 他者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。	9	6
問9. 今後このような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。	54	23
問10. 授業の内容や方法は自分のニーズに合致するものであった。	15	23
問11. 授業の難易度や進度は自分の理解を深めるのに適切であった。	85	100
問12. 授業は自分の業務に役立つものである。	0	0

上段:肯定%,下段:否定%

10

問13.反転授業の成果や問題点(自由記述)

	Aグループ	Bグループ
成果	予め授業のポイントを押さえることができた。 授業内容を事前に把握することでできたので授業にのぞみやすい。 授業の雰囲気を感じられてスタートできて有意義である。 事前課題を考え講義内容の理解の助けになった。 事前学習にどのように取り組むのか理解できた。	課題の背景がある程度理解できた。 具体的な知識を得ることができた。 ポイントが理解できて良い。 対面授業の内容が事前に理解できた。 授業内容がある程度理解して授業にのぞめたので効果的に授業を受けることができた。
問題点	事例にある国への興味はわいたが本授業のテーマにどのように適用できるのか分からなかった。 資料が難しく不安だった。 忙しくてビデオを見ることができなかった。	機器等の環境設定に時間がかかった。 機器(パソコン)の都合で視聴できなかった。 録画時間が連続して長いように感じた。

11

考察

- 出席率や予習、復習の実施状況から、両グループの学習意欲に差はないと考えられる。
- 反転授業で予習をすることで、能動的な学習参加が促される。
- [反転授業+協働学習]の授業設計は、社会人のニーズを満たし、実務と知識を統合させる学習として効果的であると考えられる。

12

今後の課題

- 個別インタビューによる反転授業に対する受講者の意識調査と分析
- 反転授業の効果とその要素についての検証
- 社会人の経験と知識が統合されるような授業(反転授業→対面授業の接続)の設計

13

参考文献

- 関西大学(2015)『海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム:中間成果報告書』
- 鈴木克明(2015)『研修設計マニュアル-人材育成のためのインストラクショナルデザイナー-』北大路書房
- 松下佳代(編)(2015)『ディープ・アクティブラーニング-大学授業を深化させるために-』
- 吉田新一郎(2006)『「学び」で組織は成長する』光文社新書

14

社会人教育における反転授業の効果 The Effect of Flipped Classroom in Adult Education

西尾 三津子*、宗岡 徹*
Mitsuko NISHIO*, Toru MUNEOKA*
関西大学*
Kansai University*

要約：本研究では、社会人教育における反転授業の効果について考察した。産学官連携事業である社会人学び直し教育プログラムに参加し、反転授業を経験した受講者を対象に、学習内容の理解度や意欲、反転授業の成果や課題について調査した。その結果、反転授業を実施することで、＜学習の目的意識＞と＜学習の意味付け＞という二点に効果があると解釈できた。これらの要因を考慮した授業デザインは、社会人教育における反転授業の新たな学習モデルになり得るものであり、能動的に学ぶ人材を育成する社会人教育の一助になると考える。

キーワード：社会人教育、社会人学び直し、人材育成、反転授業、授業デザイン

1. はじめに

現在、実施されている人材育成のための社会人教育の多くは、講師が一方向的に知識や自身の体験を伝達するため、受講者にとって楽しくない研修になりがちで、自己の経験との関わりが希薄な受動的な学習に終わることが多い（吉田 2006）。そのような学習の場においては、受講者の学習意欲の向上や実務での適用の可能性、自己変革を伴った成長を期待することは難しい。

「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」は、文部科学省の委託で関西大学が展開している産学官連携のプログラムである。本プログラムは、海外子会社の経営を担う予定者に対して、現地に關わる各種情報、地理歴史、経済情勢等に加え、経営に携わるための理論的、根本的かつ効果的な教育プログラムを提供することで、「考動（自ら考え解決へ向けて行動する）力」あふれる次世代の経営者の育成を目指している（関西大学 2015）。そこで、より効果的に授業を実践していくために反転授業を取り入れ、学習者が目的意識をもって能動的に学び、獲得した知識やスキルを実務に活用することを意図した。

2015年2月から2科目の授業が試行的に実施され、同年4月からの半年間、モニター受講者を対象に、10科目の授業が行われた。

2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、社会人教育において受講者に能動的な学習を促し、実務で活用し得る学習内容を提供するために、反転授業の効果について検証しその要因を考察することである。

本プログラムにおける反転授業とは、eラーニングによる事前学習を指す。受講者は授業の1か月前に配信された映像を視聴し、授業のねらいや学習内容のポイントを整理して必要な知識を自ら習得する。また、担当者から出された課題について個々に調べたり書籍

を読んだりして予備知識をもつ。これは、異なる背景をもつ社会人が対面授業での理解を促進させ思考を深めることを意図したものである。

本研究では、2015年4月から本プログラムを受講した23名を研究対象としている。

反転授業の効果をみるために、4月から8月の間にアンケート調査を行った。これは、科目ごとに実施される15項目からなる授業評価アンケートの問3（反転授業は対面授業を理解するのに役立った）と問12（授業は今後の自分の業務に役に立つものである）であり、＜強くそう思う、そう思う、どちらともいえない、そう思わない、全くそう思わない＞の5段階尺度で行った。さらに、問13（反転授業の成果や課題について）は、自由記述とした。また、反転授業の効果の要因を検証するために、肯定意見の低い科目に関しては個別のインタビューを行った。

3. 結果と考察

アンケートの結果、＜強くそう思う＞と＜そう思う＞を肯定意見とし、＜そう思わない＞と＜全くそう思わない＞を否定意見とした（表1）。

8科目中6科目において、反転授業は対面授業の理解を深めるのに役立ったという肯定意見が66%以上となり、否定意見は0%であった。一方、肯定意見の低かった2科目についてインタビューをしたところ、反転授業の中で概念的な内容や多様な課題が提示されたことや、反転授業と対面授業との関連性が希薄であったという共通点がみられた。

問13の自由記述からは、自ら学習内容をイメージし、目的を明確にしてポイントを絞った事前学習をすることで学習意欲が高まるということが読み取れる。また、学習者自身が、学ぶことの意味を事前に自分なりに解釈し意識化することで、学習への心構えをもつことにつながり、このことが能動的な学習を促すと考えられる。

学習者自身が、学習の意味を再認識し、なぜ学ぶのかという自らの学習姿勢を問い返ししながら、学習目的を明確にすることで、対面授業での理解がより深まると考える。また、各時間の学習内容と関連付けたポイントを絞った事前課題の提示は、学習者の能動的な学習参加を促すものでもあるといえる。

表1 アンケート調査結果

プログラム（授業時数）	有効 回答(人)	問3 (%)	問12 (%)
専門教育プログラム① (2コマ)	17	82.4	88.2
		0.0	5.9
実践基礎基準プログラム① (5コマ)	16	75.0	100.0
		0.0	0.0
専門教育プログラム② (5コマ)	20	30.0	90.0
		0.0	0.0
専門教育プログラム③ (4コマ)	21	66.7	85.7
		0.0	4.8
専門教育プログラム④ (2コマ)	18	44.4	61.1
		11.1	0.0
専門教育プログラム⑤ (2コマ)	15	66.7	80.0
		0.0	0.0
専門教育プログラム⑥ (2コマ)	14	83.3	88.9
		0.0	0.0
実践基礎基準プログラム② (4コマ)	15	77.8	88.9
		0.0	0.0

回答欄の上段肯定回答率、下段否定回答率

問13 [肯定意見]

- ・授業の内容がイメージできて授業に入りやすい。
- ・事前に授業のポイントとなる調べものの課題をもらうことで内容について理解しやすかった。
- ・学習のねらいを反転授業で知ることによって、目的意識をもつことができた。
- ・反転授業は授業の意図や講師の雰囲気は大雑把に理解する上で参考になった。
- ・講師が何にポイントを置いて授業を進めようとするかは、心構えの上で大切な要素と思う。
- ・事前の授業視聴は学ぶ意識、姿勢を高めるためにも大変有効である。
- ・講義の概要について事前に認識できるのは理解向上に役立つ。

問13 [否定意見]

- ・授業の大きなあらすじや流れをつかもうと思ったが反転内容と授業内容とが全て合致していなくて戸惑った。
- ・反転の内容と課題との連結性が薄いように感じた。
- ・自分の仕事に関係ない国（事柄）については興味をもって聞くことが難しい。

4. 課題と展望

本研究では、社会人教育における反転授業の効果について考察を行った。その結果、反転授業の効果には、＜学習の目的意識＞と＜学習の意味付け＞という二つの要因が作用していることが分かった。これらの要因を考慮した授業デザインは、社会人教育における反転授業の新たな学習モデルになり得る可能性が示唆されたと考える。

本プログラムを事例とした社会人教育における反転授業の取組は、鈴木（2015）のいう「教えないで学べる研修」のために、学びを活性化させる仕組みを整えるという点で共通している。そこで、さらに、反転授業の設計の中に、学習の目的と意味付けを意識化させる仕掛けを取り入れることで、実務経験と知識が統合された能動的な学習が期待できると考える。今後、社会人教育において、学習内容の特性に応じた効果的な反転授業のあり方と、対面授業の関連をふまえたトータルなデザインを提案していきたい。

参考文献

- (1) 関西大学（2015）「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」中間成果報告書
- (2) 鈴木克明（2015）研修設計マニュアルー人材育成のためのインストラクショナルデザイナー、北大路書房
- (3) 吉田新一郎（2006）『『学び』で組織は成長する』、光文社新書

社会人教育における 反転授業の効果

関西大学 西尾 三津子 宗岡 徹

- 研究の背景
- 研究目的
- 研究方法
- 結果と考察
- 課題と展望

研究の背景

■ 経営者育成のための社会人教育

社内研修・社外研修・海外研修

- 学習意欲の向上と実務への活用
- 社会人教育の問題点と見直し



抽象化と事例の置換のための授業設計
(アクティブラーニング、インストラクショナルデザイン)

研究の目的

経営者育成のための大学院教育プログラムの実践



社会人教育(経営者育成)において、反転授業
の効果について考察すること



能動的な学習を促し実務で活用し得る内容の提供

海外子会社の経営者育成プログラム

■ ASEANに展開する子会社の経営者の育成

- 社会的ニーズの把握
- ASEAN地域の各種情報、地理歴史、経済情勢
- 経営に関わる理論的で根本的な教育
- 効果的な授業(反転授業、IDによる授業設計)
⇒ 産学官連携のもと、大学のコンテンツを生かした
経営者向けの実践教育の提供

2015年度春学期 反転授業を実施した科目一覧

プログラム名	授業時数 (コマ)	反転授業 (配信日)	対面授業 (実施日)
専門教育プログラム① ASEANの地理・歴史	2	3月25日	4月18日
実践基礎教育プログラム① 演習(ケーススタディ)	5	4月23日	5月23日 24日
専門教育プログラム② ビジネス英語Ⅱ	5	3月25日	4月25日 5月9日、30日
専門教育プログラム③ ASEAN発展論	4	5月7日	6月6日 13日
専門教育プログラム④ 企業会計	2	6月4日	7月4日
専門教育プログラム⑤ 派遣者のストレスマネジメント	2	5月20日	6月13日 7月11日
専門教育プログラム⑥ グローバル経済	2	7月22日	8月22日 29日
実践基礎教育プログラム② ASEANでの子会社経営(戦略)	7	6月25日	7月25日、8月1 日、22日、29日

■ 社会人へ向けた配慮

- ニーズに沿ったカリキュラム編成
- 半年間の120時間以上の受講で履修証明を発行
- 土曜日を中心に開講
- 反転授業と対面授業の組み合わせ
- eラーニングによる復習と補習
- 効率化を図るための集中授業や実践研修

(中間成果報告書、2015)

本プログラムにおける反転授業

[目的]

- ・学ぶことの意味に気付かせ、意欲の向上を図る。
- ・対面授業での理解を促進させ、思考を深化させる。

[内容]

- ・授業のねらいと概要、ポイントを提示する。
- ・テーマに関する前提知識の整理と心構えを促す。
- ・予習としての課題を指示する。

[方法]

- ・各科目(複数コマ)の授業の前に、20分～30分の反転授業ビデオ(複数のチャプター含む)を視聴する。
- ・必要なチャプターを選択し、事前学習を行う。

専門教育プログラム「ASEAN発展論」(全4コマ)の場合

【反転授業】

[配信] 5月7日～

[内容] 20分の動画の視聴

- ・授業の目的、概要、授業計画と各時間のポイントの説明
- ・ASEAN地域の発展に関する基本情報の提供と問題提起
- ・課題と課題提出の指示

【対面授業】

[実施] 6月6日 2コマ 6月13日 2コマ

[内容]

- ・ASEAN地域の歴史的背景について解説
- ・提出課題を取り入れた説明と意見交流
- ・ASEAN地域の発展に関する基本情報の提供と問題提起

【復習】

[内容]

- ・個々の理解度に応じた反転授業や対面授業のビデオの視聴
- ・新たな問題や疑問点、課題の整理と学習のまとめ

研究方法

■ アンケート調査(5段階選択式)

- ・受講者について8項目、授業について4項目
- ・反転授業についての自由記述

■ インタビュー調査

■ データの収集と対象

- ・2015年4月～8月 本プログラム受講者23名

■ 受講科目と授業実施時期

- ・専門教育プログラム
 - ①4月 ②5月 ③6月 ④7月 ⑤7月 ⑥8月
- ・実践基礎教育プログラム
 - ①5月 ②8月

アンケート調査の項目

項目
問1. 授業を受けるにあたり授業に関する基礎的な知識があった。
問2. 授業を受けるにあたり書籍や情報を調べるなどして予習に取り組んだ。
問3. 反転授業は、対面授業を理解するのに役立った。
問4. 授業によく出席していた。
問5. 授業で学んだことについて書籍や情報を調べる等して復習に取り組んだ。
問6. 授業を受けて知的好奇心が刺激され、自分の意欲が高まった。
問7. 授業で既習知識やスキルを活用して課題について考えることができた。
問8. 他者との協働学習やディスカッションに積極的に参加することができた。
問9. 今後もこのような授業を受けて、さらに自分の能力を高めたい。
問10. 授業の内容や方法は自分のニーズに合致するものであった。
問11. 授業の難易度や進度は自分の理解を深めるのに適切であった。
問12. 授業は自分の業務に役立つものである。
問13. (反転授業についての自由記述)

結果と考察

アンケート調査結果

問3、問12
問13

インタビュー結果

アンケート調査結果(回答欄の上段肯定回答率、下段否定回答率)			
プログラム(コマ数)	有効回答 (人)	問3 (%)	問12 (%)
専門教育プログラム①(2コマ)	17	82.4	88.2
		0.0	5.9
実践基礎教育プログラム①(5コマ)	16	75.0	100.0
		0.0	0.0
専門教育プログラム②(5コマ)	20	30.0	90.0
		0.0	0.0
専門教育プログラム③(4コマ)	21	66.7	85.7
		0.0	4.8
専門教育プログラム④(2コマ)	18	44.4	61.1
		11.1	0.0
専門教育プログラム⑤(2コマ)	15	66.7	80.0
		0.0	0.0
専門教育プログラム⑥(2コマ)	14	83.3	88.9
		0.0	0.0
実践基礎教育プログラム②(4コマ)	15	77.8	88.9
		0.0	0.0

問13.反転授業についての自由記述
[肯定意見]
・授業の内容がイメージできて授業に入りやすい。
・事前に授業のポイントとなる調べものの課題をもらうことで内容について理解しやすかった。
・学習のねらいを反転授業で知ることによって、目的意識をもつことができた。
・反転授業は授業の意図や講師の雰囲気や大雑把に理解する上で参考になった。
・講師が何にポイントを置いて授業を進めようとするかは、心構えの上で大切な要素と思う。
・事前の授業視聴は学ぶ意識、姿勢を高めるためにも大変有効である。
・講義の概要について事前に認識できるのは理解向上に役立つ。
[否定意見]
・授業の大きなあらすじや流れをつかもうと思ったが反転内容と授業内容とが全て合致していなくて戸惑った。
・反転の内容と課題との連結性が薄いように感じた。
・自分の仕事に関係ない国(事柄)については興味をもって聞くことが難しい。

結果と考察 (1)
■アンケート調査の結果
➢ 問3:5段階選択式
→8科目中6科目 肯定意見66%以上 否定意見0%
⇒反転授業は対面授業の理解を深める
➢ 問13:自由記述
→学習のポイント、理解の向上 ⇒学習の目的意識
→心構え、イメージ、姿勢 ⇒学習の意味付け

結果と考察 (2)
■肯定意見の低い科目へのインタビュー調査の結果
→概念的な内容、多様な課題提示
→希薄な当事者意識
→反転授業と対面授業の関連性
↓
反転授業の効果
<学習の目的意識><学習の意味付け>という要因が作用している。

今後の課題
■個別インタビューによる反転授業に対する受講者の調査と分析
■学習の目的と意味付けを意識化させる仕掛けを取り入れた授業設計
■社会人の経験と知識が統合されるような授業(反転授業→対面授業の接続)設計と実践検証

参考文献
関西大学(2015)『海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム：中間成果報告書』
鈴木克明(2015)『研修設計マニュアルー人材育成のためのインストラクショナルデザインー』北大路書房
松下佳代(2015)『ディープ・アクティブラーニングー大学授業を深化させるためにー』
吉田新一郎(2006)『「学び」で組織は成長する』光文社新書

5

国内ヒアリング調査、プログラム開発、
成果発表報告

5-1 概 要

今年度は、前年度に引き続き国内における企業等へヒアリング調査を実施した。具体的には、東南アジアの経済情勢や経営者教育に関する情報収集である。また、プログラム開発に係る実務家教員との面談・リフレクション等を行った。今年度の教育研究成果については、学会等で発表を行った。以下、その概要を報告する。

5-2 目 的

プログラム全般の見直しと改善を図るために、業界団体や主にモニター企業である海外進出企業、公的機関等に対し、日本企業の海外進出の現状とその海外拠点の経営の状況、並びに海外赴任者に対する教育訓練等の実態を調査した。また、実務家教員の発掘及び実務家教員と協同してプログラムの開発・点検評価を行った。一方で、教育研究成果の発表を行い、プログラムの普及活動を積極的に展開した。

5-3 訪問先等

<訪問先等一覧>

	訪問日	テーマ	訪問先 / 開催場所	訪問者
1	4月1日（水）	社会人学び直しプログラムに関するモニター企業との打合せ	ミヨシ電子株式会社	宗岡 徹 西尾 三津子
2	4月6日（月）	平成26プログラム終了のご挨拶と来年度の打合せ	株式会社ヒラカワ	宗岡 徹
3	4月7日（火）	社会人学び直しプログラムのための打合せ	ローランド株式会社	宗岡 徹
4	4月13日（月）	モニター企業へご挨拶とプログラムの趣旨説明・	① 株式会社フクナガエンジニアリング ② 泉州電業株式会社	①宗岡 徹 ②西尾 三津子
5	4月14日（火）	新規モニター企業へのご挨拶と打合せ	株式会社三幸社	宗岡 徹
6	4月16日（木）	① 新規モニター企業へのご挨拶と打合せ ② 平成26プログラム終了のご挨拶とプログラムの趣旨説明	① オー・エム・シー株式会社 ② ウメトク株式会社	宗岡 徹
7	4月20日（月）～21日（火）	① モニター受講者面談 ② 出版社インタビュー ③ 優成監査法人打合せ ④ 実務家教員候補者との打合せ	① 東京センター ② 株式会社税務研究会 ③ 優成監査法人 ④ りそな総合研究所東京本社	①～④宗岡 徹 ④西尾 三津子
8	5月20日（水）	教育ITソリューションEXPO専門セミナー参加	東京ビッグサイト	宗岡 徹 西尾 三津子
9	6月11日（木）	平成26年度成果報告・取組状況・進捗状況の説明	① 日刊工業新聞社 大阪商工会議所	宗岡 徹
10	6月13日（土）	アメーバ経営学術研究会第5回シンポジウム	② 京都大学芝蘭会館	宗岡 徹
11	6月16日（火）～17日（水）	平成26年度成果報告の説明・意見交換と実務家教員との面談	① 日本自動車工業会 ② 優成監査法人 ③ 日本自動車部品工業会 りそな銀行東京本社	宗岡 徹

12	6月17日(水)	社会人学び直しプログラム・実務家教員候補者との面談	④ りそな銀行東京本社	西尾 三津子
13	6月18日(木)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	大阪府商工労働部	宗岡 徹
14	6月22日(月)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	ローランド株式会社	宗岡 徹
15	6月23日(火)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	泉州電業株式会社	宗岡 徹
16	6月27日(土)	平成27年度国際教育研究フォーラム夏季例会	京都女子大学	西尾 三津子
17	6月30日(火)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	共英製鋼株式会社本社	宗岡 徹
18	7月1日(水)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	日本貿易振興機構	宗岡 徹
19	7月2日(木)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	ダイネツ商事株式会社	宗岡 徹
20	7月6日(月)	① 平成26年度成果報告および教員候補者との面談 ② 平成26年度成果報告・取組状況説明と実務家教員候補者面談	① 株式会社りそな銀行本店 ② パナソニック株式会社	①宗岡 徹 ②西尾 三津子
21	7月7日(火)	平成26年度成果報告と実務家教員との面談	ダイハツ工業株式会社	宗岡 徹 西尾 三津子
22	7月10日(金)	りそなアジア・オセアニア財団セミナー	大阪商工会議所国際会議ホール	西尾 三津子
23	7月13日(月)	平成26年度成果報告・取組状況・進捗状況の説明	株式会社りそな銀行本店	宗岡 徹
24	7月17日(金)	JICAコラボセミナーに参加	グランフロント大阪	西尾 三津子
25	7月21日(火)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	関西経済連合会	宗岡 徹
26	7月27日(月)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	アイシン精機株式会社	宗岡 徹
27	7月28日(火)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	堺商工会議所	宗岡 徹
28	7月29日(水)	プログラム趣旨説明と実務家教員発掘	リロ・パナソニックエクセル インターナショナル	宗岡 徹 西尾 三津子
29	8月4日(火)	平成26年度成果報告と取組進捗状況の説明	株式会社デンソー	宗岡 徹
30	8月29日(土)	受講者インタビュー調査(東京会場)	関西大学東京センター	宗岡 徹
31	9月3日(木)	受講者インタビュー調査(浜松会場)	ローランド株式会社	宗岡 徹
32	10月7日(水)	実務家教員と授業設計の打ち合わせ	ダイハツ工業株式会社	宗岡 徹 西尾 三津子
33	10月18日(日)	日本教育メディア学会第22回年次大会発表	日本大学文理学部	宗岡 徹 西尾 三津子
34	10月26日(水)	社会人学び直しプログラム概要説明	株式会社マンダム	宗岡 徹
35	10月29日(木)	フィリピンビジネス研究会への参加	あべのハルカス	宗岡 徹
36	10月30日(金)	インドネシアビジネスサポートネットワーク発足記念セミナー参加	マイドーム大阪	宗岡 徹
37	3月3日(木)	H27秋学期講義のリフレクションのため	ダイハツ工業株式会社	西尾 三津子
38	3月8日(火)	H27年度秋学期「社会人学び直し」リフレクションと春学期授業の企画	関西大学東京センター	西尾 三津子
39	3月11日(金)	実務家教員との面談	一橋大学、一橋大学如水会館	西尾 三津子

5-4 実務家教員との授業開発・リフレクション等に係る打ち合わせ

5-4-1

日 時	2015年4月21日(火)
場 所	りそな総合研究所株式会社 東京本社
先方対応者	宮本 昭洋氏
訪 問 者	宗岡 徹 西尾 三津子

宮本氏は、インドネシア・りそなプルダニア銀行にて2012年まで代表取締役社長を務められ、その後、同銀行の顧問を経て、現在、日本やASEAN各地で経営者養成の講演をされている。2015年3月にインドネシアでヒアリングを行った際、本プログラムの実務家講師として招聘し、授業実践をしていただく依頼をしてきた。当日の打ち合わせでは、「銀行員からみた現地の落とし穴」という視点で、宮本氏が体験してこられた様々な問題事例とその対処法について聞かせていただき、それらを教材化するための手順や授業者の意図について意見交換をすることができた。

5-4-2

日 時	2015年6月17日(水)
場 所	株式会社りそな銀行 東京本社
先方対応者	宮本 昭洋氏
訪 問 者	宗岡 徹 西尾 三津子

宮本氏とは、4月の訪問以降、メール等で授業設計等についての連絡を継続してきた。当日は、授業設計に関する具体的な内容、反転授業や本授業の日程と計画について打ち合わせを行った。特に、経営者にとって必要な能力や意思決定の場面について、受講者に思考を促すためにもケーススタディを絞っていくようにした。宮本氏はインドネシアと日本の往復のため、授業日程の決定に制限があるが、ビデオなどを活用することで効果的な授業を構築していくことで合意をした。

また、宮本氏から、新たな実務家教員として、長年、ASEAN地域で経営に携わっておられた小沢氏や、白石氏についての情報を提供していただくことができた。

5-4-3

日 時	2015年7月29日(水)
場 所	リロ・パナソニックエクセルインターナショナル
先方対応者	西村 博昭氏
訪 問 者	宗岡 徹 西尾 三津子

リロ・パナソニックエクセルインターナショナル株式会社は、海外事業展開の際の人材派遣に関してサポートする会社である。特に、海外赴任前研修やグローバル要員研修においては実績もあり、階層別の研修体系が構築されている。西村氏から一般企業向け研修や海外赴任者向け研修の具体的な内容や期間等について説明を受け、その成果や課題について意見交換することができた。リロ(株)社が、海外派遣者に求める能力として、異文化理解やマーケティング力、プレゼンテーション力、及び、海外専門知識が挙げられている。本プログラムも既に実践しているものが多いが、その中で、発信力としてのプレゼンテーション力の必要性を見出すことができた。同時に、本プログラムの概要を説明し、今後の連携の可能性について話し合うことができた。

5-4-4

日 時	2015年10月7日(水)
場 所	ダイハツ工業株式会社
先方対応者	野本 隆氏
訪 問 者	宗岡 徹 西尾 三津子

野本氏は、ダイハツの特別顧問として、海外赴任前研修や階層別社内研修、ダイハツ関連子会社における管理職

研修の講師として活躍されている。

2015年3月のヒアリングで野本氏の研修スタイルを知り、本プログラムの実務家講師として招聘し、「海外子会社における経営者の役割」というテーマで、授業を提供していただくことになった。野本氏の研修スタイルは、講師が一方的に経験談を語り知識を伝達するだけではなく、受講者に当事者意識を持たせて考えさせるというものである。当日は、授業設計の概要説明の後、効果的な授業実践のための反転授業や協働学習のあり方について話し合うことができた。受講する各社の企業風土、企業文化をもとに、経営者としてどんな職場を作りたいか、どのような会社経営を進めたいかという点について、個人の考えをもとにグループで議論を深める授業展開を考えていくことができた。

5-4-5

日 時	2016年3月3日(木)
場 所	ダイハツ工業株式会社
先方対応者	野本 隆氏
訪 問 者	西尾 三津子

2016年1月9日に実施された科目「海外子会社における経営者の役割」について、授業後のリフレクションを行った。授業評価アンケートの集計結果をもとに、授業担当者である野本氏からプログラムの改善・開発に向けてコメントをいただいた。

受講者の評価は非常に高く、野本氏の提供する話題や示唆が受講者のニーズに適合し、受講者が個々の問題意識を高めながら授業に取り組んでいた様子がうかがえた。野本氏の授業は、即戦力として実務に役立つものであり、また、事業体の将来的な目標を達成するためにも重要な要素を含むものであった。野本氏からは、受講者の経験年数や職種の違いが大きかったため、授業の的を絞れなかったというコメントをいただいた。今後、講座の目標と内容、受講対象者の設定の仕方について検討していきたい。

5-4-6

日 時	2016年3月8日(火)
場 所	関西大学東京センター
先方対応者	宮本 昭洋氏
訪 問 者	西尾 三津子

2016年1月16日に終了した科目「海外子会社における経営者として必要な能力」について、授業後のリフレクションを行った。授業評価アンケートの集計結果をもとに、授業担当者である宮本氏から、プログラムの改善・開発に向けてコメントをいただいた。

本授業は、ビデオを活用した授業で、予め受講者の情報やニーズを把握した上で、講義内容にビデオを織り込みながら授業設計したものである。前半の2回の授業では、テーマに関するグループディスカッションを中心に、後半の2回は、受講者の学習活動について宮本氏がコメントし、グループにフィードバックして学習を深めていくものであった。受講者は、宮本氏からの的確なコメントに満足し、達成感を得ることができた。宮本氏からは、ビデオを活用した授業とスクーリング形式の授業との学習効果の差について検証してみたいという提案があった。今後、eラーニングを活用して授業に取り組む際の検討材料として活かしていきたい。

5-4-7

日 時	2016年3月11日(金)
場 所	一橋大学如水会館
先方対応者	永吉 賢吾氏
訪 問 者	西尾 三津子

永吉氏は、PT PETNESIA RESINDO 社長として、インドネシアに駐在し、その後、三井化学理事を経て東セロ常務取締役を務めておられた。インドネシアで経営者として活躍されていた際、取引があったりそなブルダニア銀行の宮本氏の紹介で、新たな実務家教員として宮本氏から推薦された方である。

当日は、本プログラムの趣旨と授業設計について説明をし、シラバスの表記の仕方や能力指標の捉え方に関し

て具体的な説明を行った。永吉氏は、会社経営者として優れた実績を持っておられるが、実務での経験を授業実践という形で提供したことがないため、授業内容や計画について共通理解を図るようにした。同時に、反転授業の内容や撮影の日程調整、本授業の具体的な計画について意見交換をすることができた。永吉氏のASEAN地域での経験と知見は、実践応用プログラムの開発・実証に有益なものであると考える。

5-5 東南アジアの経済情勢、経営者教育等に係る情報収集及び研究成果発表

5-5-1 教育ITソリューションEXPO専門セミナー

日 時	2015年5月20日(水)
場 所	東京ビッグサイト
参 加 者	宗岡 徹 西尾 三津子

Eラーニング用教材コンテンツや遠隔教育のための効果的な教育教材コンテンツについて複数企業から説明を受け、活用法等の体験を行った。その後、大野澄雄教授による「MOOCを活用した反転授業で理解UP」というセミナーに参加し、大学における反転授業の実施や成果、今後の課題について先進的な話を聞くことができた。反転授業は学生の意識改革に有効であるが、反転の内容や講義全体の中での位置付けを明確にすることが肝要であるという課題については、今後の取組にも活用できるものであると考える。学生を対象とした反転授業と社会人を対象とした反転授業との違いについて、学習への動機づけの観点でいくつかの示唆を得ることができた。

5-5-2 アメーバ経営学術研究会第5回シンポジウム参加

日 時	2015年6月13日(土)
場 所	京都大学芝蘭会館
参 加 者	宗岡 徹

京セラ稲盛氏の提唱するアメーバ経営に係る学術研究会において、複数の講師から、日本的経営に関する理論的あるいは実践的な研究発表が行われた。その中で、一橋大学の田中一弘教授は、石門心学以来の長い伝統を踏まえたうえで、明治時代の渋沢栄一と稲盛経営学との対比から、日本的経営の特質を抽出するという素晴らしい発表がなされた。そのため、当プログラムの「日本的経営思想の講師の候補として、田中教授をターゲットとすることとした。後日、田中教授とは伝手を伝って接触し、講義を行う了承を得た。

5-5-3 平成27年度国際教育研究フォーラム夏季例会

日 時	2015年6月27日(土)
場 所	京都女子大学B棟第一会議室
参 加 者	西尾 三津子

中国やトルコ、イラン等をフィールド調査した6人の研究者による発表を聞いた。その中で、中国の由志慎氏らの「大連理工大学における国際化の現状と課題」の発表では、海外インターンシップの事例についての紹介があった。日系企業が多く進出している中国の経済情勢に加えて、経営者としてどのような能力が必要とされているのかという点について質問を行った。同時に、本プログラムが実施しているASEANにおける経営者養成のための社会人教育についての概要を説明した。インドネシアやタイとの比較をふまえながら、中国における大学卒業後の進路や社会人教育の現状について、意見交流を行うことができた。

5-5-4 りそなアジア・オセアニア財団セミナー参加

日 時	2015年7月10日(金)
場 所	大阪商工会議所国際会議ホール
訪 問 者	西尾 三津子

りそなアジア・オセアニア財団セミナー「ASEAN経済共同体の時代を迎えて」というテーマに関して、ダイキン工業株式会社の峯野義博氏と政策研究大学院大学の白石隆学長の講演を聞くことができた。特に、東南アジアにおける政治経済の現状と見通し、企業経営のあり方や問題点についての見識を深め、本プログラムの教育内

容への活用の視点を得ることができた。

5-5-5 JICAコラボセミナー参加

日 時	2015年7月17日(金)
場 所	グランフロント大阪
訪 問 者	西尾 三津子

JICAが主催する「途上国進出企業活動事例勉強会」に参加し、海外で事業展開に取り組んでいる企業の活動事例を聞くことができた。その中で、マレーシアで中小企業海外展開支援を受けた阪神動力機械株式会社の事業展開における苦労や体験談を聞き、ASEANの中小企業間の支援事業や情報交換、連携の様相について確認することができた。

5-5-6 日本教育メディア学会

日 時	2015年10月18日(日)
場 所	日本大学文理学部
訪 問 者	宗岡 徹 西尾 三津子

本取組で開発した「社会人教育における反転授業の効果」について、当学会にて発表を行った。発表内容の詳細については、資料として添付している。社会人学び直しプログラムにおいて、反転授業を経験した受講者を対象に調査・分析した結果、反転授業の実施は、＜学習の目的意識＞と＜学習の意味付け＞という二点に効果をもたらすということを提言した。これは、社会人教育における反転授業の新たな学習モデルになる得ものであると考える。

発表内容に関して、社会人教育に携わる参加者や大学で反転授業を実施している教員から意見が出され、特に、反転授業の授業設計の意義や実践手順について、及び、社会人教育における学習の意味付けの仕方について議論がなされた。また、本プログラムへの参加費用や参加人数についての質問や、反転授業から対面授業への接続がうまくいった実践事例を紹介してほしいという依頼もあった。

5-5-7 フィリピンビジネス研究会

日 時	2015年10月29日(木)
場 所	あべのハルカス
訪 問 者	宗岡 徹

大阪府主催の日本とフィリピンの貿易・投資と文化交流を図る催しに参加した。日本からフィリピンに進出している企業の方と、在大阪フィリピン領事の公演があり、台風被害からの復興の状況と、フィリピンに係る貿易・投資と文化交流の状況等が把握できた。

5-5-8 インドネシアビジネスサポートネットワーク発足記念セミナー参加

日 時	2015年10月30日(金)
場 所	マイドーム大阪
訪 問 者	宗岡 徹

大阪府主催の日本とインドネシアの貿易・投資の促進を図る「インドネシアビジネスサポートネットワーク」発足セミナーに参加した。当ネットワークは、大阪府が肝いりで組織した、インドネシアに進出している企業とそれをサポートする現地と大阪の企業のネットワークで、今後インドネシアに進出予定の企業へのサポートを企図するものである。在大阪インドネシア領事等の講演が行われた。また、大阪府の紹介で、当ネットワークの幹事と知り合うことができた。

6

次年度の課題

本取組は、2014年度より2年半をかけて「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」の開発を行い、2016年度秋に「履修証明プログラム」として本格実施が計画されている。2014年度は、「高度な経営能力を有する人材の育成」を目的として、プログラム開発の初年次へ向けての仕組みを構築してきた。

昨年度の課題として、プログラムへの受講対象を明確にした講義内容の提供と検証、eラーニングを含む授業設計の効果検証や教育環境の整備、経験豊富な実務家教員の発掘が挙げられていた。これらの課題を念頭に、本年度は、事業内容の質の向上と全体的なプログラムの整備を目指し、事業の改善に向けて力を注いできた。その結果、本年度の評価活動・自己点検では、その成果が十分に評価されたと認識している。

以下、本年度の評価活動・自己点検をふまえ、この一年間を振り返るとともに、最終年度となる次年度の課題について考えたい。

1. 授業科目に関するカリキュラムの編成について

次年度春学期は、モニター受講期間として最終段階にあたる第4期となる。ここでは、プログラムの開始以降、まだ実施できていなかった授業科目の教育効果の測定を行う。その後、第1期から第4期までの試行期間の成果と課題をふまえ、カリキュラムのスコープとシーケンスについて見直しを図り、カリキュラム編成を多角的に推し進める。

次年度秋学期の本格実施に向けて、プログラム開発委員会やFD部会にてより一層の点検・評価を加えながら受講対象者の焦点化についての検討を行うとともに、教育プログラム全体の質を向上させていく。

2. 実務家教員を含む授業担当教員の募集について

試行期間に授業を担当した教員は、専門教育プログラムでは、14名の大学の教員であり、実践教育プログラムでは、4名の大学教員と7名の実務家教員である。実務家教員とは、海外事業体で実務に携わった元経営者や銀行の代表取締役を経験した方で、実践教育プログラムにおいて、実務的かつ実践的な内容の授業を提供する。受講者は、海外で問題に直面した際の経営者としての対処法や考え方の道筋について実務家教員から学び、経営者の視点というイメージを鮮明にすることができた。

今後は、実務家教員を含む授業担当者の層を厚くするためにも、授業担当教員の公募等を検討していく。

3. 産学官協働の連携について

当教育プログラムは、産学官連携の下でその開発が進められている。産業界(企業及び各種団体等)は、企業の具体的なニーズを背景に、プログラムの開発に向けて情報提供や広報活動への支援を行ってきている。また、大学は、大阪府の協力も得ながら、社会のニーズに合致した大学院レベルの教育を提供している。

最終年度に向けて、日本の親会社の経営層や経済団体、公的機関等の多様なニーズを質の高い教育プログラムに反映させるために、産学官協働の連携体制を一層強化していく。

海外子会社の経営を担う
人材を養成する
大学院教育プログラム

2015(平成27)年度 成果報告書



関西大学

様式第 15（無断複製等禁止の標記）

無断複製等禁止の標記について

委託業務に係る成果報告書の無断複製等の禁止の標記については、次によるものとする。

本報告書は、文部科学省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」委託費による委託業務として、学校法人関西大学が実施した平成 27 年度「海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。